

47/12

# 視話法

全

伊澤修二著

明治三十四年

發行所

大日本圖書株式會社



# 視話法

全

---

伊澤修二著

---

明治三十四年

發行所

大日本圖書株式會社

801.1 I 978A

序 文 I

視話法之論理及應用

序文

天地開闢以來，一大勢力ノ開展

ニヨリ，無生有生ノ品物ガ，生産死滅

轉變遷移進化退步ナド，幾千萬ノ境遇ヲ

シテ，自然淘汰ノ活劇ヲ演ジ來リテ，ユユニ

ク人トイヘル身體モ智能モモツトモマサリ

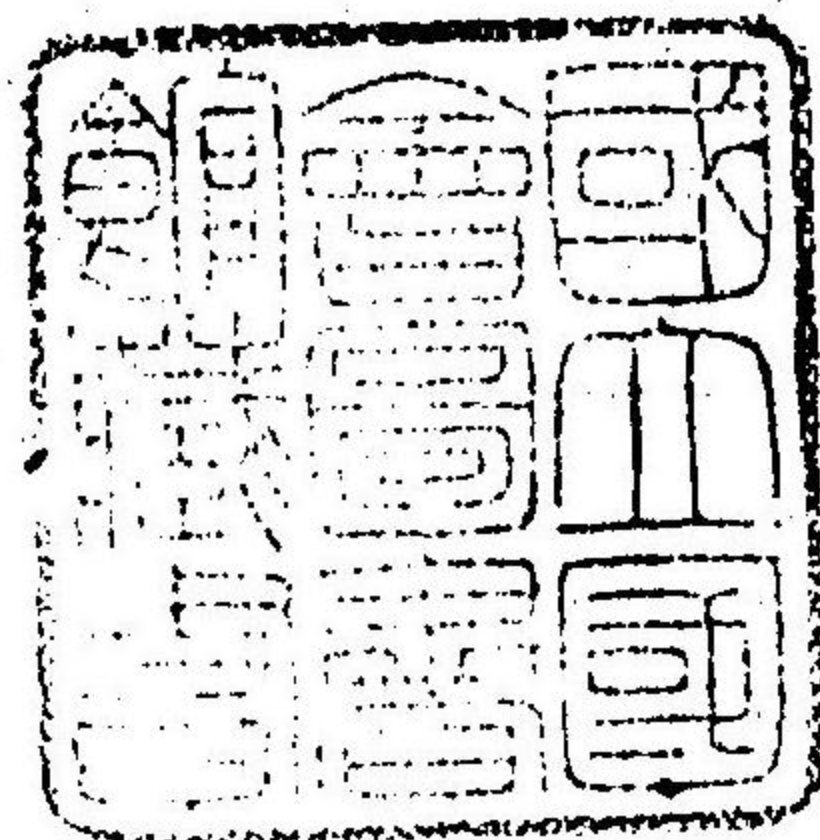
タルモノイデキタリ，シカモミヅカラ稱シテ萬物

ノ靈トイヘルマデニナレリシハ，ゲニ奇妙トヤ

イフベキ，不思議トヤイフベキ。

モシ奇妙トイハバ奇妙ナラン，不思議トイ

ハバ不思議ナランモ，彼ガ優勝劣敗ノ競争



337184

場裏ニ、ヨク勝者ノ地位ヲシメタリシ一大

原因ハ、他ノ動物ニハ眞似モナシエヌ

武器ヲモテルニヨレリ。

何ゾ。彼ガ口

自由ニ使用スル言葉トイフモノナリ。

彼ハコノ言葉ノ助ニヨリテ、同類互

意思ヲ交換シ、智慧ヲヒラキ經驗ヲ

ツミ、ツヒニコレヲ子子孫孫ニツタヘテ、今日

人類ノ地位ヲタカムルコトヲナシ

エシナリ。

人類特有ノ武器ニシテ、

日月星辰モ、陰陽五行

神秘ヲタモツアタハズ、禽獸モ、蟲魚

抵抗力ヲウシナヒテ、ツヒニ彼ニ

萬物ノ靈タルヲユルスニイタルモノ

ナレバ、コレヲ使用スル社會ニアリテモ、ソノ

精銳ナルヲモチヒテタカフモノハ、

將來地球上ニテモツトモ優勝ナル地位ヲ

疑ナカルベシ。サテソノ精銳ト

他ニアラズ。タゞ人類ノ發音ヲ

正確ニアラハシ、タヤスク同類ニ理解セシメ、

世界ニ傳播セシムルノ法ヲウルチイフ

ノミ。

世界ニテ人類

何 國 語 音, スナハチ 言 葉 ナ アラハス タメニ  
 發 明 セラレタル 符 號 マタハ 文 字 ノ 中, モツトモ  
 道 理 ニ カナヒ, モツトモ 正 確ニ 發 音 ナ アラハシ,  
 理 解 シヤスク, マナビヤスキ 方 法  
 實ニ 萬 國 普 通 音 字 ノ 名ニ  
 我 ガ, 多 年 ヲノ 法  
 研 究 シ, コレニ ヨリテ, ワガ 國 言 葉 ナ  
 カキアラハシ, マタ 英 語 ソノ 他ノ 外 國 語 ナモ,  
 助ニ ヨリテ, マナビウル 方 法 ナ マウケタル  
 ハ, 言 靈 ノ サカユル テフ ワガ 國 言 葉 ノ 魂  
 ナバ, ヲノ 武 器 ノ 内ニ コメテ, マヅ 第 一ニ  
 國 音 ノ 訛リ ナ ウチ タヒラゲ, ススンデ 他ノ

國 言 葉 ノ 困 難ニモ ウチカタマシトノ 微 意ニ  
 外 ナラズ。 アハレ コノ 書 ナ ヲマン 人 人ニ  
 ヲソ 心 シテ ヲミタマヘ。  
 終ニ ノゾミテ, ワガ 恩 師 タル アレキザンダ  
 グラデムズル 君, 并ニ ソノ 父 君 タリ, コノ  
 法 ノ 發 明 者 タル ズル 君ニ 謹 謝 ス,  
 君 等 父 子 ガ, ヲノ 法 ナ 發 明 シ, カツ コレ ナ  
 我ニ ツタヘラレタル ハ, カツテ 西 洋 人 ガ, 銳 利  
 ナル 銃 砲 ナツタヘシ ヲリ, ワガ 戰 術ニ 改 革  
 ナリ, ツヒニ 明 治 二 十 七 年 ノ 日 清  
 戰 役, オヨビ 今 年 ノ 北 清 事 件ニ イタリ, ソノ  
 結 果 ナ ワガ 軍 隊 ノ 武 勇ニ アラハシテ, 世 界 列

國ヲオドロカセシゴトク、ユノ貴重ナル傳授ニ  
 ヨリ、將來世界ノ國語ノ競争場裡ニ、ワガ  
 國言葉ノ靈光ヲアラハス時アランカ、コレ  
 我ガ、兩君ノ惠ニ、イササカ報ジタルモノ  
 ト諒認セラレンコトヲ。

明治三十三年十一月、

著者 シルス。

# 視話法ノ理論及應用

## 目次

緒言。.....101  
 視話法トハ、何ゾヤ。.....1  
 視話法ハ、何ノ用ヲ爲スカ。.....2  
 此法ヲ發明セシハ、何人ナルカ。.....8  
 本邦ニ、視話法ヲ傳來セシ概略。.....11  
 視話法音字ノ構造及名稱。.....16  
 父音(通例子韻ト稱ス)ノ部。.....16  
 父音字構造ノ理。.....18  
 普通父音表。.....20  
 父音字ノ種類及名稱。.....20  
 母韻ノ部。.....26  
 母韻字構造ノ理。.....26  
 普通母韻表。.....30  
 母韻字ノ種類及名稱。.....30  
 日本音韻。.....34  
 豫備練習。.....34

母韻ノ部。.....	35頁
日本母韻表。.....	37
五個ノ母韻ノ説明。.....	37
父音及子音ノ部。.....	43
日本父音表。.....	44
(甲) 唇音。.....	44
(乙) 舌頭音。.....	48
(丙) 舌上音。.....	52
(丁) 舌本音。.....	54
(戊) 喉音。.....	56
拗音ノ部。.....	57
(甲) 唇舌上音。.....	57
(乙) 舌頭舌上音。.....	60
(丙) 舌本舌上音。.....	62
五十音及拗音ノ辨。.....	63
舊來ノ行ニ從ヒテ純雜ヲ辨ズ。.....	63
五十音。.....	64
濁音。.....	65

次清音。.....	65頁
拗音。.....	66
音ノ順雜ヲ分チ其行ヲ正ス。.....	66
清音。.....	68
濁音。.....	69
次清音。.....	69
拗音。.....	69
音ノ有聲ト無聲トニ從テ分類ス。.....	70
清音。.....	70
濁音。.....	71
清拗音。.....	72
濁拗音。.....	72
日本音韻ノ統合。.....	72
日本音韻統合一覽。.....	73
母韻。五。.....	73
子音。七十一。.....	73
唇音。.....	73
舌頭音。.....	73
舌上音。.....	74



舌本音。……………	74頁
喉音。……………	74
拗音。三十五。……………	74
唇舌上音。……………	74
舌頭舌上音。……………	75
舌本舌上音。……………	75
<b>英國音韻。……………</b>	<b>76</b>
<b>母韻ノ部。……………</b>	<b>76</b>
英國母韻表。……………	77
日本及英國母韻對照表。……………	80
英國母韻ヲ表記スル新式假字ノ 說明。……………	80
英國母韻ノ說明。……………	80
英國重韻ノ說明。……………	80
英國母韻ヲ表スル視話法音字、新 式假字記法及通常發音記號對照 表。……………	82
<b>父音ノ部。……………</b>	<b>93</b>
英國父音表。……………	95

我父音ト異ナル英國父音ノ說明。……………	95頁
英國父音ヲ表スル視話法音字ノ 新式假字記法及通常發音記號對 照表。……………	99
<b>日本人ノ、英語ヲ學習スルニ視 話法ヲ應用スルノ例。……………</b>	<b>100</b>
新式假字法ニテ英語ノ父音子音 及母韻ヲ記スル心得。五則。……………	101
學習ノ實例。十二課。……………	103
簡易新式假字記法。……………	111
例解。十二課。……………	112
<b>方音ノ訛ヲ矯正スルニ、視話法 應用スルノ例。……………</b>	<b>116</b>
方音ノ訛ノ生ズル原因。……………	116
矯正ノ方法。……………	117
口形及軟蓋ノ練習。……………	118
青森縣教員ニ傳習セシ由來及成 蹟。……………	123
東北地方ノ訛音表。……………	127

某讀本ノ視話法譯例。……………	129頁
聾啞ノ發音教授ニ、視話法ヲ應 用スルノ例。……………	132
發音教授ノ順序及方法ノ概説。…	133
母韻ニ關スル事。……………	134
子音ニ關スル事。……………	135
子音教課。十三。附注意。…	137
音勢ニ關スル事……………	142
此慈仁貴重ナル業務ニ志ス人 ニ忠告……………	142

目次畢

## 視話法ノ理論及應用

伊澤修二著

### 緒言

視話法トハ、何ゾヤ。視話法トハ、人類發音ノ理ヲ攻究シテ、人體中特ニ發音ニ關スル諸器、即チ發音器ノ位置ニ基ヅキ、若干ノ音字ノ原子ヲ作り、之ヲ結合シテ、各種ノ音韻ヲ表明記載スル所ノ學術ナリ。之ヲ視話法ト稱スル所以ハ、斯ノ如ク原子ヲ結合シテ作りタル音字ヲ見ル時ハ、一目ノ下、明ニ其發スル音韻ノ何タルヲ知り得ル故ナリ。又一ニ之ヲ萬國普通音字學ト稱ス。其所以ハ、此音字ニヨルトキハ、世界何レノ國語ノ音韻ニテモ悉ク記シ得ルヲ以テナリ。又或ハ之ヲ生理的音字學ト云フ。其理由ハ、モトモト音字ヲ製作スルハ、

生理上ノ原理ニ準據シ來レルニヨルナリ。

視話法ハ何ノ用ヲ爲スカ。

第一。一定ノ國語ニ一定ノ標準音ヲ確立ス。

何レノ國ニ於テモ、ソノ國語ニ標準音ヲ定ムルノ必要ナルハ、言ヲ俟タザルトコロニシテ、内國ニ於ケル百般ノ業務ニモ、外國ニ對スル諸般ノ關係ニモ、標準音ノ確立ハ、最モ必要ナルコトニシテ、一度此音字法ニ依リテ標準音ヲ定ムル時ハ、社會上ニモ、政治上ニモ、又ハ學術上ニモ、ソノ益ヲ及ボスコト頗ル大ナルベシ。

第二。言語ノ轉訛ヲ矯メ、其習僻ヲ正ス。

凡ソ言語ハ、自然ノ轉訛ヲ來スヲ免レザルモノニシテ、之ガ矯正ヲ計ラザレバ、遂ニ一國ノ中ニテモ、東西兩隅ノ人ノ如キ、殆ド互ニ談話スル能ハザルニ至ルモノナリ。又人々ノ言語ニハ、自ラ固有ノ習僻アリ、其鄙

野ナルモノニ至リテハ、爲ニ品格ヲ損ジ、言論ノ價值ヲ卑クスルガ如キコト尠ナカラズ。且吃リノ如キニ至リテハ、最モ人ノ品格ヲ損ジ、他ノ尊敬ヲ得ル能ハズ。凡ベテ斯ノ類ノ轉訛及習僻ヲ正スハ、此音字法ニヨリテ、言語構成ノ理法ヲ研究シ、能ク之ヲ實際ニ適用スルニ非レバ、ソノ目的ヲ達スルコト能ハザルベシ。

第三。方言ヲ研究、比較及保存シ、且廣ク言語ノ系統ヲ究明ス。

方言ノ研究及比較ハ、國語學上最モ大切ナルコトニシテ、言語ノ系統ヲ繹キ、其進化ノ理法ヲ明ニスルハ、此研究ニ若クモノナシ。然ルニ方言ハ、交通ノ利便開クルト共ニ其區域ヲ狹メ、遂ニ消滅ニ歸スルモノナレバ、之ガ保存ニ注意セザル可ラズ。而シテ發音ノ細微ノ點マデモ能ク記シ得ルモノハ、視話法ヲ措テ他ニ求ム可ラザレバ、方言研究ノ目的ヲ達センニハ、必ズ此法ヲ用非ザ

ルヲ得ズ。古來音韻學者及言語學者ガ、比較語學ノ上ニ、非常ノ艱苦ヲ感じタルハ、世界普通ノ音字ノ缺ケタルニヨリシガ、今ヤ歐洲諸國ニ於テハ、此法ヲ適用シテ、比較言語學ノ上ニ大ナル利便ヲ得ルニ至レリト云フ。

#### 第四。外國語ヲ學ブ者ニ、正確ナル發音ヲ傳習ス。

世ノ文明ノ進ムト共ニ、外國語ノ學習ハ、日ニ益々其切要ヲ感ズル所ナレバ、多數ノ外國語ヲ學ブニ於テ、最モ困難ヲ感ズルハ、正確ナル發音ヲ習得スルニアリ。然ルニ此法ニヨリテ學ブ時ハ、最モ少キ勞力ニ依リテ、最モ多クノ國語ニ習熟スルヲ得ベシ。又政治ノ視察、地理ノ探究、商業ノ擴張、宗教ノ普及等ノ如キ、凡ソ外國トノ關係ニ就キテハ、此法ニヨリテ、外國ノ語音ヲ其マ、正シク留記スルコトヲ得バ、其利便甚ダ大ナルベシ。

#### 第五。遠隔ナル殖民地ニ、速ニ母國語ヲ廣布セシム。

言語及文字ヲ異ニセル殖民地ニ、母國語ヲ廣布スルニハ、此法ノ如ク自他ノ語音ヲ寫スニ最モ便利ニシテ、且學ビ易キ文字ヲ用井ルヲ妙トス。而シテ又其殖民地固有ノ語ヲ、母國人ガ學習スルニ於テモ、此法ニ依ル時ハ、如何ニ野蠻ノ語ト雖モ、容易ク留記シ得ルヲ以テ、土言傳習上ノ便益ヲ得ルコト、亦少カラザルベシ。

#### 第六。世界萬國ニ共通セル方法ヲ以テ、各種ノ音韻ヲ寫シ、遂ニ世界普通語ノ成立ヲ期シ得ルニ至ラシム。

此法ノ如キ、字形自ラ其發音ヲ解釋シ得ルガ如キモノ、助クニ依ルニ非レバ、世界普通語ノ成立ノ如キハ、到底望ム可ラザルコトナラン。若シ此法ノ、廣ク世ニ採用セラレ、ニ於テハ、古來哲學者ノ夢ミタル世界普通語モ、將來一日ソノ實行ヲ見ルニ至ラ

ンモ測ル可ラズ。此ニ一度人類一致ノ語音ノ基礎成立セバ、宇宙語塔ノ、其上ニ建テラル、ノ日モ、亦到達スルニ庶幾カラン乎。

第七。世界中、如何ナル國語ニテモ、翻譯ヲ經ズシテ、各國間ニ電信ヲ通ズルコトヲ得。

視話法音字ハ、假令ヒ遽ニ今世ニ行ハルル所ノ文字ニ代用スルヲ得ズトスルモ、先ツ世界共通ノ交際ニ於テハ、之ヲ採用スルヲ妙トスベシ。殊ニ電信ノ如キニ至リテハ、各國ノ用字異ナルガ爲ニ、常ニ翻譯ノ勞ヲ假ラザレバ、ソノ儘原語ヲ通信ス可ラザルモノ少シトセズ。從來羅馬字ヲ以テ、世界共通ノ目的ヲ達セント企テシ事、屢アリシカドモ、其文字ノ表出シ得ベキ發音ノ區域甚狹少ニシテ、遂ニ其目的ヲ達スルコト能ハザリキ。此點ニ於テハ、視話法音字ノ、羅馬字ニ優レルコト、固ヨリ論ヲ俟タザル可シ。

第八。聾啞ニ、談話スルコトヲ教フ。

此法ノ發明以來、諸國ニ於テ其原理ヲ、聾啞教育ニ適用シ、今ヤ非常ニ好成績ヲ奏シタルハ、顯著ナル事實ニシテ、更ニ贅辯ヲ費スヲ用非ザルベシ。聾啞ハ、モト聽官ノ缺ケタルノミニシテ、發音ニ關スル諸器ハ、固ヨリ完備シ居ルコトナレバ、之ヲ訓練シテ、先ツ視官ヲ以テ、聽官ニ代用セシメ、遂ニ各音器ニ屬セル筋肉ノ感覺ヲ銳敏ナラシメ、恰モ盲人ノ、視官ニ代フルニ觸官ヲ以テスルガ如キニ至ラシムルキハ、全ク常人ト異ナル所ナク、互ニ談話シ得ルニ至ルモノ、ソノ例攷擧ニ違アラズ。是レ此法ノ、聾啞教育ニ適用セラレテ、特効ヲ奏セシ所以ナリ。

第九。世界各國ノ文盲者ヲシテ、僅々數週間ノ傳習ニヨリ、自國語ヲ讀ミ且書クコトヲ得シム。

此法ニ依ルトキハ、日常談話ノ發音ヲ、直ニ文字ニ描シ得ルヲ以テ、如何ナル文盲者ト雖モ、一度之ガ傳習ヲ受クル時ハ、直ニ已

レガ思想ヲ記シ、又他人ノ記シタル思想ヲ解スルコトヲ得ベシ。殊ニ此法タル、自然ノ理法ニ合ヒ、最モ學ビ易キモノナレバ、世界無數ノ文盲者ヲシテ、僅少ノ勤勞ニ依リテ、速ニ讀ミ書キニ熟スルヲ得シメ、因リテ以テ一般ニ智德ノ發達ヲ増進シ、國家及社會ニ利センコト、蓋シ偉大ナルモノアラン。

此法ヲ發明セシハ、誰ナルカ。此法ヲ發明セシハ、大英國、蘇格蘭土ノ人、あれきざんだ一、めるびる、べるトイフ人ナリ。此人ハ、能辯學者ニシテ、啞子吃子杯ノ發音ヲ研究セシ人ナルガ、千八百四十九年頃ヨリ、世界普通ノ音字ヲ工夫センコトヲ心掛ケ、千八百六十年、歐羅巴諸國ノ語學者、奧地利ノ首府維納ニ、萬國普通文字制定會ニ列シ、三週日ニシテ、終ニ其記號ノ無數ナルヲ發見シ、到底成ス可ラザルモノト決シ、散會セシガ、當時獨逸ニテハ、唇讀ミト云フコト行ハレ始メタルヲ見テ、此會ヨリ歸リ、一層奮勵シテ、發音器ノ符牒ヲ工夫シ、

之ヲ結合シテ、音字ヲ大成シ、其適用ノ正確ニシテ、他ニ其比類ヲ見ザル程ノ成績ヲ得テ、大ニ世人ヲ驚カシメタリ。當時べる氏ガ、公衆ヲ感動セシメタル方法ハ、最初ニ先ツ我ニ子ニ其法ヲ傳習シ置キ、言語學者、其他種々ノ學者ヲ集メ、彼等ヲシテ、英國語ハ勿論、ソノ訛音及すこち、うゑるし等ノ土音、又ハ他ノ歐洲諸國ノ頗ル混化セル諸音、又ハあらびや、あふりが、あじあ等ノ國語ニシテ、曾テ世人ノ知ラザルガ如キ、至難ノ音韻ヲ發セシメ、直ニ之ヲ聞キ取りテ、べる氏自ラ其音字ニテ記シ了リ、其二子ヲ他室ニ入レテ、曾テ之ヲ見セシメズ、突然講堂ニ伴ヒ來リテ、ソノ困難ナル發音ヲ寫セルモノヲ讀マシメシニ、彼等ハ僅ニ五週間、父ヨリ此法ヲ傳習セシノミナリト云フニ拘ラズ、一厘一毫ノ誤リモナク、曾テ知ラザル國語ヲ悉ク正確ニ讀ミ了リ、來聽者ヲシテ、大ニ驚嘆セシメタリトイフ。其中ニモ英國ノ帝室學術會ノ長老タルえりす氏ノ如キハ、自ラべる

氏ト反對ノ位置ニ立チ、一種ノ音字發明中ナリシニモ拘ハラズ、べる氏ノ視話法ノ講説ヲ聞キ、彼ノ方法ハ、實ニ我方法ニ優レルコト遠シトテ、頗ル賞讃ノ辭ヲ與ヘタリト云フ。斯ノ如クシテ、此方法ハ、漸次世人ノ知ルトコロトナリタレバ、べる氏ハ、一千八百六十七年ニ至リ、英國政府ニ請願シ、此法ヲ世界人類ノ自由ノ共用ニ附センガ爲、其政府ニ於テ、視話法音字ノ字母ヲ鑄造スルノ費用ヲ供シ、且ツ其方法ヲ記述セル書物多數ヲ出版シ、之ヲ弘布スルノ費用ヲ支出セラレンコトヲ申シ出セリ。政府ニ於テハ、詮議ノ末、此ノ如キ請求ヲ取扱フベキ官署ナシトテ、遂ニ之ヲ却下セリ。是ニ於テ、べる氏ハ、最後ノ手段トシテ、特ニ若干ノ資金ヲ下附セラレンコトヲ、時ノ總理大臣でるび一卿ニ申請セシモ、之亦斯ル事業ノ爲ニ下附スベキ資金ナシトテ、ソノ祕書官たるぼと氏ノ手ヲ經テ、謝絶セラレタリ。其後べる氏ハ、快々トシテ樂マズ、生國英吉利ヲ去テ、米國

ノかなだニ移リ、此ニ於テモ亦多數ノ啞子ヲ集メテ、其教授ニ餘念ナカリキ。余ガ、此法ヲ學ビシハ、彼ノべる氏ノ子タルあれきざんだーぐら一むべる氏ニシテ、後電話器ノ發明者トシテ世界ニ名ヲ知ラレタル人ナリ。今其來歴ノ大躰ヲ述ベン。

本邦ニ、視話法傳來ノ概略。此ノ概説ヲナスニ先ダチテ、少シク余ガ青年ノ頃、英語學ニ志シタル顛末ヲ述ブル事ヲ許サレヨ。余ガ、初メテ横文字ヲ學ビシハ、十八歳ノ時ニシテ、京都ニ於テ、或ル醫師ノ塾ニ就キ、がらんまちかノ譯讀ヲ爲シタルニ初マリ、其後東京ニ出デ、今日ノ所謂正則的ノ英語ヲ學バントセシニ、當時其語ニ通ゼル人ハ、甚ダ少クシテ、其師ヲ得ルノ道ナカリシカバ、止ムヲ得ズ變則的ノ英語ヲ學ビタリ。其後、或ハ英語ヲ能クスル日本人、又ハ英人、米人等ニ就キテ、發音ヲ學ビタレトモ、一度變則的ニ學ビタル餘習ハ、容易ニ脱却スル能ハズ。故ニ數年ノ後、米國ニ留學

セシ頃ニ至リテモ、其發音、甚ダ正確ヲ缺キ、爲  
 ニ米人ト自由ニ談話スルヲ得ズ、常ニ遺憾ト  
 シタリシガ、千八百七十八年、米國ノひらでる  
 ひあ府ニ、百年期萬國博覽會ノ開カレタルト  
 キ、會場中ま、さち。一せ。つ州ノ教育部ニツキテ  
 閱覽セシニ、一種異様ノ字形ヲ記セル掛圖ア  
 ルヲ見、ソノ何タルヲ委員ニ問ヒシニ、之ハ、啞  
 子ニ英語ヲ教ユルノ方法ヲ示セルモノナリ  
 ト答ヘタリ。依リテ、ソノ發明者ヲ問ヒタルニ、  
 ぼすとん府ニ、あれきざんだーぐらーむべる  
 トイフ人アリ、常ニ此法ヲ傳習シ居レバ、往テ  
 聞カルベシト教ヘラレキ。依テ惟フニ、我東洋  
 ノ極端ニ生レ、中年ニシテ英語ヲ學ビタルガ  
 爲メ、常ニ其發音ノ不十分ナルヲ憾ミトセシ  
 ガ、今當國ニハ、啞子ニ英語ヲ授クル人アリト  
 聞ク、啞子ニシテ英語ヲ學ビ得ベクンバ、我東  
 洋人ト雖モ、何ゾ啞子ニダモ如カザルコトア  
 ランヤ。速ニべる氏ニ就テ、其意ヲ通ズルニ如  
 カズト決心シ、匆々旅裝ヲ整ヘテ、ぼすとんニ

至リ、一日べる氏ヲ訪ヒテ、ソノ志望ヲ告ゲシ  
 ニ、べる氏ハ、大ニ喜ンデ之ヲ諾シ、余ヲシテ或  
 ル讀本ノ二三節ヲ讀マシメ、直ニ視話法音字  
 ナ以テ、其發音ヲ記シ終リ、べる氏自ラ其寫シ  
 取シ音字ニ依リ、我發音ノ如ク讀過セリ。而シ  
 テ彼レ更ニ正確ナル英音ヲ以テ、同文ヲ讀ミ  
 了リ、余ヲシテ、之ヲ靜聽セシメ、然ル後、又視話  
 法音字ヲ以テ之ヲ記シ、前ニ余ガ發音ヲ寫セ  
 ル音字ト、兩々相對シテ比照セシニ、何ゾ計ラ  
 ン、余ガ、英語トシテ發セシトコロノ語音ハ、英  
 語ニモアラズ、日本語ニモアラズ、一種異様ノ  
 音韻ナリシコト、恰カモ明鏡ニ照シテ、醜妍ヲ  
 分タレシガ如クナラントハ。コヽニ於テ、余益  
 々コノ法ノ、外國語ヲ學習スルニ必要ナルヲ  
 感ジ、遂ニ同氏ニ就テ、其直傳ヲ受ケ、數週間ノ  
 後、不十分ナガラモ、マツ米人ニ會得シ得ラル  
 ハ、ガ如ク、眞個ノ英語音ヲ發シ得ルニ至レリ。  
 ソレヨリ、進デ我國語ノ音韻ヲ、視話法音字ニ  
 ヨリテ記スルコトヲ研究シ、之亦一般ノ基礎



トナルベキ部分ヲバ習了スルコトヲ得タリキ。

明治十一年、余歸朝ノ後、或ル教育會ニ臨ミ、心理學ニ於テ五官教養ノ説ヲ講述セシ時、視官ヲ以テ聽官ニ代用スルノ一例トシテ、啞子ニ發音ヲ教授スルハ、全ク此法ニ依レルコトヲ証明シ、其餘論トシテ、モシ適當ノ啞子アラバ、我喜ンデ、之ニ發音ヲ教授セントノ意ヲ洩シタレバ、其會員中ノ或ル人ヨリ、一啞子ヲ余ニ紹介シ來レリ。其者ハ、箱館ノ生レニシテ、名ヲ堺熊次郎トイヒ、十八九歳ノ少年ナリシガ、直ニ余ニ就キ、視話法ニ依リテ、發音ヲ傳習シ、僅々一週間餘ノ後、五十音ヲ略ボ習了シ、二三週間ノ後ニハ、簡單ナル言語ヲ發シ得ルニ至レリ。然ルニ此者ハ、不幸ニシテ夭折セリ。其後、余ガ、啞子ニ發音ヲ傳習セシハ、吉川金造トイフ横濱生レノ少年ニシテ、當時小西信八氏ガ、新ニ東京盲啞學校幹事ニ任ゼラレシ際ナリシカバ、日々吉川ヲ同伴シ來リテ、余ニ視話法

ノ傳習ヲ受ケツ、吉川ニ發音ヲ學バシメタリシガ、是亦數週間ノ後、一通リ五十音ヲ習了シ、其後時々ノ教授ニ依リ、略ボ普通ノ談話ヲ爲シ得ルニ至リ、今ニ東京盲啞學校ノ助手トシテ在勤セリ。是レ余ガ啞子ニ、發音法ヲ傳ヘシ概略ナリ。

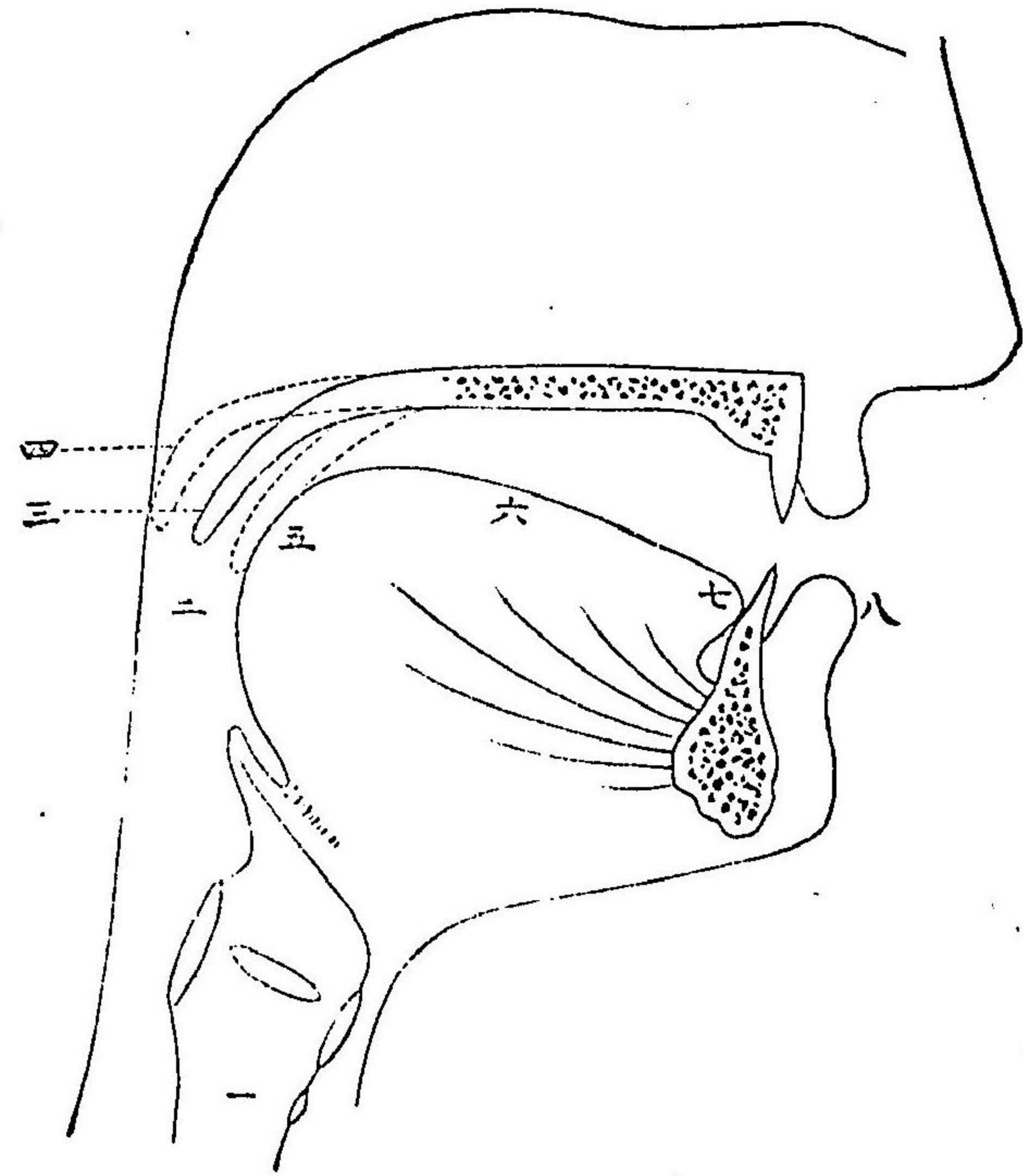
爾來二十餘年間ノ努力ニ依リ、我國語ノ音韻ト外國語ノ音韻トノ比較研究モ、一通リ終了シタレバ、此ニ之ヲ公行シテ、世ノ識者ニ質スコトトセリ。猶不十分ノ點ハ、再版ノ時ヲ待チテ、更ニ訂正スルコトトセン。

## 視話法音字ノ構造及名稱。

### 父音(通例子韻ト稱ス)ノ部。

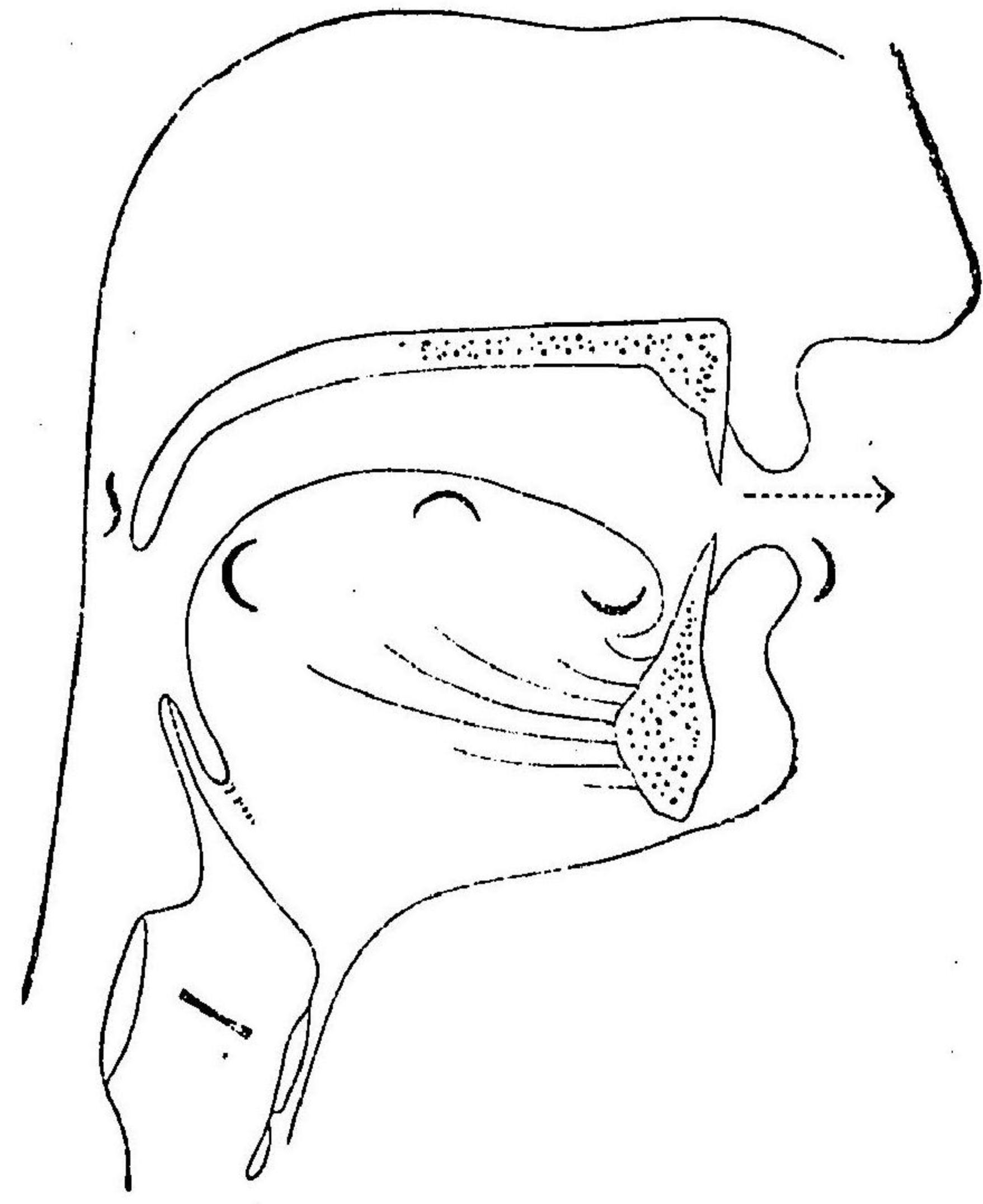
人ノ音聲ハ、氣息ガ肺ヨリ發シテ、口外ニ出ル間ニ通過スル所ノ腔内ノ諸種ノ機器ニ觸

第一圖



レテ發生スルモノナレバ、先ヅ其機器ノ位置ト開閉等ノ模様ヲ知ラザル可ラズ。上ノ略圖ハ、人ノ顔ヲ正中ヨリ縦ニ剖キテ、之ヲ右方ニ向ケタル圖ニシテ、内部ノ機器ヲ明ニ示シタルモノナレバ、之ニヨリテ、其要略ヲ悟ルベシ。上圖中ノ(一)ハ喉頭、(二)ハ咽頭、(三)ハ軟口蓋、(四)ハ軟口蓋ガ上部ニ附着シテ、鼻腔ノ通口ヲ閉ヂタルモノ、(五)ハ舌ノ後部、即チ舌本、(六)ハ、舌ノ上部、即チ舌上、(七)ハ、舌ノサキ、即チ舌頭、(八)ハ、唇ナリ。此等ノ機器ハ、皆テ發音ニ要用ナルモノナレバ、之ヲ概稱シテ、音器ト云フ。視話法音字ハ、此略圖ニヨリ、各音器ノ形狀及位置ニ基キテ作レルモノナレバ、之ヲ理解シ、且記憶スルコト甚ダ容易ナリ。即チ第二圖ニ照ラシテ知ルベシ。

圖 二 第



I C O U J I A  
ca

上圖中、(1)ハ、喉頭ニアル聲帶ガ緊張シテ、殆  
ド一直線ノ如クナリタルニ象レルモノニ  
シテ、即チ聲トス。其理由ハ、聲帶ガ、斯クノ如  
キ形狀ニ至ルキハ、始メテ其顫動ニ依リテ、  
聲ヲ發シ得ルニヨル。(C)ハ、舌本ニ象リ、(O)ハ、  
舌上ニ象リ、(U)ハ、舌頭ニ象リ、(J)ハ、唇ニ象リ  
タルコト、一目ノ下、自ラ瞭然タルベシ。而シ  
テ(1)ハ、軟口蓋ノ垂下セルニ象レルモノナ  
ルガ、通俗ニハ、之ヲ鼻トス。其故ハ、軟口蓋垂  
下スルキハ、音聲ガ、鼻腔ヲ通ジテ出ルヲ以  
テナリ。(A)ハ、息ヲ吹き出スニ象リ、(C)ハ、某音  
器ノ局部收合シテ、中心ニ小孔ヲ開キタル  
ニ象レルモノニシテ、之ヲ開ト稱ス。(a)ハ、某  
音器ノ局部、全ク閉ヂタルヲ形容セルモノ  
ニシテ、閉ト稱ス。

之ヨリ進デ各音字ノ構造結合及其名稱ヲ  
説明セン

### 普通父音表

		聲孔ノ形狀										聲孔ノ形狀			
		開				閉				分割		複開		合分割	
		開	開	開	開	閉	閉	閉	閉	分割	分割	開	開	分割	分割
諸音器ノ位置	唇	ㄐ	ㄑ	ㄒ	ㄓ	ㄔ	ㄕ	ㄖ	ㄗ	ㄘ	ㄙ	ㄐ	ㄑ	ㄒ	ㄓ
	舌頭	ㄔ	ㄕ	ㄖ	ㄗ	ㄘ	ㄙ	ㄚ	ㄛ	ㄜ	ㄝ	ㄖ	ㄗ	ㄘ	ㄙ
	舌上	ㄔ	ㄕ	ㄖ	ㄗ	ㄘ	ㄙ	ㄚ	ㄛ	ㄜ	ㄝ	ㄖ	ㄗ	ㄘ	ㄙ
	舌本	ㄔ	ㄕ	ㄖ	ㄗ	ㄘ	ㄙ	ㄚ	ㄛ	ㄜ	ㄝ	ㄖ	ㄗ	ㄘ	ㄙ
聲ノ性質	聲	■		■		■		■		■		■		■	
	鼻	■	■			■	■			■	■			■	■
	喉	0	0			∞	1								

上表ハ、視話法音字ノ原理ヲ簡明ニ説キ示シ、且其名稱ヲ教ヘンガ爲ニ作りタルモノニシテ、先ツ其左端ニ「諸音器ノ位置」ト標示シ、之ニ對シテ「唇」「舌頭」「舌上」「舌本」ト列記シ、上端ニハ「開」「閉」「分割」及「複合」ト記セリ。今ソノ用法ヲ示サンニ、例ヘバ音韻學ノ反切法ニ於ケルガ如ク、「唇」ノ欄ヨリハ右方ニ進ミ、「閉」ノ欄ヨリハ下方ニ進ミテ、二者相會スル點ニアル字形ハ、即

チ上唇ト下唇トノ間ニ小孔ヲ開クコトヲ表示シ、之ヲ「唇開」ト稱スルナリ。又「唇」ノ欄ヨリハ同シク右方ニ進ミ、「閉」ノ欄ヨリハ下方ニ進ミテ、二者相會スル點ニ在ル字形ハ、兩唇ノ閉ヂタルヲ表示シ、之ヲ「唇閉」ト稱スルガ如シ。餘ハ類推スベシ。又諸音器ノ位置ノ下ニ「聲ノ性質」ト記セル段アリ、之ニ對シテ「聲」「鼻」「喉」ト記セルヲ見ルベシ。之又タ前ト同様ノ方法ニヨリ、例ヘバ「聲」ノ欄ヨリ右方ニ進ミ、白欄ノ存スルトコロハ、皆有聲ノ義ヲ表シ、黒欄ノ所ハ、無聲ノ義ヲ表スルモノナリ。故ニ再ビ「唇」ノ欄ニ至リ、之ヨリハ右方ニ進ミ、「開」ヨリハ下方ニ進ミ、「聲」ノ白欄ヨリハ上方ニ進ミテ、三者相會スル點ノ字形ハ、二唇ノ間ニ小孔ヲ開キ、之ニ聲ヲ加ヘタル意ヲ表シ、之ヲ「唇開聲」ト稱ス。又「鼻」ノ欄ヨリ右方ニ進ミ、白欄ノ存スルトコロハ、凡テ「鼻」ヲ表ス。故ニ例ヘバ前同法ニヨリテ、「唇開」ヲ得「鼻」ノ欄ヨリハ上方ニ進ミテ、相會スル點ノ字ハ、唇ヲ開キ、且ツ軟口蓋ヲ垂下スルノ意ヲ

表シ、之ヲ「唇・開・鼻」ト稱ス。又前同法ニヨリテ、「唇・開・鼻」ヲ得タリトシ、猶之ニ聲ヲ加フル時ハ、唇ヲ開キ聲ヲ鼻ト口ヨリ出スモノニシテ、「唇・開・聲・鼻」ト稱スル字ヲ得ルガ如シ。

次ニ同表左端ノ第一行ヨリ初メ、順次ニ各音字ノ名稱ヲ授クルコト、左ノ如シ。

第一行 (一)「唇・開」 (二)「舌頭・開」 (三)「舌上・開」 (四)「舌本・開」

第二行 (一)「唇・開・聲」 (二)「舌頭・開・聲」 (三)「舌上・開・聲」 (四)「舌本・開・聲」

第三行 (一)「唇・開・鼻」 (二)「舌頭・開・鼻」 (三)「舌上・開・鼻」 (四)「舌本・開・鼻」

第四行 (一)「唇・開・聲・鼻」 (二)「舌頭・開・聲・鼻」 (三)「舌上・開・聲・鼻」 (四)「舌本・開・聲・鼻」

第五行 (一)「唇・閉」 (二)「舌頭・閉」 (三)「舌上・閉」 (四)「舌本・閉」

第六行 (一)「唇・閉・聲」 (二)「舌頭・閉・聲」 (三)「舌上・閉・聲」 (四)「舌本・閉・聲」

第七行 (一)「唇・閉・鼻」 (二)「舌頭・閉・鼻」 (三)「舌

上・閉・鼻」 (四)「舌本・閉・鼻」

第八行 (一)「唇・閉・聲・鼻」 (二)「舌頭・閉・聲・鼻」

(三)「舌上・閉・聲・鼻」 (四)「舌本・閉・聲・鼻」

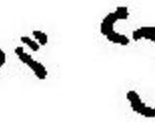
次ニ再ビ「聲ノ性質」ノ欄ニ移リ、最下ノ段ニ「喉」ト記セリ、夫ヨリ右方ニ進ミ、(0)ノ記號アルハ、喉ノ全ク開キタルヲ表シ、次ニ(0)ノ記號アルハ、喉ノ半バ開キタルヲ表シ、次ニ(∞)ノ記號アルハ、喉ノ全ク閉ヂタルヲ表シ、次ニ直線(1)ノ記號アルハ、前ニ既ニ説キシガ如ク、聲ヲ表スルモノナリ。

次ニハ上欄ニ「分割」ト記セル所ニツキ、説明セザル可ラズ。前ニ「開」ノ意義ハ、某音器ノ局部双合シテ、中心ニ小孔ヲ開クモノナリト言ヘリ。コノ場合ニ於テハ、音ハ、固ヨリソノ孔ノ中央ヨリ出デ來ルモノナレド、或ル國語ニアリテハ、ソノ孔分レテ二個トナリ、局部ノ兩端ヨリ、音ヲ發セシムルモノアリ。之ヲ稱シテ、分割音トイフ。ココニ掲ゲタル分割音ノ名稱ヲ授クルコト左ノ如シ。

第九行 (一)「唇分割」 (二)「舌頭分割」 (三)「舌上分割」 (四)「舌本分割」

第十行 (一)「唇分割聲」 (二)「舌頭分割聲」  
(三)「舌上分割聲」 (四)「舌本分割聲」

是ナリ

終リニ「複合」ノ欄ニツキ説明センニ、之マデ舉ゲタルトコロノ諸音字ハ、皆四原器(唇・舌頭・舌上・舌本)ノ一ヲ基礎トシテ作りタルモノナレド、時ニ二原器ヲ同時ニ使用スルコトアリ。複合トハ、コノ場合ヲ稱シテイフナリ。即チコノ例ノ第一ハ、「唇開」ト「舌本開」トヲ同時ニ使用セルモノニシテ、「唇開・舌本開」ト稱ス。但此ニ注意スベキハ、「舌本開」ノ記號二個ヲ、「唇開」ノ記號ノ一個ニ附着シタルハ、不理ナルガ如クナレド、コハ只字形ノ均整ヲ要スルガ爲ニシテ、他ニ意味アルニアラズ。例ヘバ「」ノ如ク、只一方ニ記號ヲ附シタランニハ、甚ダ不整ニシテ醜カルベシ。又「唇開」ノ記號ハ、大ニシテ「舌本開」ノ記號小ナルハ、コノ複合ニ於テ主トスルトコ

ロ、「唇開」ニアルヲ以テナリ。此類ニ屬セル他ノ音字ニ於テモ、亦然リト知ルベシ。今コノ類ノ音字ノ名稱ヲ舉グルコト、左ノ如シ。

第十一行 (一)「唇開・舌本開」 (二)「舌頭開・舌上開」 (三)「舌上開・舌頭開」 (四)「舌本開・唇開」

第十二行 (一)「唇開・舌本開・聲」 (二)「舌頭開・舌上開・聲」 (三)「舌上開・舌頭開・聲」 (四)「舌本開・唇開・聲」

第十三行 (一)「唇分割・舌本開」 (二)「舌頭分割・舌上開」 (三)「舌上分割・舌頭開」 (四)「舌本分割・唇開」

第十四行 (一)「唇分割・舌本開・聲」 (二)「舌頭分割・舌上開・聲」 (三)「舌上分割・舌頭開・聲」 (四)「舌本分割・唇開・聲」

是ナリ

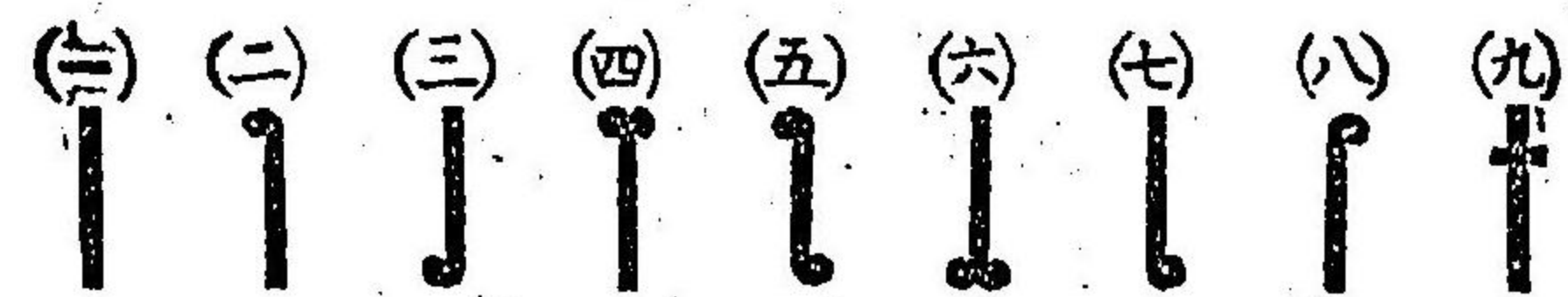
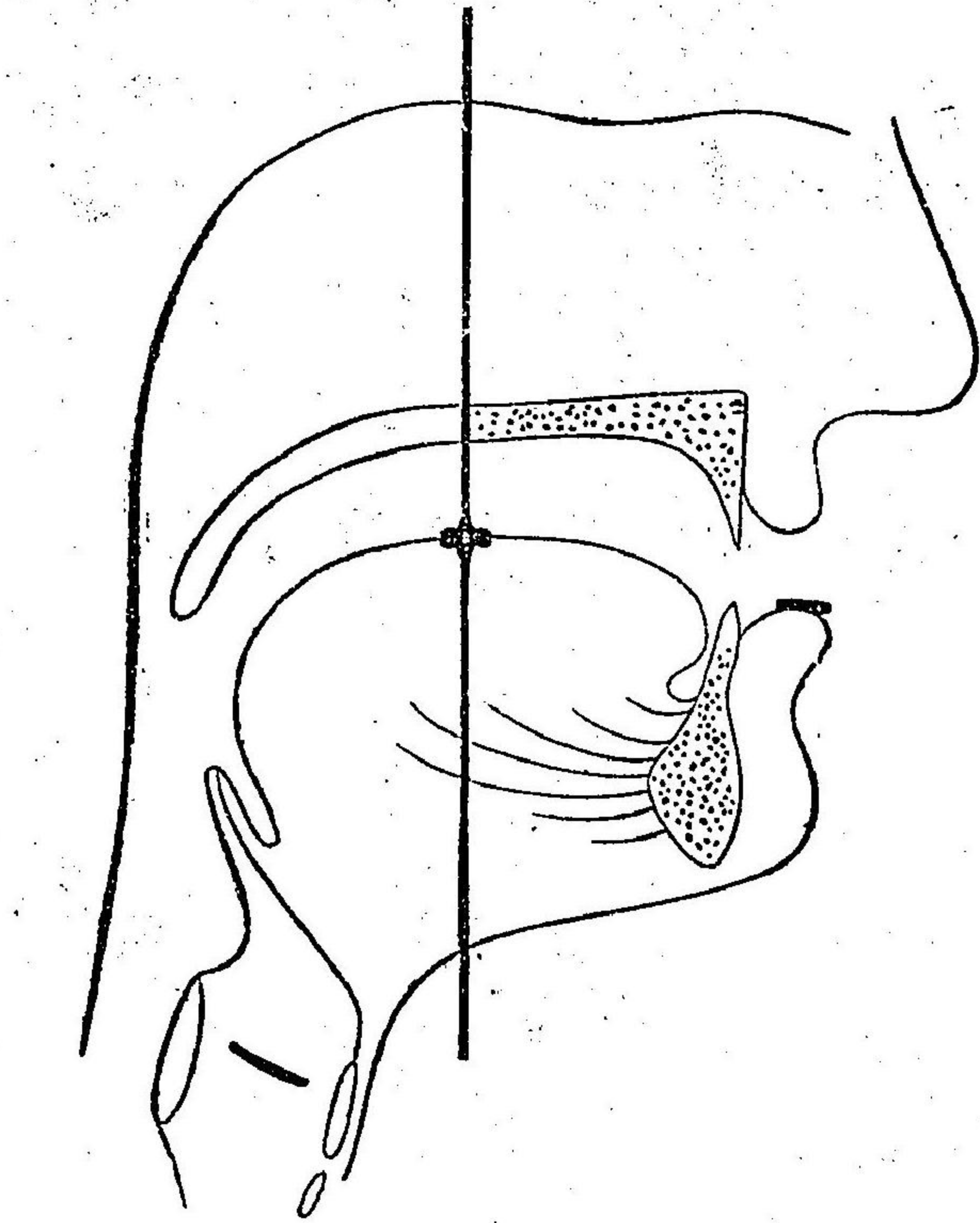
以上舉示セシ所ノ諸音字ハ、世ニ子音ト稱スルトコロノ音ト同ジキモノナレド、子音ノ稱呼ハ、甚ダ穩ナラザルニヨリ、余ハ、之ヲ稱シテ父音トス。ソノ理由ハ、母韻ノ事ヲ説キタル

後ニ於テ,更ニ説明スルトコロアルベシ。

## 母韻之部。

凡ソ母韻ハ,口腔ノ形狀及廣狹ニヨリテ,其種別ヲ生スルモノニシテ,口腔ノ形狀廣狹ハ,舌ノ各部分ノ位置ノ變異ニヨリテ定マルモノナレハ,母韻ノ研究ハ,先ヅ舌ノ部分ト,其位置トノ關係ヨリ初メザル可ラズ。下ノ圖ハ,前ノ第二圖ト同法ニ依リ,人ノ顔ヲ縱斷シタルモノナルガ,特ニ母韻ノ研究ノ爲ニ作りタルモノナレバ,舌ノ各部ノ區別ト,其高低トヲ示スニ便シ,即チ舌ノ中央ヲ通ジテ,縦ニ直線ヲ引キ,之ニ對シテ,左ノ方ニ符號ヲ附スルキハ,舌ノ後部ニ關シ,右ノ方ニ符號ヲ附スルキハ,舌ノ前部ニ關シ,左右同時ニ符號ヲ附スルキハ,舌ノ中部ニ關スルコトヲ表ス。又其符號直線ノ上端ニ在ルキハ,舌ノ位置高ク,下端ニ在ルキハ,其位置低ク,上下兩端ニ在ルキハ,其位置中程ニ在ルコトヲ表スルモノナリ。而シテ母韻ハ,モト聲ヲ以テ,ソノ原基トスルモノナ

レハ,喉頭ニ聲ノ記號タル直線ヲ劃セリ。又或ル母韻ハ,口ノ形ヲ圓クスルニヨリテ,變化ヲ生ズルモノナレバ,下唇ノ上面ニ,短キ横線ヲ劃シ,以テ其符號ヲ示シタルモノナリ。



第三圖

此圖ノ下端ニ掲ゲタル符號ハ、舌ノ各部ノ高低ヲ例解スルノ用ニ供セルモノニシテ、(一)ハ、直線即チ聲ニシテ、母韻ノ原基ノ記號タリ。(二)ハ、其原基ノ記號タル直線ノ左方ニ點ヲ附シタレバ、舌ノ後方ニ關スルコトヲ表シ、且ツ其點ハ、上方ニアルヲ以テ、其ノ局部ノ位置ノ高キヲ示ス。之ヲ概括スレバ、舌ノ後部高キヲ表スルモノトナルナリ。(三)ハ、直線ノ左方ニ點アルヲ以テ、之亦舌ノ後部ニ關スルモノナレバ、其點ノ位置、下端ニアルヲ以テ、舌ノ位置低キヲ示シ、即チ後部低キヲ表スルモノナリ。(四)ハ、直線ノ上端左右二方ニ點アルヲ以テ、舌ノ前後ノ二部同時ニ働キ、即チ中部ニ關スルコトヲ示ス。而シテ其點ノ位置、上端ニアルヲ以テ、舌ノ中部高キヲ表スルモノナリ。(五)ハ、直線ノ上端左方ト、下端右方トニ點ヲ附シタルモノナレバ、舌ノ前後二部共ニ、同時ニ高低ノ間ニ在ルヲ示ス。即チ舌ノ中部、恰モ中程ノ位置ニアルコトヲ表示スルモノナリ。(六)ハ、直線ノ

下端左右ニ點アルヲ以テ、之亦舌ノ前後同時ニ働キ、其點、下端ニ在ルヲ以テ、舌ノ中部低キコトヲ表ス。(七)ハ、直線ノ下端右方ニ點ヲ附シタレバ、舌ノ前部ノ低キヲ示スモノト知ルベシ。(八)ハ、直線ノ上端右方ニ點ヲ附シタレバ、舌ノ前部ノ高キヲ示シ、(九)ハ、直線ノ中央ニ横線ヲ劃シタルモノニシテ、即チ口ヲ圓メテ、聲ヲ出スコトヲ示セルモノナリ。

世界各國ヲ通ジテ、母韻ノ數幾許アルカハ、恰モ色彩ノ數幾許アリヤヲ知ラント欲スルガ如ク、千差万別ニシテ、到底數ヘ盡シ難キ所ナレドモ、視話法ニ於テハ、先ツ之ヲ大別シテ、四類トシ、其數合セテ三十六トス。今次ノ表ニヨリテ、各類ノ母韻ノ關係及名稱ヲ授クベシ。



# 普通母韻表

舌ノ

第一類 原母韻	舌ノ			第二類 廣母韻	舌ノ	舌ノ		
	後部	中部	前部			後部	中部	前部
高	l	ɿ	ɿ	高				
中	ɿ	ɿ	ɿ	中				
低	ɿ	ɿ	ɿ	低				
				廣	ɿ	ɿ	ɿ	
第三類 圓口原母韻	口形			第四類 圓口廣母韻	口形			
	後部	中部	前部		後部	中部	前部	
	圓高	ɿ	ɿ		ɿ	ɿ	ɿ	ɿ
	圓中	ɿ	ɿ		ɿ	ɿ	ɿ	ɿ
圓低	ɿ	ɿ	ɿ	圓低	ɿ	ɿ	ɿ	
				圓廣	ɿ	ɿ	ɿ	

上ノ表ニ示セルガ如ク、此法ニ於テハ、母韻ヲ大別シテ、四類トス。即チ第一類ヲ、原母韻ト稱シ。第二類ヲ、廣母韻ト稱シ、第三類ヲ、圓口原母韻ト稱シ、第四類ヲ、圓口廣母韻ト稱ス。而シテ各類トモ、舌ノ部分ニ、後部・中部・前部ノ別ヲ立テ、且各部ノ位置ヲ、高・中・低トシ、又其間ニ、各々廣ノ別ヲ立テ、些少ノ開キヲ示シ、字形ニ於テハ、附點ニ代フルニ鈎形ヲ以テシテ、之ヲ分ツ。即チ第二類廣母韻ノ部ニ於テ、高廣・中廣・低廣ト記スルガ如シ。又母韻ニヨリテ、口形ヲ圓クスルモノハ、更ニ圓トシテ之ヲ區別ス。即チ圓口母韻ノ部ニ、高圓・中圓・低圓等ト記スルガ如シ。今第一類ヨリ初メ、各母韻ノ名稱ヲ授クベシ。

- |     |         |         |         |
|-----|---------|---------|---------|
|     | 第一類     | 原母韻     |         |
| 第一行 | (一)後部・高 | (二)後部・中 | (三)後部・低 |
| 第二行 | (一)中部・高 | (二)中部・中 | (三)中部・低 |
| 第三行 | (一)前部・高 | (二)前部・中 | (三)前部・低 |
|     | 第二類     | 廣母韻     |         |

- 第一行 (一)後部・高・廣 (二)後部・中・廣 (三)後部・低・廣  
 第二行 (一)中部・高・廣 (二)中部・中・廣 (三)中部・低・廣  
 第三行 (一)前部・高・廣 (二)前部・中・廣 (三)前部・低・廣

### 第三類 圓口原母韻

- 第一行 (一)後部・高・圓 (二)後部・中・圓 (三)後部・低・圓  
 第二行 (一)中部・高・圓 (二)中部・中・圓 (三)中部・低・圓  
 第三行 (一)前部・高・圓 (二)前部・中・圓 (三)前部・低・圓

### 第四類 圓口廣母韻

- 第一行 (一)後部・高・圓・廣 (二)後部・中・圓・廣 (三)後部・低・圓・廣  
 第二行 (一)中部・高・圓・廣 (二)中部・中・圓・廣 (三)中部・低・圓・廣  
 第三行 (一)前部・高・圓・廣 (二)前部・中・圓・廣

### (三)前部・低・圓・廣

我國語ノ母韻モ、英語ノ母韻モ、其他各國ノ母韻モ、皆上ノ三十六母韻ノ中ニ籠リ居ルコトナレバ、後段ニ至リ、先ヅ我國語ノ母韻ヨリ初メ、漸次外國ノ母韻ノ研究ニ移ルベシ。

## 日本音韻

### 豫備練習

凡ソ母韻ノ種類ハ、舌ノ位置ニヨリテ定マ  
ルモノナレバ、先ツ舌ノ動靜ヲ、隨意ニ制スル  
コトヲ知ラザルベカラズ。然レモ或ル一定ノ  
位置ニ、舌ヲ靜止セシムルコトハ、容易ノ業ニ  
アラズ。試ミニ口ヲ開キ鏡ニ向ヒテ、舌ヲ隨意  
ニ動カシ見ヨ、容易ニ我欲スル如ク動止セシ  
ムルコト能ハザルモノナリ。サレバ母韻ヲ學  
ブニサキダチテ、先ツ次ノ練習ヲ爲サザル可  
ラズ。

(一)舌ノ前部ヲ、高キ位置ヨリ、漸次低キ位置  
ニ移ラシメ、再ビ低キ位置ヨリ、高キ位置ニ至  
ラシムルコト。

(二)舌ノ後部ヲ、前同法ニヨリ、高低セシムル  
コト。

(三)舌ノ中部ヲ、亦同法ニヨリ、高低セシムル

コト。

以上三種ノ練習ニ熟スル時ハ、舌ノ各部ヲ、  
如何ナル位置ニモ靜止シ得ベキニヨリ、如  
何ナル母韻ニテモ發シ得ザルモノナキニ  
至ル。

(四)軟口蓋ヲ上ゲ下ゲスルコト。

凡ソ音聲ノ、鼻音ヲ帶ブモノハ、孰レモ軟  
口蓋ノ垂下スルニヨレルコトハ、サキニ既  
ニ説キタル如クナレバ、軟口蓋ヲ、隨意ニ上  
下スルコトハ、鼻音ヲ除クガ爲ニハ、頗ル緊  
要ナルコトナリ。然レモ之ヲ上下スルハ、甚  
ダ難キコトナレバ、始メハ機械的ニ之ヲ上  
下シ、漸次自己ノ意志ニヨリ、自由ニ上ゲ下  
ゲスルコトヲ得ルニ至ラシムベシ。

上ノ練習ハ、始メハ聲ヲ用弁ズシテ、之ヲ  
爲シ、遂ニ聲ヲ加ヘテ、練習スルヲ可トス。

## 母韻ノ部

前ニ視話法ニ於テ定ムルトコロノ母韻ハ、

其數、三十六ナリト説キタルガ、其内我國ニ存スルモノハ、幾許ナリヤト言ヘバ、只僅ニ五個ニ過ギス。即チ第一類ノ母韻中ニ二個、第二類ノ母韻中ニ一個、第三類ノ母韻中ニ二個、合セテ五個ナリ。其他、第二類ノ母韻中ニ二個アレハ、此等ハ、正韻ト認ム可ラザルモノナリ。今正韻ト認ムル所ノ母韻ヲ列舉スレバ、下ノ如シ。

第一類 第三行 (一)前部・高ɿ (二)前部・中ɿ  
 第二類 第二行 (二)中部・中・廣ɿ  
 第三類 第一行 (一)後部・高・圓ɿ (二)後部・中・圓ɿ

此外ニ第二類第二行(一)前部・高・廣ɿト、第四類第一行(一)後部・高・廣・圓ɿトアレハ、此等ハ、正韻ト認メザルモノナリ。

我母韻ノ數、斯ノ如ク少ナキガ故ニ次ノ表ヲ作りテ、簡明ニ之ヲ説明セン。

## 日本母韻表

	高	廣	中	廣	低	廣
舌ノ	前部	<small>ɿ</small> ( <small>ɿ</small> )	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>
	中部	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>
	後部	<small>ɿ</small> ( <small>ɿ</small> )	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>
	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>	<small>ɿ</small>			
	圓	圓	圓			

之ヨリ我國ノ五個ノ母韻ニツキ説明セン。

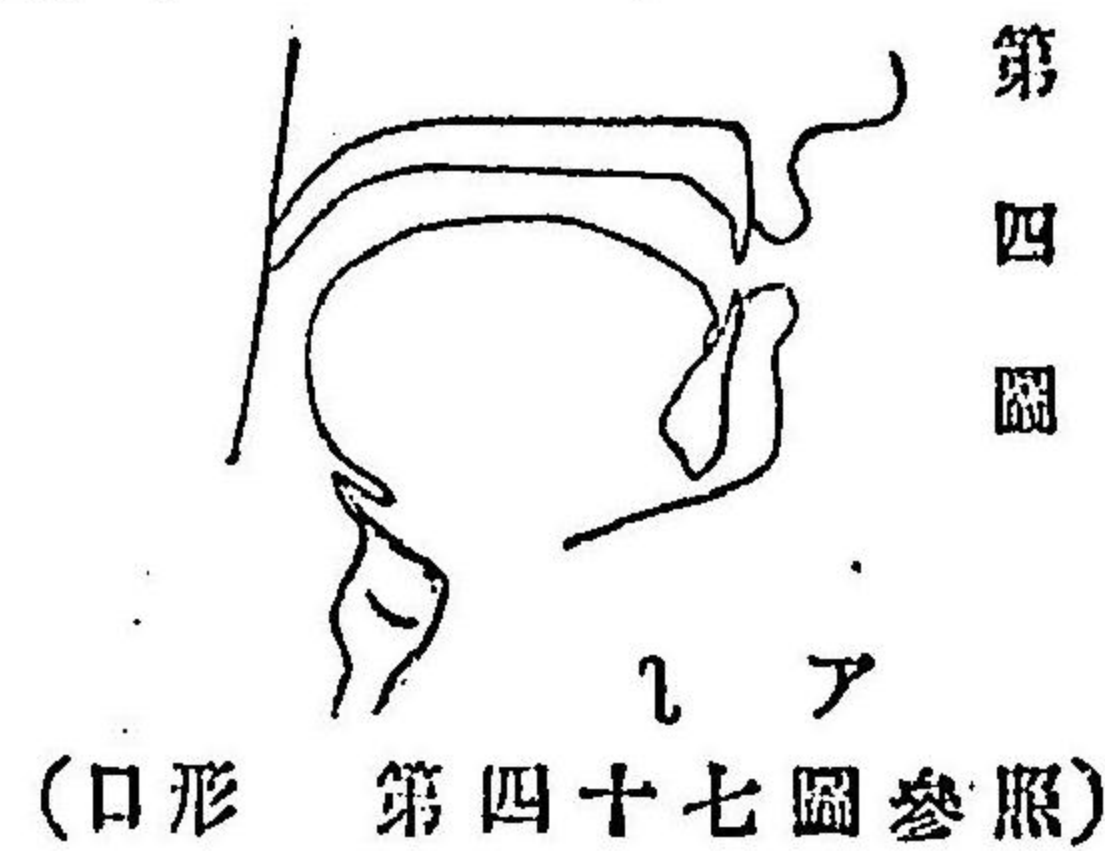
### (一) アɿ

人ノ舌ガ靜止シテ、自然ノ位置ニ在ル時ハ、上面殆ンド圓平ニシテ、中部・中・廣ノ位置ニアルモノナリ。是ヲ以テ此位置ノ母韻ヲ稱シテ、言理學上ニハ、自然母韻トイフ。啞子ノ如キモ自然ニ此音ヲ發スルガ如クナレハ、只其舌ノ位置ノ不定ナルガ爲、或ハ[ア]ノ如ク或ハ[オ]ノ如ク聞ユルモノナリ。言語ノ上ニ徵スルモ、漢語ニ啞子トイヒ、日本語ニ[オシ]トイフガ如キ

モ、ソノ故ナキニ非ルベシ。日本母韻ノ[ア]ハ、恰モ此位置ニ當リ、最モ自然ニ合ヘルモノナリ。べる氏ノ如キモ、最初我國ノ[ア]ハ、コノ位置ニアリト言ヒシガ、後ニハ却テ後部中廣ノ位置ニアリト言ヘリ。然レモ余ハ、氏ガ前説ノ當レルヲ確信スルモノナリ。ソノ所以ハ日本音韻ノ理法ニ照ラスモ、[ア]ハ中央ノ位置ニアリテ、前部韻ニ進ミテハ、[イ][エ]トナリ、後部韻ニ進ミテハ、[ウ][オ]トナルコト、下ノ圖ニ照シテ明ガレバナリ。



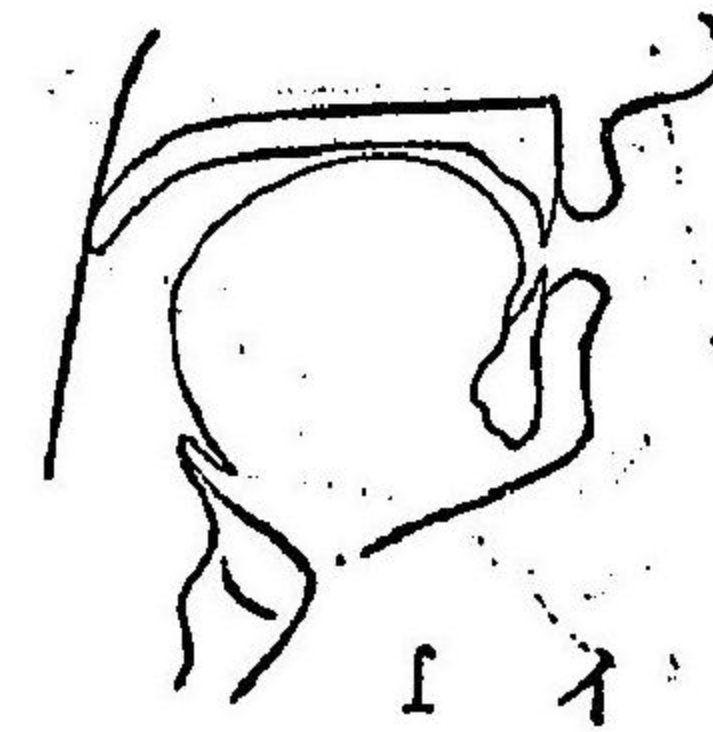
故ニ我國ノ[ア]ハ、中部中廣ニ定ムルヲ正當トスベシ。其圖解下ノ如シ。



## (二) イ [i]

[イ]ハ、舌ノ前部、最モ高ク上リ、殆ンド硬口蓋ニ觸レントスル位置ニアリテ、發スル母韻ニシテ、即チ前部高ナリ。ソノ圖解次ノ如シ。

## 第五圖



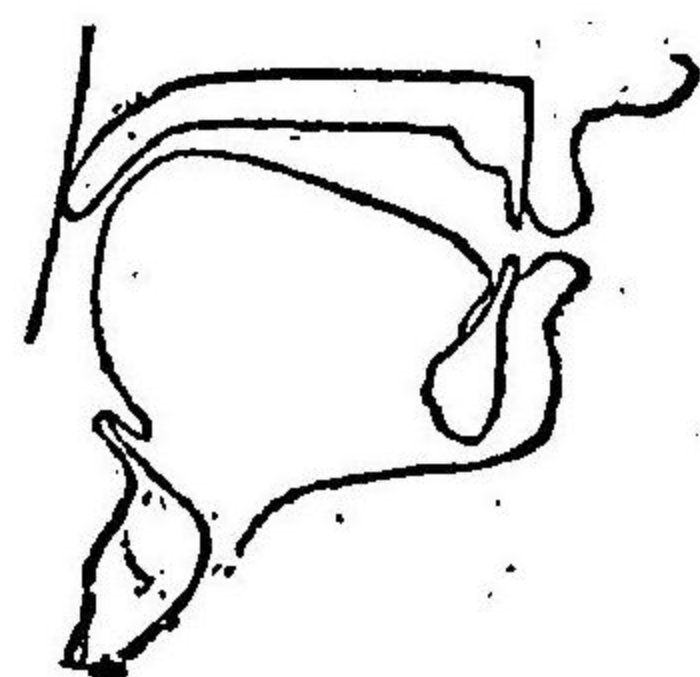
(口形 第四十五圖参照)

附言。東北地方ニハ、[イ]ト[エ]トノ間音ノ如キモノヲ發スルコトアリ、之ハ、舌ノ前部[イ]ノ位置ヨリ少シ下レルモノニシテ、前部高廣ニ當ル。サレド之ハ、一部ノ習僻ヨリ來レルモノニシテ、我正韻トハ認ム可ラズ。故ニ本書中ニハ、之ヲ括弧内ニ置キテ區別セリ。

## (三) ウ i (i)

[ウ]ハ、舌ノ後部、最モ高クナリテ、殆ンド軟口蓋ニ觸レントシ、之ト同時ニ、口ヲ圓クシテ發セル母韻ニシテ、即チ後部、高圓ナリ。ソノ圖解下ノ如シ。

第六圖



i ウ

(口形 第四十九圖参照)

附言。此音モ、東北地方ニ於テハ、[ウ]ト[オ]トノ間音ノ如ク發スルモノアリ。コレ後部、高廣ニ當レルモノナレド、前同様ノ理由ニヨリ、我正韻トハ認メザルニヨリ、亦括弧内ニ置キテ、之ヲ區別セリ。

此ニ前部母韻ト後部母韻トノ關係ニツキ、

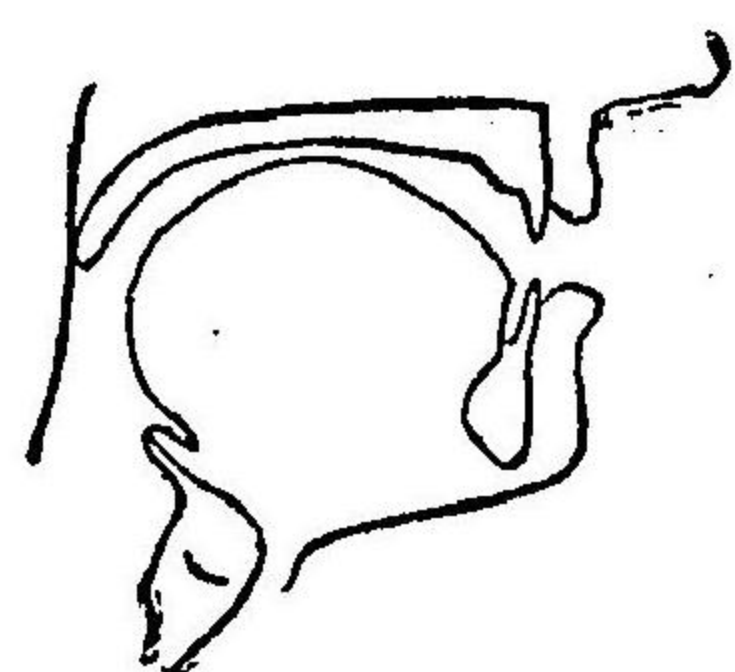
一言スベキ事アリ。コノ二部ノ母韻ハ、常ニ密着ノ關係ヲ有スルモノニシテ、前部母韻ニ訛リアルキハ、後部母韻ニモ亦訛リヲ生スルヲ常トス。即チ[i]ト[ウ]トノ場合ニ於ケルガ如シ。

鼻音ハ、或ル地方ノ習僻ニ依リテハ、何レノ母韻ニモ附帶スルモノナレド、後部母韻ニ於テハ、殊ニ其著シキヲ見ル。故ニ[ウ]ノ發音ニ於テハ、常ニ軟口蓋ヲ上下スル練習ヲ伴ハシメ、鼻音ヲ除キ去ルコトヲ務ムベシ。

## (四) エ i

[エ]ハ、舌ノ前部、恰モ中程ニアリテ發スル母韻ニシテ、前部中ナリ。然レモ我國ノ母韻ニハ、是ヨリ低位ニ屬スルモノ、全ク欠ケタルニヨリ、十分舌ノ位置ヲ下ゲタル位置ト見テ妨ゲナシ。ソノ圖解下ノ如シ。

第七圖



[ エ ]

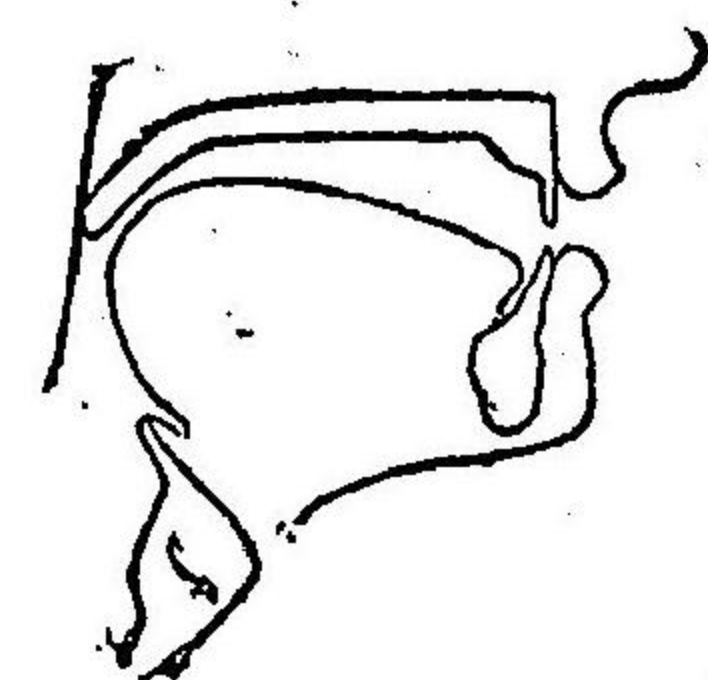
(口形 第四十六圖参照)

附言。此母韻モ、或ル地方ニ於テハ、[イ]ノ如ク發スルモノアリ。是レ舌ノ前部ノ位置、猶高キニ失セルモノナレバ、務メテ之ヲ低クセシムル時ハ、正確ナル[エ]ノ音ヲ發スルヲ得ベシ。

## (五) オ

[オ]ハ、舌ノ後部ヲ、中程ノ位置ニ止メ、之ト同時ニ、口ノ形ヲ圓クシテ發スル母韻ニシテ、即チ後部・中・圓ナリ。ソノ圖解下ノ如シ

第八圖



オ

(口形 第四十八圖参照)

附言。[オ]ト[ウ]トノ間ニ於テハ、口ノ形ニ注意スルコト最モ肝要ナレバ、第四十八圖及第四十九圖ニ示シタルトコロニヨリ、ソノ口形ヲ正シクスルコトヲ學ブベシ。

## 父音及子音ノ部

我國ノ父音ハ、前ニ掲ゲタル普通父音表ニ比スレバ、其數、甚ダ少ク、僅ニ二十個ニ過ギズ。殊ニ著シキハ、分割孔ニ屬スル父音ノ、全ク欠ケタルニアリ。今唇音、舌頭音、舌上音、舌本音及喉音ト、順序ヲ逐ヒテ、各父音ヲ説キ、次デ某父音ト某母韻ト相合シテ、若干ノ子音ヲ生ズル

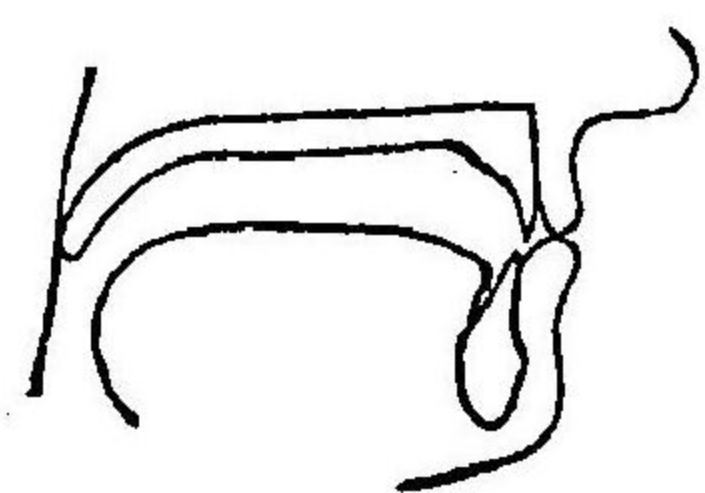
コトヲ示スベシ。

日本父音表

	開				閉				分割		複合			
	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1
唇	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1
舌頭	1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1
舌上	0	0	1	1	1	1	(0)		1	1	0	(0)	1	1
舌本	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1	1	1	1	1
喉	0													

(一)ハ D [唇閉]ニシテ,下圖ノ如ク,全ク兩唇ヲ閉ヂタルノミノモノナレバ,此位置ニテハ,更ニ何等ノ音ヲモ發スルコトナシ然レモ之ニ l(ア) l(イ) i(ウ) [(エ) ](オ)ノ母韻ノ一ヲ加フレバ, D l(バ) D l(ピ) D i(ブ) D [(ベ) D ](ボ)ノ子音ヲ生ズルモノナリ。

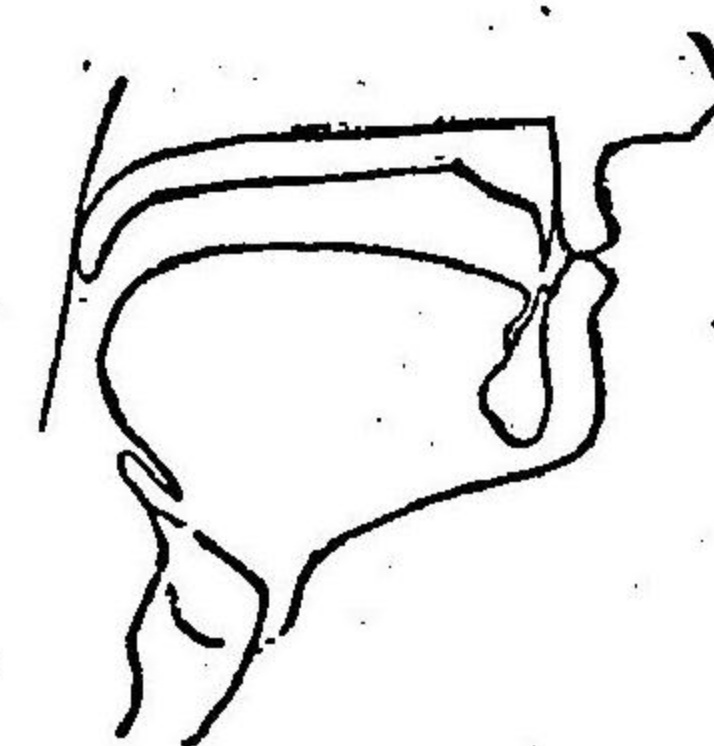
第九圖



D プ

(二)0ハ, [唇閉聲]ニシテ,下圖ノ如ク兩唇ヲ閉ヂ,且ツ喉頭ニ在ル聲帶ヲ顫動スルモノナリ。(圖中,喉頭ニ半月形ノ線アルハ,聲帶ヲ顫動シ,即チ聲ヲ發セルコトヲ表ス。前圖ト對照シテ,有聲音ト無聲音トノ別ヲ悟ルベシ。以下,スベテ之ニ倣ヘ。)此位置ニテハ,僅ニ喉頭ニ [ウ]ノ如キ音ヲ生ズルノミニシテ,甚ダ不明ナレモ,喉頭ノ前面(喉佛)ニ,手ヲ觸ル、キハ,其内部ノ顫動ヲ感ズベシ。之ニ l l i [( ]ノ母韻ノ一ヲ加フルトキハ, 0 l(バ) 0 l(ピ) 0 i(ブ) 0 [(ベ) 0 ](ボ)ノ子音ヲ生ズルモノナリ。

第十圖



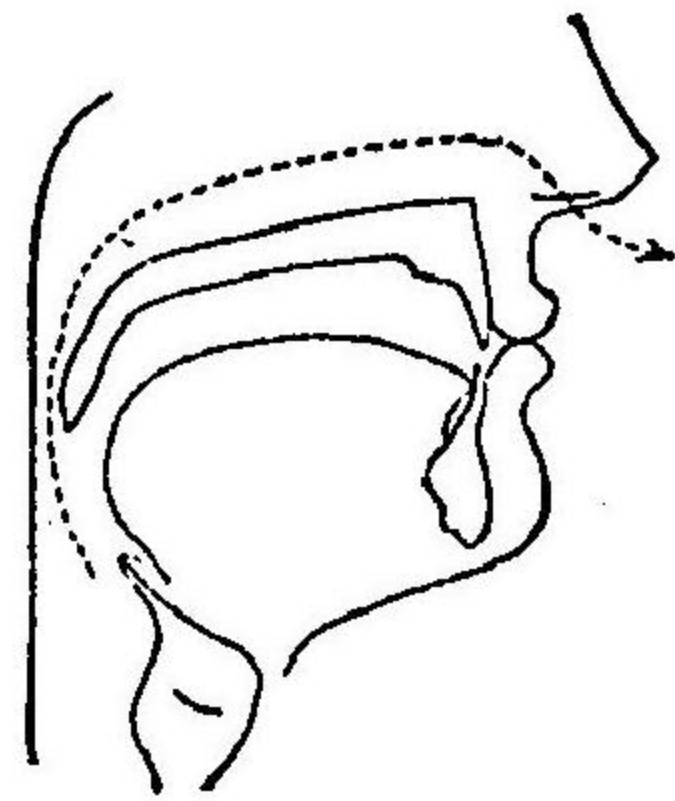
0 プ

(三)0ハ, [唇閉聲鼻]ニシテ,下圖ノ如ク兩唇ヲ閉ヂ,聲帶ヲ顫動シ,此ニ生ズル [ウ]ノ如キ音ヲ,



鼻ヲ通シテ出スモノナレバ、鼻ノ前ニ手ヲ置ケバ、其息ノ鼻ヨリ出ルコトヲ知り得ルモノナリ。之ニ「 $\text{h}$ 」ヲ加フレバ、 $\text{h}$  ( $\text{マ}$ )  $\text{h}$  ( $\text{ミ}$ )  $\text{h}$  ( $\text{ム}$ )  $\text{h}$  ( $\text{メ}$ )  $\text{h}$  ( $\text{モ}$ )ノ子音ヲ生ズルモノナリ。

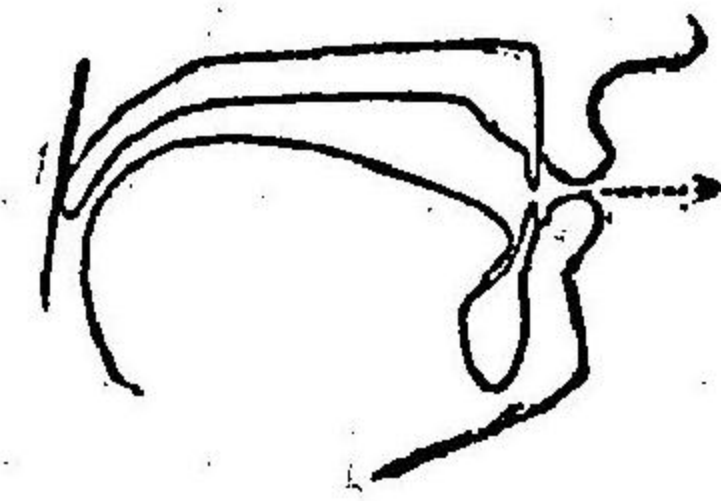
第十一圖



h m

(四)  $\text{h}$  [唇開・舌本開]ニシテ、下圖ノ如ク兩唇ヲ締メテ、相近カシメ、之ト同時ニ舌本ト軟口蓋トノ間モ、亦收合セシメタルモノニシテ、之ニ「 $\text{u}$ 」ヲ加フレバ、 $\text{h}$  ( $\text{フ}$ )ノ子音ヲ生ス。又或ル地方ノ人ガ、間「 $\text{f}$ 」 $\text{h}$  ( $\text{フ}$ )ノ如ク發音スルハ、全ク此父音ニ「 $\text{f}$ 」ヲ加ヘタルモノニシテ、即チ $\text{h}$   $\text{f}$   $\text{h}$ ニ當ルモノナリ。

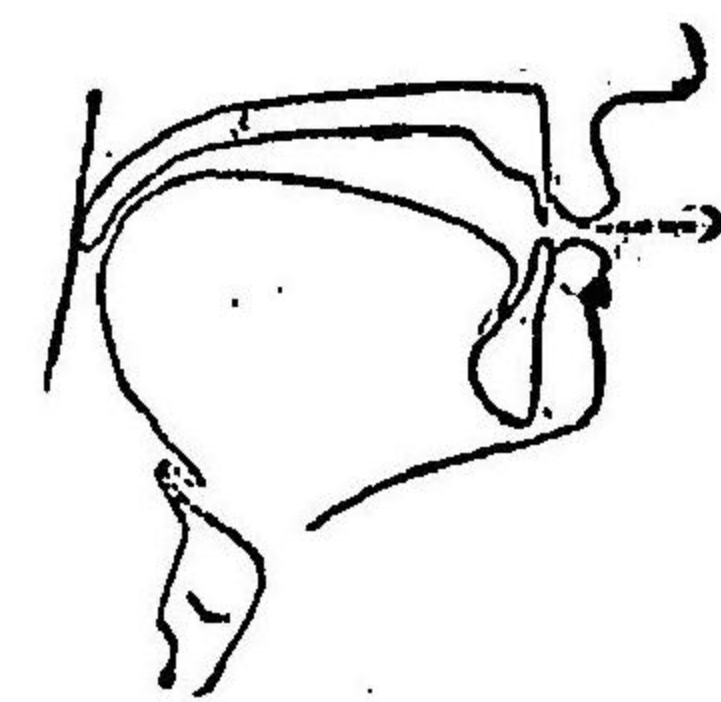
第十二圖



h p

(五)  $\text{h}$  [唇開・舌本開・聲]ニシテ、下圖ノ如ク前ノ位置ニ、聲ヲ加ヘタルモノナリ。之ニ「 $\text{t}$ 」ヲ加フレバ、 $\text{h}$  ( $\text{ツ}$ )  $\text{h}$  ( $\text{チ}$ )ノ子音トナル。又古來「 $\text{p}$ 」ノ字ヲ用井タル音ハ、即チ此父音ニ「 $\text{t}$ 」ヲ加ヘテ、 $\text{h}$  ( $\text{ツ}$ )トナリタルモノ、 $\text{h}$  ( $\text{エ}$ )ノ字ヲ用井タル音ハ、之ニ「 $\text{t}$ 」ヲ加ヘテ、 $\text{h}$  ( $\text{エ}$ )トナリシモノナレド、我現時ノ音韻中ニ存在セザルニヨリ、此表ニハ之ヲ省ケリ。

第十三圖

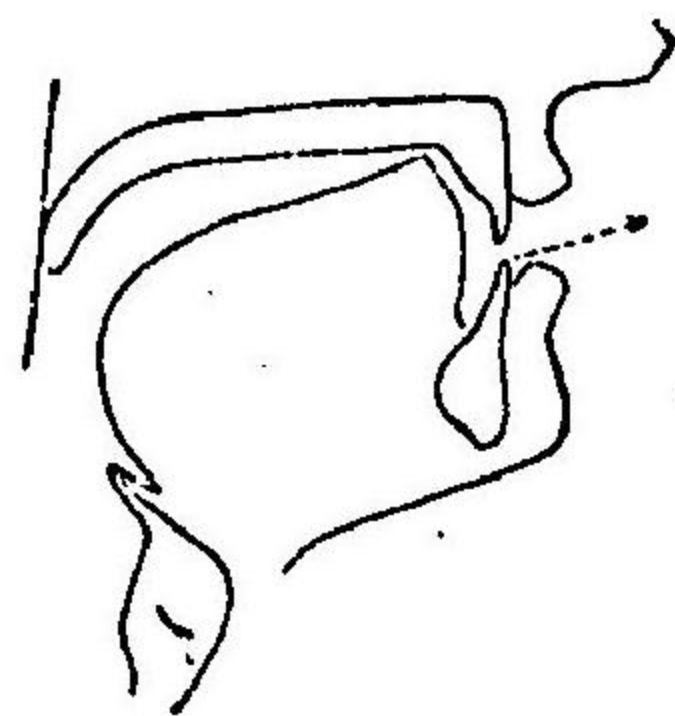


h u

## (乙) 舌頭音

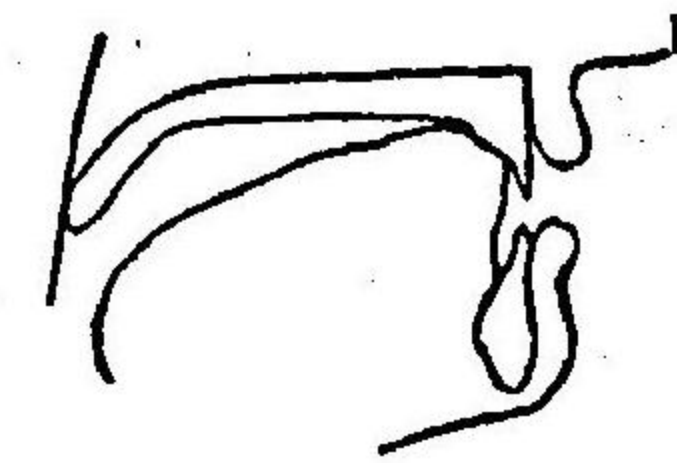
(一)  $\omega$  ハ、[舌頭・開・聲]ニシテ、圖ノ如ク、舌ノ尖ヲ反ラシ、殆ンド硬口蓋ノ前端ニ達セントスル位置ニ置キ、之ニ聲ヲ加ヘテ、發スル[ル]ノ如キ音ニシテ、之ニ  $\iota$  [  $i$  [  $\epsilon$  ]ノ母韻ノ一ヲ加フレバ、 $\omega\iota$ (ラ)  $\omega i$ (リ)  $\omega\epsilon$ (ル)  $\omega[\epsilon]$ (レ)  $\omega\epsilon$ (ロ)ノ子音ヲ生ズルモノナリ。又九州地方ノ人ガ、此等ノ子音ヲ  $\omega\iota$ (ダ)  $\omega i$ (ヂ)  $\omega\epsilon$ (ヅ)  $\omega[\epsilon]$ (デ)  $\omega\epsilon$ (ド)ノ如クニ發スルハ、全ク舌頭ヲ硬口蓋ニ壓附スルヨリ來レル訛ナリ。此二音ノ差異ノ生ズル理ハ、 $\omega$ ト $\omega$ トノ字形ニ照ラセバ、一目瞭然タルベシ。

第十四圖

 $\omega$  ル

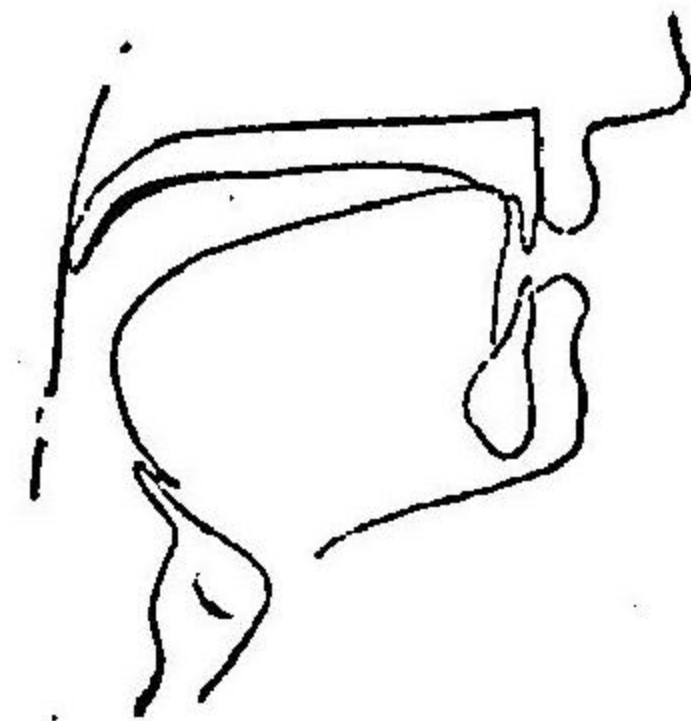
(二)  $\omega$  ハ、[舌頭・閉]ニシテ、下圖ノ如ク、舌ノサキヲ硬口蓋ノ前端、上齦ノ盡ル邊ニ壓附スルモノナレバ、此位置ニテハ、何等ノ音ヲモ發スルコトナシ。之ニ  $\iota$  [  $\epsilon$  ]ノ一ヲ加フレバ、 $\omega\iota$ (ダ)  $\omega[\epsilon]$ (デ)  $\omega\epsilon$ (ド)ノ子音ヲ生ズルモノナリ。

第十五圖

 $\omega$  ト

(三)  $\omega$  ハ、[舌頭・閉・聲]ナレバ舌ノ位置ヲ、前同様ニシ、下圖ノ如ク、之ニ聲ヲ加ヘタルモノナリ。サレバ此位置ニテハ、只喉頭ニ[ウ]ノ如ク微音ヲ生ズルノミニシテ、明亮ナル音ヲ發スルコトナシ。之ニ  $\iota$  [  $\epsilon$  ]ノ一ヲ加フレバ、 $\omega\iota$ (ダ)  $\omega[\epsilon]$ (デ)  $\omega\epsilon$ (ド)ノ子音トナルモノナリ。

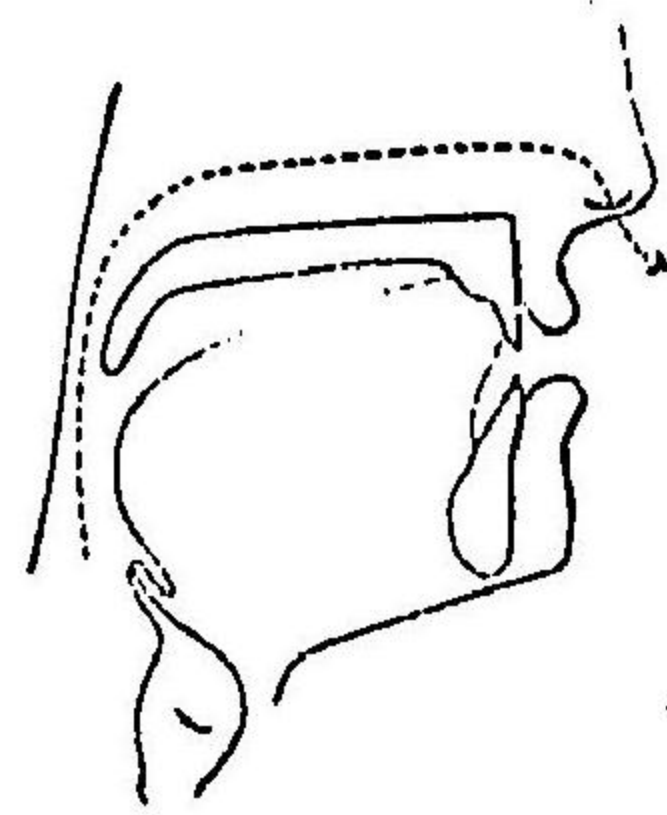
第十六圖



ウ ド

(四)ウハ[舌頭閉・聲鼻]=シテ、下圖ノ如ク、舌ヲ前父音ト同ジ位置ニ置キ、且軟口蓋ヲ垂レ、鼻ヲ通ジテ、[ン]ノ音ヲ發スルモノニシテ、之ニ[イ][イ][フ]ノ母韻ノ一ヲ加フレバ、ウ(ナ) ウ(ニ) ウ(ヌ) ウ(ネ)又ハウ(ノ)ノ子音ヲ生ズルモノナリ。

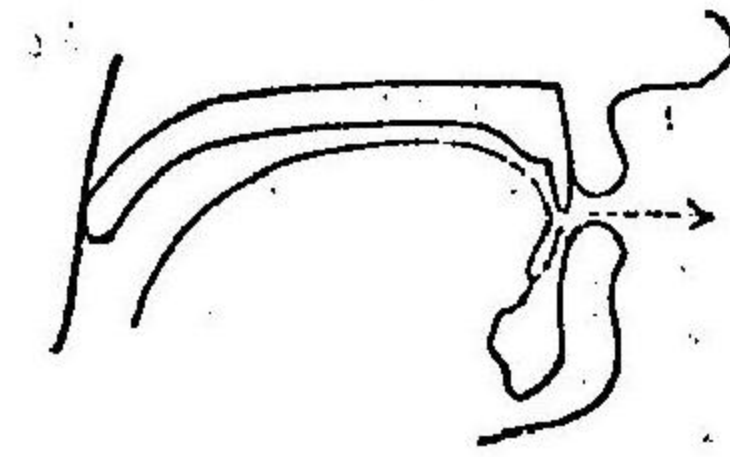
第十七圖



ウ ン

(五)ウハ[舌頭開・舌上開]=シテ、下圖ノ如ク、舌ノサキヲ、殆ド上齦ニ觸レ、舌ノ上部ヲ、殆ド硬口蓋ノ前部ニ接セシメントスルガ如キ位置ニ置キテ、[ス]ノ如キ摩擦音ヲ發スルモノニシテ、之ニ[イ][イ][フ]ノ母韻ノ一ヲ加フレバ、ウ(サ) ウ(ス) ウ(セ) ウ(ソ)ノ子音ヲ生ズルモノナリ。

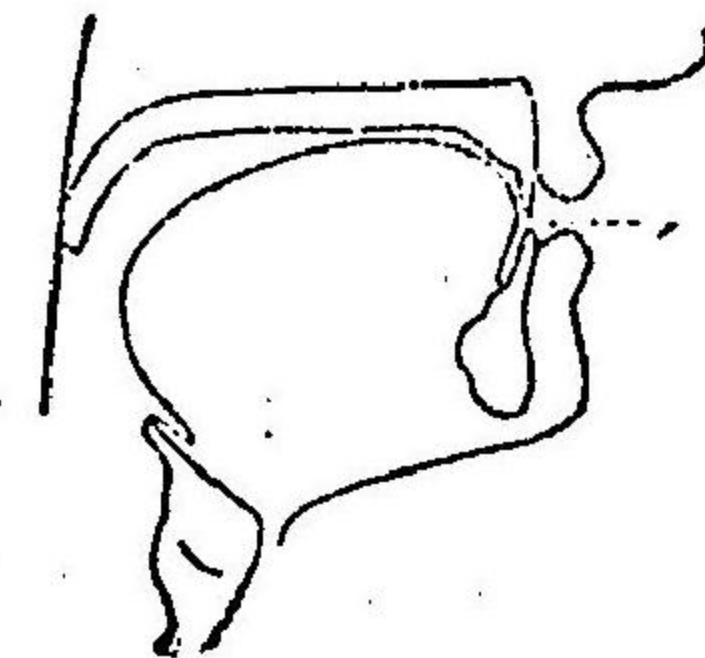
第十八圖



ウ ス

(六)ウハ[舌頭開・舌上開・聲]=シテ、舌ノ位置ヲ、前同様ニシ、下圖ノ如ク、之ニ聲ヲ加ヘタルモノニシテ、之ニ[イ][イ][フ]ヲ加フレバ、ウ(ザ) ウ(ズ) ウ(ゼ) ウ(ゾ)ノ子音ヲ生ズ。

第十九圖

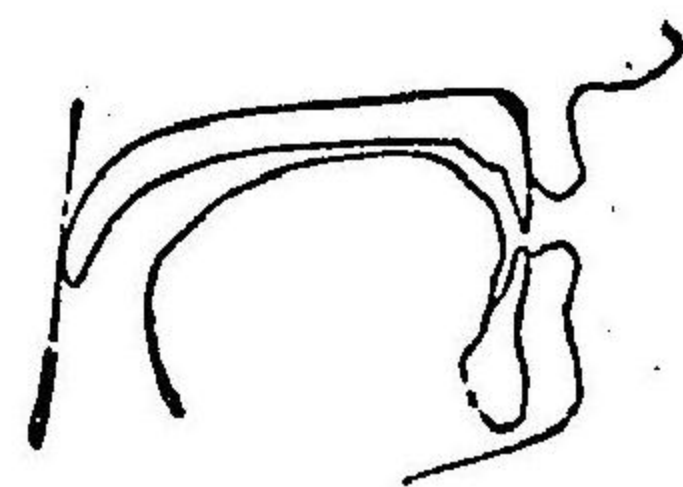


ウ ズ

## (丙) 舌上音

(一)のハ、[舌上・開] = シテ、下圖ノ如ク、舌ノ上部ヲ、殆ド硬口蓋ノ中央 = 觸レシメントシテ發スル[ヒ]ノ如キ音ナリ。之ニ[イ]ヲ加フレバ、 $\Omega$ (ヒ<sub>+</sub>)  $\Omega$ (ヒ<sub>+</sub>)  $\Omega$ (ヒ<sub>+</sub>)ノ子音ヲ生ズ。

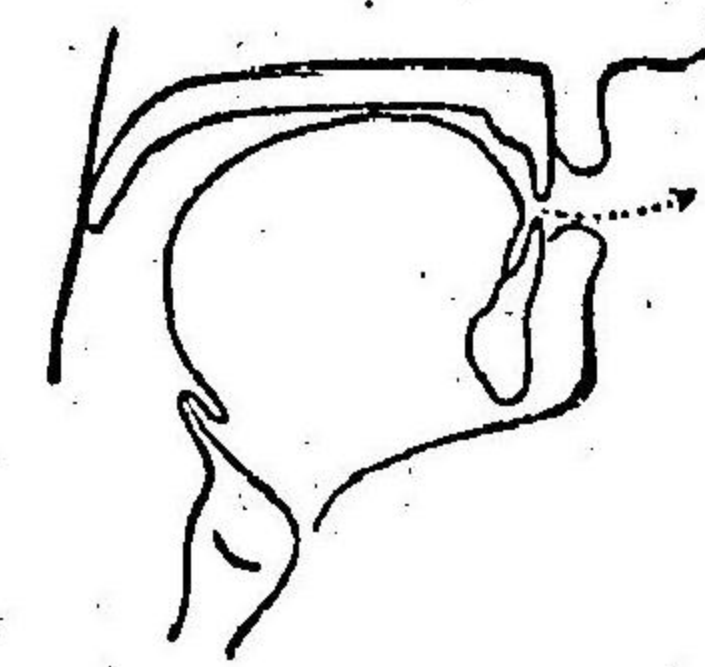
第二十圖



〇 ヒ

(二)のハ、[舌上・開・聲] = シテ、前同様ノ舌ノ位置ニ下圖ノ如ク聲ヲ加ヘテ、[イ]ノ如キ音ヲ發スルモノナリ。之ニ[イ]ノ母韻ヲ加フレバ、 $\Omega$ (ヤ)  $\Omega$ (ユ)  $\Omega$ (ヨ)ノ子音ヲ生ズ。又之ニ[イ]ヲ加ヘテ生ズル所ノ  $\Omega$ (エ)ノ子音ハ、古代ニ在リト言ヒ傳ヘヌ。今ニ或ル地方ニハ、其存在ヲ見ルト雖モ、一般普通ノ子音トハ認メ難キモノナリ。

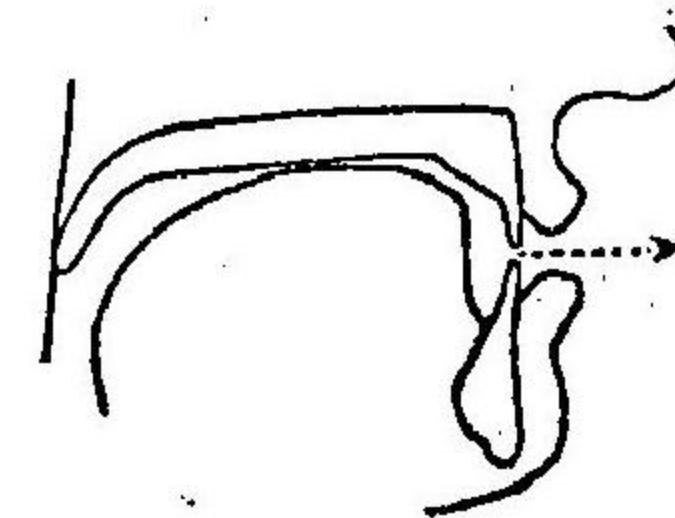
第廿一圖



〇 イ

(三)のハ、[舌上・開・舌頭・開] = シテ、下圖ノ如ク、舌ノ上部ハ、殆ド硬口蓋 = 觸レントシ、舌ノサキハ、殆ド上齦 = 觸レントスルガ如キ位置ニ在リテ、[シ]ノ如キ音ヲ發スルモノナリ。之ニ[イ]ノ母韻ノ一ヲ加フレバ、 $\Omega$ (シ<sub>+</sub>)  $\Omega$ (シ)  $\Omega$ (シ<sub>+</sub>)  $\Omega$ (シ<sub>+</sub>)ノ子音ヲ生ズ。又近畿、四國、中國邊ノ人ノ、[シ<sub>+</sub>]ノ如キ音ヲ發スルハ、此父音 = [シ]ノ母韻ヲ加ヘテ生ズル  $\Omega$ ノ子音ナレドモ、之亦我國一般ニハ行ハレザルモノナリ。

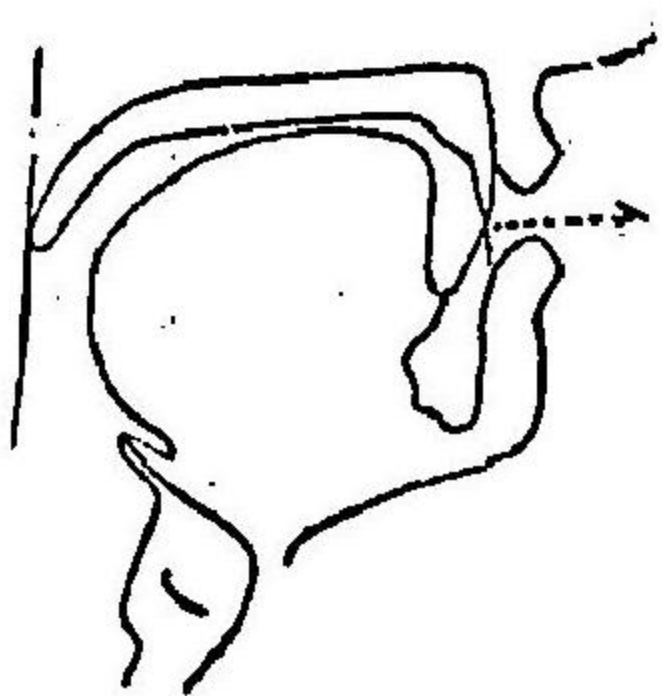
第廿二圖



〇 シ

(四)  $\alpha$ ハ、[舌上・開・舌頭・開・聲]ニシテ、前ノ父音ノ位置ニ下圖ノ如ク聲ヲ加ヘタルモノニシテ、[ジ]ノ如キ音ヲ發ス。之ニ[ ]ヲ加フレバ、九州邊ノ人ノ、人力車ト云フキノ[ジ]ノ音即チ $\alpha$ トナレバ、我國普通ノ子音トハ認メ難シ。唯、此音ハ拗音ヲ成立スルノ一要素トナルモノナレバ、後ニ再ビ之ヲ説クベシ。

第廿三圖

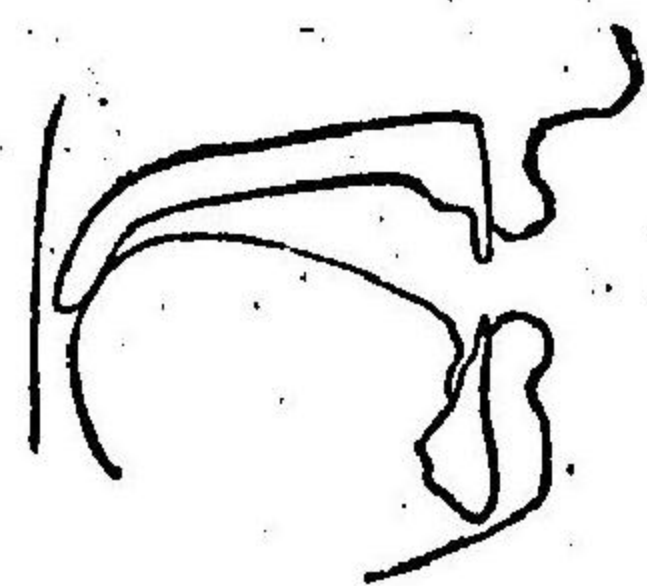
 $\alpha$  ジ

## (丁) 舌本音

(一)  $\alpha$ ハ、[舌本・閉]ニシテ、下圖ノ如ク、舌ノ後部ガ、軟口蓋ト密接シテ、全ク塞ガレタルモノナレバ、此位置ニテハ、何等ノ音モ發セザレド、之ニ[ ] [ ] [ ] [ ]ヲ加フレバ、 $\alpha$ (カ)  $\alpha$ (キ)  $\alpha$ (ク)  $\alpha$

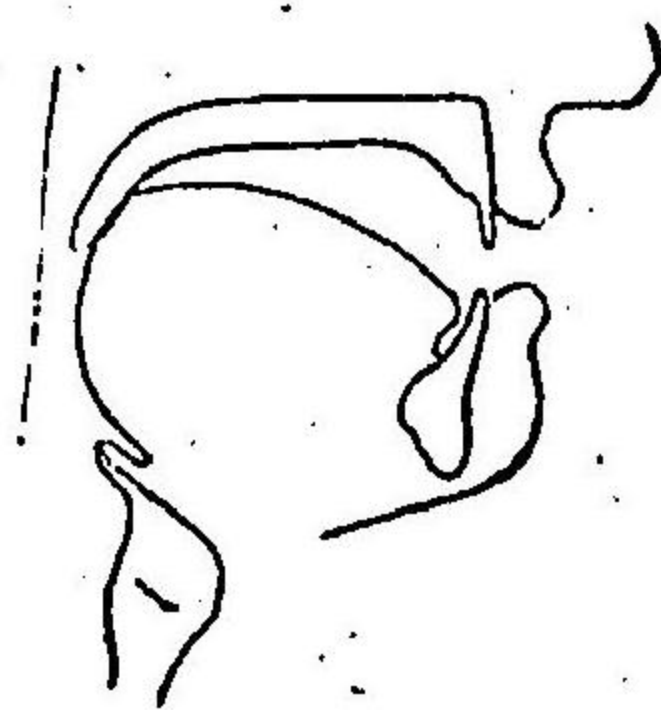
(ケ)  $\alpha$ (コ)ノ子音ヲ生ズ。

第廿四圖

 $\alpha$  ク

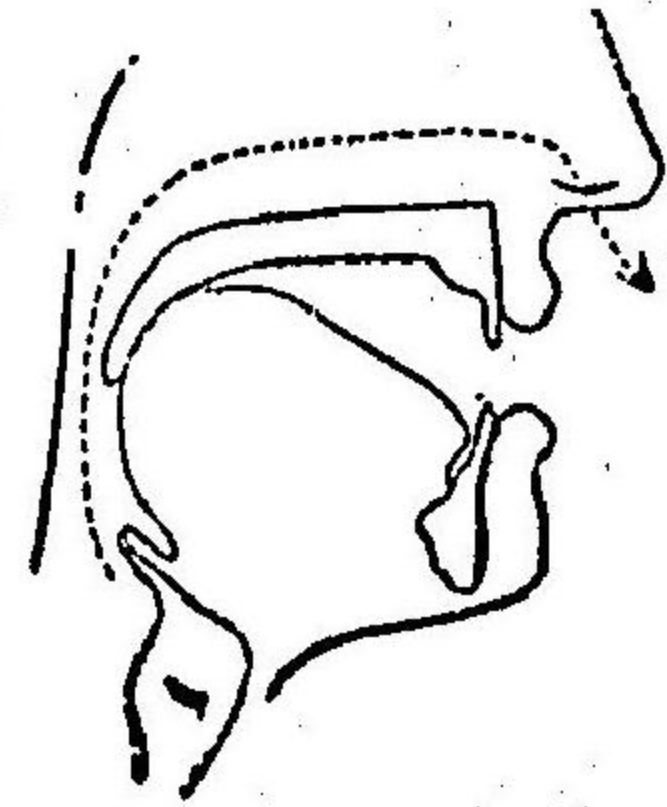
(二)  $\alpha$ ハ、[舌本・閉・聲]ナレバ、舌ノ位置ヲ、前同様ニシテ、下圖ノ如ク、之ニ聲ヲ加ヘタルモノナリ。サレバ其音ハ、喉頭ニテ[ウ]ノ如キ微音ヲ生ズルノミニシテ、明亮ナル能ハズ。之ニ[ ] [ ] [ ]ヲ加レバ、 $\alpha$ (ガ)  $\alpha$ (ギ)  $\alpha$ (グ)  $\alpha$ (ゲ)  $\alpha$ (ゴ)ノ子音ヲ生ズ。

第廿五圖

 $\alpha$  グ

(三)ㄱハ[舌本・閉・聲・鼻]=シテ、下圖ノ如ク、舌ノ位置ヲ、前同様ニシ、[ㄴ]ト[ウ]トノ間ノ如キ[グ]ノ音ヲ、鼻ヲ通ジテ發スルモノナリ。之ニ[ㄷ]ト[ㄷ]トヲ加フレバ、ㄱ(カ) ㄱ(キ) ㄱ(ク) ㄱ(ゲ) ㄱ(コ)ノ子音ヲ生ズ。

第廿六圖



ㄱ. グ

## (戊) 喉音

(一)ㅇハ、喉頭ノ聲帶ヲ全ク開キテ、更ニ支フル所ナク、氣息ヲ通ゼシムルヨリ發スル音ニシテ、殆ンド子音トハ認メ難ク、寧ロ聲ノ性狀トシテ見ルベキモノナリ。之ニ[ㄷ]ト[ㄷ]トヲ加フレバ、ㅇ(ハ) ㅇ(ヒ) ㅇ(ヘ) ㅇ(ホ)ノ子音ヲ生ズ。

## 拗音ノ部

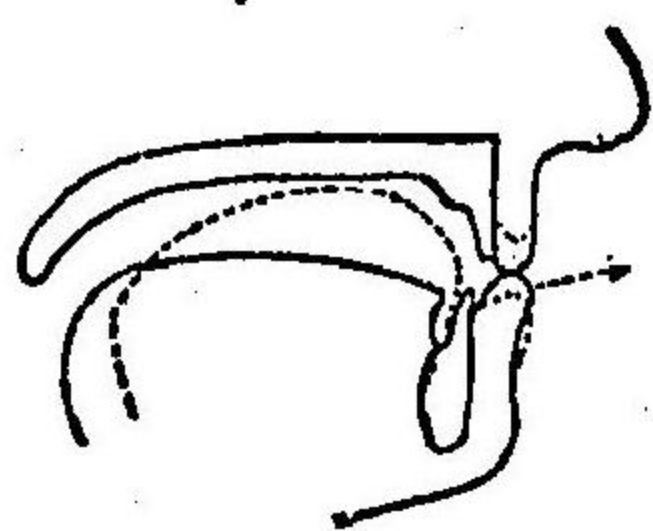
凡ソ發音器ガ、或ル父音ノ位置ヨリ、直ニ他ノ父音ノ位置ニ轉移シ、其際一父音ノ如キ音ヲ發ス。之ニ或ル母韻ヲ配セテ生スル所ノ音ヲ拗音ト云フ。拗音ニハ[唇・舌上音][舌頭・舌上音][舌本・舌上音]ノ三類アレバ、其順次ニ從ヒ之ヲ説クベシ。

## (甲) 唇・舌上音

(一)ㅇㅇハ、[唇・閉・加・舌上・開]音ニシテ、兩父音ノ位置ノ轉移ハ、下圖ニ示スガ如ク、黒線ノ位置ヨリ點線ノ位置ニ移リ、[ㅈ]ノ如キ音ヲ生ジ、之ニ[ㄷ]ト[ㄷ]トノ母韻ヲ合スレバ、ㅇㅇ(ㅈ) ㅇㅇ(ㅈ)ㅇㅇ(ㅈ)ノ拗音ヲ生ズルモノナリ。

(二)ㅇㅇハ、前拗音ノ位置ニ聲ヲ加ヘタルモノニシテ、[ㅈ]ノ如キ音ヲ生ジ、之ニ[ㄷ]ト[ㄷ]トヲ合スレバ、ㅇㅇ(ㅈ) ㅇㅇ(ㅈ)又ハ ㅇㅇ(ㅈ)ノ拗音トナル。

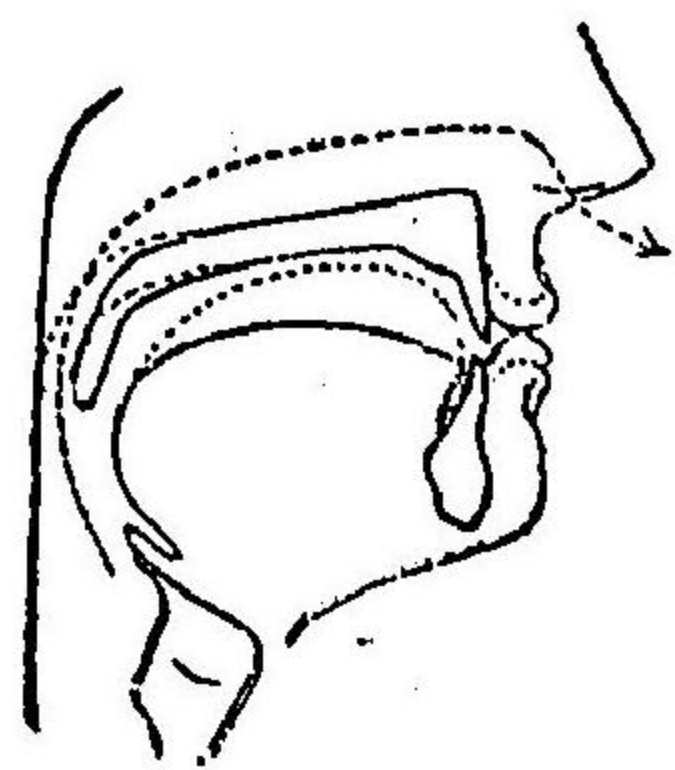
第廿七圖



oo ビ。

(三)ooハ、[唇閉・聲・鼻・加・舌上・開・聲]ニシテ、兩父音轉移ノ狀ハ、下圖ノ如ク、第一oノ位置ニテハ、鼻ヲ通ジテ[ウ]ノ如キ音ヲ發シ、第二ニ移ルノ際ニ軟口蓋ヲ上ゲテ、鼻音ヲ絶チ、忽チ舌上ヲ隆起シテ、oノ位置ヲ取り、之ニ[イ]ノ母韻ヲ合スレバ、ooi(ミ) ooi(ミ) ooi(ミ)ノ拗音ヲ生ズルモノナリ。

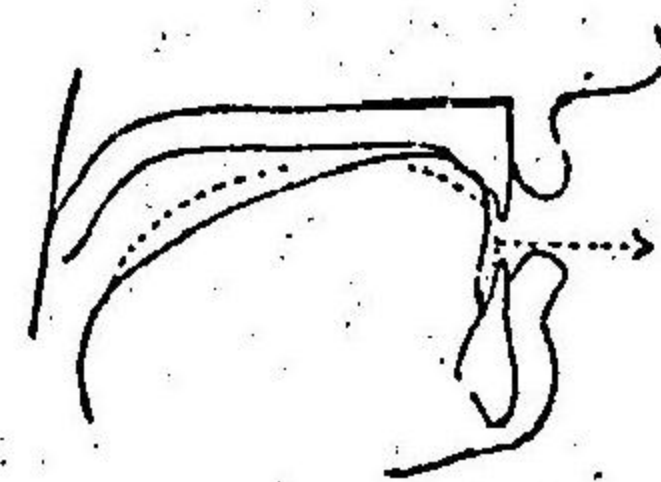
第廿八圖



oi ミ。

(四)ooハ、[舌頭閉・加・舌頭・開・舌上・開]ニシテ、兩父音ノ位置ノ轉移ハ、下圖ニ示スガ如シ。其發スル音ハ、[ツ]ノ如クニシテ、之ニ[イ]ノ母韻ヲ合スレバ、ooi(チ) ooi(ツ) ooi(ツ)ノ拗音ヲ生ズ。

第廿九圖

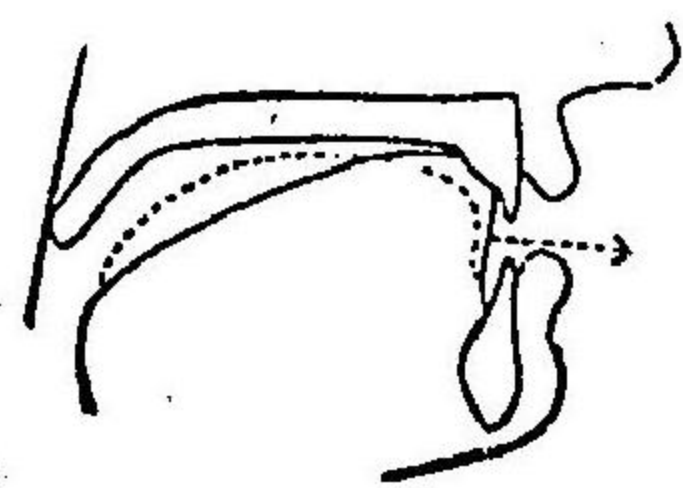


oo ツ

(五)ooハ、[唇閉・加・舌上・開・舌頭・開]ニシテ、兩父音ノ轉移ハ、下圖ニ示ス如シ。前ノ拗音ノ位置ト、此位置トノ異ナル所ハ、第二ノ父音ニ移ルニ際シ、彼ハ主トシテ舌頭ヲ使ヘドモ、此ハ、主トシテ舌上ヲ使フニヨリ、舌上隆起ノ結果トシテ、舌頭ハ愈々内部ニ入り、殆ド硬口蓋ノ前端ト相對スル位置ニ至ルニ在リ。其發スル所ノ音ハ、[チ]ノ如クニシテ、之ニ[イ]ノ母韻ヲ合スレバ、ooi(チ) ooi(チ) ooi(チ)ノ拗音ヲ生ズルモノナリ。

(六)  $\omega\eta$  ハ、[唇閉・聲・加・舌上・開・舌頭・開・聲] = シテ、前拗音ト同様ノ位置ニ、聲ヲ加ヘタルモノナリ。之ニ  $\imath$   $i$   $\ddot{i}$   $\ddot{i}$  ノ一ヲ合スレバ、 $\omega\eta\imath$  (ジ<sub>+</sub>)  $\omega\eta i$  (ジ<sub>+</sub>)  $\omega\eta\ddot{i}$  (ジ<sub>+</sub>) ノ拗音トナル。又近畿邊ニハ、[ゼ = [錢)ヲ[ジ<sub>+</sub> = ]ノ如ク言フモノアリ。此ノ[ジ<sub>+</sub>ハ、全ク此拗音ニ、]ヲ合セタル  $\omega\eta\imath$  = 當タルモノナリ。

第三十圖

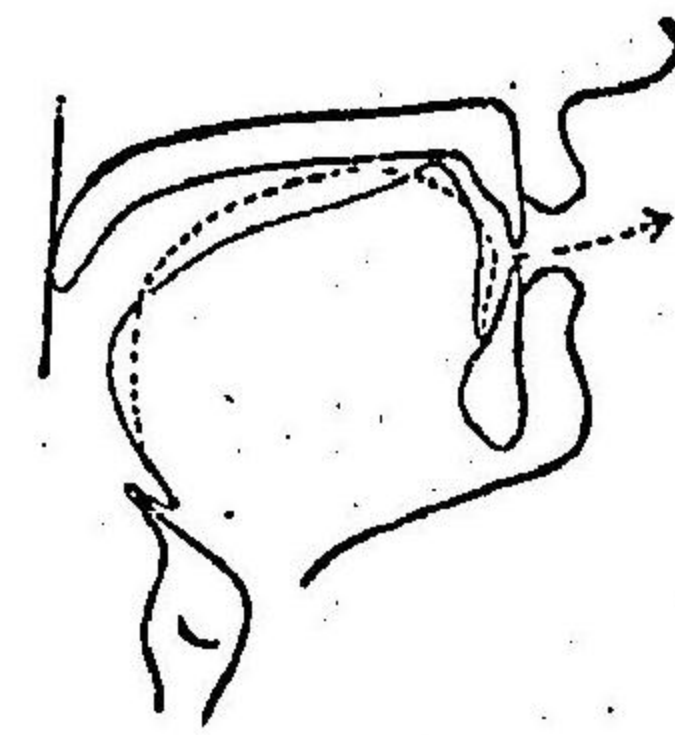


ωηチ

## (乙) 舌頭・舌上音

(一)  $\omega\eta$  ハ [舌頭・開・聲・加・舌上・開・聲] = シテ、兩父音轉移ノ狀ハ、下圖ニ示スガ如ク、主トシテ舌頭ノ位置ノ變化ニ在リ。之ニ  $\imath$   $i$   $\ddot{i}$   $\ddot{i}$  ノ一ヲ合スルトキハ、 $\omega\eta\imath$  (リ<sub>+</sub>)  $\omega\eta i$  (リ<sub>+</sub>)  $\omega\eta\ddot{i}$  (リ<sub>+</sub>) ノ拗音ヲ生ズ。

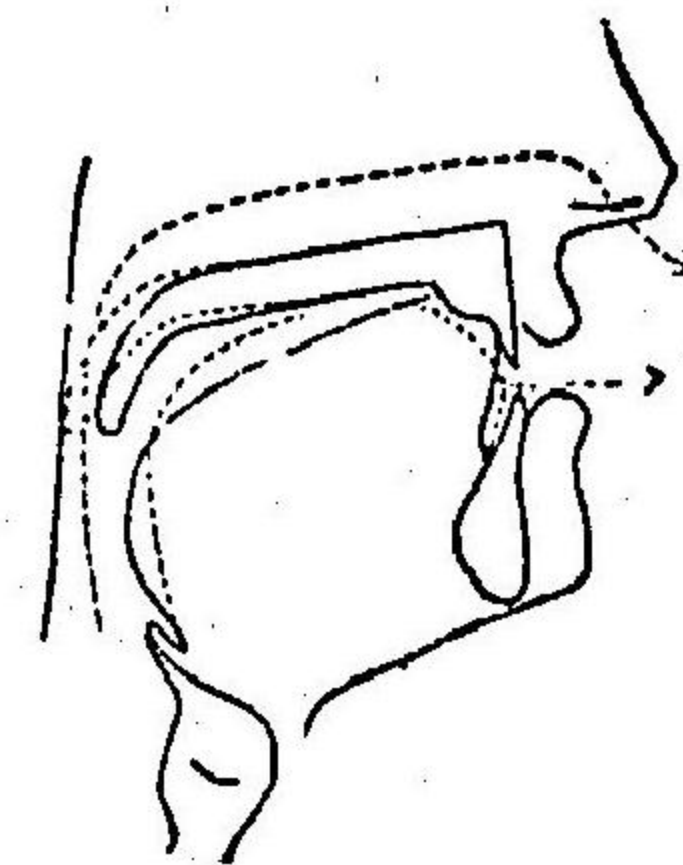
第三十一圖



ωηリ

(二)  $\omega\eta$  ハ、[舌頭・閉・聲・鼻・加・舌上・開・聲] = シテ、兩父音轉移ノ狀ハ、下圖ニ示スガ如ク、舌頭ノ閉開ト、軟口蓋ノ下上トノ變化ニ在リ。之ニ  $\imath$   $i$   $\ddot{i}$   $\ddot{i}$  ノ一ヲ合スレバ、 $\omega\eta\imath$  (= <sub>+</sub>)  $\omega\eta i$  (= <sub>+</sub>)  $\omega\eta\ddot{i}$  (= <sub>+</sub>) ノ拗音ヲ生ス。

第三十二圖



ωηニ

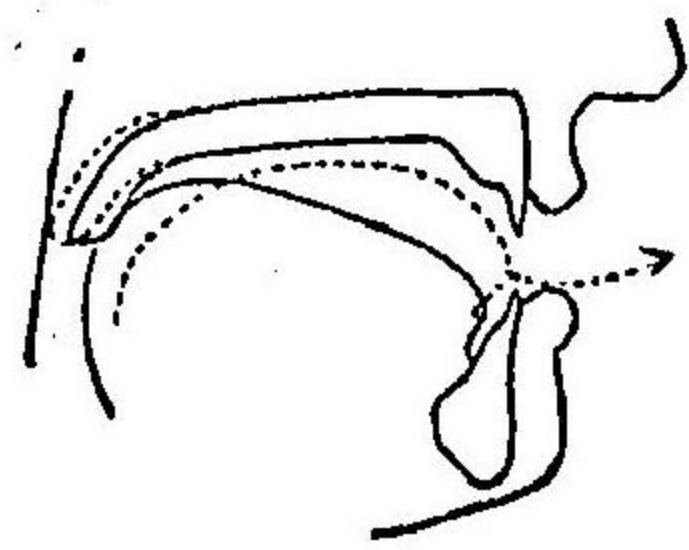


## (丙) 舌本・舌上音

(一)  $an$  ハ、[舌本閉・加舌上・開] = シテ、兩父音轉移ノ主タル所ハ、下圖ノ如ク、舌本ノ前進、軟口蓋ノ下上、及舌上ノ隆起 = 在リ。其發スル所ノ音ハ、[キ<sub>上</sub>]ノ如ク = シテ、之 =  $i$   $i$   $i$  ノ一ヲ合スレバ、 $an$ (キ<sub>上</sub>)  $an$ (キ<sub>上</sub>)  $an$ (キ<sub>上</sub>)ノ拗音ヲ生ズ。又東北地方ノ人ノ、[キ<sub>上</sub>]ヲ[チ]ノ如ク言フハ、主トシテ此音 =  $i$ ヲ合セタルモノ、即チ  $an$ ノ拗音ヨリ成レルモノト知ルヘシ。

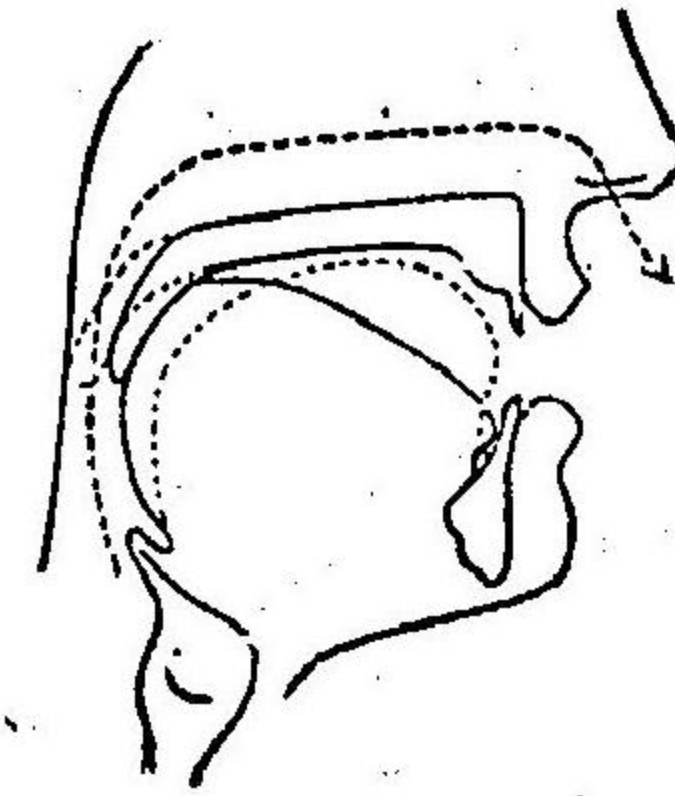
(二)  $en$  ハ、[舌本閉・聲・加舌上・開・聲] = シテ、前ノ拗音 = 聲ヲ加ヘタルモノナリ。之 =  $i$   $i$   $i$  ノ一ヲ合スレバ、 $en$ (キ<sub>上</sub>)  $en$ (キ<sub>上</sub>)  $en$ (キ<sub>上</sub>)ノ拗音ヲ生ズ。

第三十三圖

 $an$  キ<sub>上</sub>

(三)  $en$  ハ、[舌本閉・聲・鼻・加舌上・開・聲] = シテ、兩父音轉移ノ狀ハ、舌本閉ノ位置、舌上・開 = 變ズルト共 = 軟口蓋ノ上リテ、鼻腔ノ通路ヲ塞グ = 在リ。之 =  $i$   $i$   $i$  ノ一ヲ合スレバ、 $en$ (キ<sub>上</sub>)  $en$ (キ<sub>上</sub>)  $en$ (キ<sub>上</sub>)ノ拗音ヲ生ズ。

第三十四圖

 $en$  キ<sub>上</sub>

## 五十音及拗音ノ辨

我五十音中、或ル行ノ音ノ混亂セルコトハ、普ク世人ノ知ル所 = シテ、既 = 先覺者ノ論說モアルコトナレド、今視話法ノ理法 = 照ラシテ推究スルキハ、愈其紛亂ノ顯著ナルヲ發見スベシ。先ツ下ノ表ヲ一覽シテ、其大略ヲ悟ラシコトヲ要ス。

此表中、或ル行中ニ、他ノ音ノ混入セルモ  
 ノハ、之ヲ其行外ニ出シ、直ニ其下ニ之ガ本  
 屬タルベキ行ノ音ヲ〔 〕中ニ記シ、以テ辨識  
 ノ助トセリ。又古來學理上ニ存在セルノミ  
 ニシテ、今日ニ存立セザル音、及ビ或ル地方  
 ニ限リ存在セル音ハ、( )ノ中ニ置キテ之ヲ  
 區別セリ。又或ル一種ノ音ノ如キ、之ヲ表ス  
 ベキ假字ノ皆無ナルカ、又ハ不定ナルモノ  
 ハ、單ニ□ヲ記シ、之ニ對スル視話法音字ノ  
 ミヲ記セリ。

### 五十音

ア	イ	ウ	エ	オ	=	ɨ	ɪ	ʌ	ɛ	ɔ
カ	キ	ク	ケ	コ	=	ɑ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ
サ	—	ス	セ	ソ	=	ʊ	—	ʊɪ	ʊɪ	ʊɪ
[シ <sub>+</sub> シ	シ <sub>+</sub>	シ <sub>+</sub>	(シ <sub>+</sub> )	シ <sub>+</sub> ]	=	[ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	(ɑɪ)	ɑɪ]
タ	—	—	テ	ト	=	ɑ	—	—	ɑ	ɑ
[チ <sub>+</sub> チ	チ <sub>+</sub>	チ <sub>+</sub>	—	チ <sub>+</sub> ]	=	[ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	—	ɑɪ]
*□	—	ツ	—	*□	=	[ɑɪ	—	ɑɪ	—	ɑɪ]

ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	=	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ
ハ	ヒ	—	ヘ	ホ	=	ɑ	ɑɪ	—	ɑ	ɑ
〔□ <sup>⊙</sup>	□ <sup>⊙</sup>	フ	—	□ <sup>⊙</sup> 〕	=	[ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	—	ɑɪ]
マ	ミ	ム	メ	モ	=	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ
ヤ	(イ)	ユ	(エ)	ヨ	=	ɑ	(ɑɪ)	ɑɪ	(ɑɪ)	ɑɪ
ラ	リ	ル	レ	ロ	=	ɑ	ɑɪ	ɑɪ	ɑ	ɑ
ワ	(井)	(ウ)	(エ)	ヲ	=	ɑɪ	(ɑɪ)	(ɑɪ)	(ɑɪ)	ɑɪ

### 濁音

ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	=	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ
[ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ]	=	[ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ]
ヂ	—	ヅ	ゼ	ゾ	=	ɑɪ	—	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ
[ジ <sub>+</sub> ジ	ジ <sub>+</sub>	(ジ <sub>+</sub> )	ジ <sub>+</sub> ]	=	[ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	(ɑɪ)	ɑɪ]	
ヅ	—	—	テ	ト	=	ɑ	—	—	ɑ	ɑ
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	=	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ

### 次清音

パ	ピ	プ	ペ	ポ	=	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ	ɑɪ
---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----

\* 支那及臺灣語學ニハ、Lチ<sub>+</sub>Lソ<sub>+</sub>ノ文字ヲ用ルコトトセリ。  
 ② 通例ニハ、Lフ<sub>+</sub>Lフ<sub>+</sub>Lフ<sub>+</sub>ノ文字ヲ用ルコトアリ。

## 拗音

ヒ <sub>+</sub>	ヒ <sub>+</sub>	ヒ <sub>+</sub>	=	㇀	—	㇁	—	㇂
キ <sub>+</sub>	キ <sub>+</sub>	キ <sub>+</sub>	=	㇃	—	㇄	—	㇅
ギ <sub>+</sub>	ギ <sub>+</sub>	ギ <sub>+</sub>	=	㇆	—	㇇	—	㇈
ギ <sub>+</sub>	ギ <sub>+</sub>	ギ <sub>+</sub>	=	㇉	—	㇊	—	㇋
ニ <sub>+</sub>	ニ <sub>+</sub>	ニ <sub>+</sub>	=	㇌	—	㇍	—	㇎
ビ <sub>+</sub>	ビ <sub>+</sub>	ビ <sub>+</sub>	=	㇏	—	㇐	—	㇑
ビ <sub>+</sub>	ビ <sub>+</sub>	ビ <sub>+</sub>	=	㇒	—	㇓	—	㇔
ミ <sub>+</sub>	ミ <sub>+</sub>	ミ <sub>+</sub>	=	㇕	—	㇖	—	㇗
リ <sub>+</sub>	リ <sub>+</sub>	リ <sub>+</sub>	=	㇘	—	㇙	—	㇚

此表 = 照シテ明ナルガ如ク[サ]行ノ[シ]ハ、全ク別行ナル㇀行 = 屬シ、[タ]行ノ[チ]ハ、㇃行ニ、[ツ]ハ、㇆行ニ、[フ]ハ㇉行 = 屬スベキモノナリ。又[ヤ]行ノ[イ]及ビ[ワ]行ノ[ヰ]ト[ヱ]トノ音ハ、古代ニハ存在シタルモノナランモ、今ハ唯理論上ニ存スルニ過ギズ。又[ヤ]行ノ[エ]ハ、地方ニ依リ猶其固有ノ㇆音ヲ用非ルモノアレハ、一般ニ行ハレザルモノナリ。

濁音ノ中ニテモ、[ザ]行ノ[ジ]ハ、別行ナル㇀行ニ屬シ、[ダ]行ノ[チ]モ、亦同ジク其行ニ屬シ、[ヅ]ハ[ザ]行ノ㇁ト同化セリ。而シテ[ガ]行ニハ、其鼻音タル㇃行アレハ、之ヲ表スベキ假字ナシ。但近來[カ]ノ字ヲ往々使用スルモノアルニヨリ、余モ、暫ク之ニ從ヘリ。

次清音ニハ、別ニ言フベキコトナシ。

拗音中ニ在ル[ヒ<sub>+</sub>]行ハ、固ヨリ單純ナル一父音ト一母韻トヨリ成立スルモノニシテ、シカモ此音ハ兩羽地方ニテ、[ヤ]行ニ代用セラル、コトアルモノナレバ、清音中ニ入ルベキモノナリ。又[シ<sub>+</sub>]行モ從來拗音中ニ加ヘラレタルモノナレハ、前同様ノ理由ニヨリ、清音中ニ入ルベキモノトス。

之ニ反シテ、拗音ニ移サルベキモノハ、從來清音中ニ列シタル[チ][ツ]ノ、二音ト、濁音中ノ[ジ][チ]ノ音ナリトス。其理由ハ、此等ノ音ノ、二個ノ父音ト、一個ノ母韻トヨリ成レルニ依レルハ、更ニ辨ズルヲ要セザルベシ。

前文ノ理論ニ基ツキテ、純雜ヲ考ヘ、清濁ヲ分チ、更ニ五十音圖ニ基ツキ、清音、濁音、次清音及拗音ヲ正シテ、之ガ圖ヲ製スレバ下ノ如シ。

清音

ア	イ	ウ	エ	オ	=	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ	ɿ
カ	キ	ク	ケ	コ	=	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ
サ	—	ズ	セ	ソ	=	ʊɿ	—	ʊɿ	ʊɿ	ʊɿ
シ	シ	シ	シ	シ	=	ɲɿ	ɲɿ	ɲɿ	(ɲɿ)	ɲɿ
タ	—	—	テ	ト	=	ɔɿ	—	—	ɔɿ	ɔɿ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	=	ʉɿ	ʉɿ	ʉɿ	ʉɿ	ʉɿ
ハ	ヒ	—	ヘ	ホ	=	oɿ	oɿ	—	oɿ	oɿ
(フ)	(フ)	フ	(フ)	(フ)	=	(ɸɿ)	(ɸɿ)	ɸɿ	(ɸɿ)	(ɸɿ)
マ	ミ	ム	メ	モ	=	ɐɿ	ɐɿ	ɐɿ	ɐɿ	ɐɿ
ヒ	—	ヒ	—	ヒ	=	oɿ	—	oɿ	—	oɿ
ヤ	(イ)	ユ	(エ)	ヨ	=	oɿ	(oɿ)	oɿ	(oɿ)	oɿ
ラ	リ	ル	レ	ロ	=	ʊɿ	ʊɿ	ʊɿ	ʊɿ	ʊɿ
ワ	(ヰ)	(ウ)	(エ)	ヲ	=	ɐɿ	(ɐɿ)	(ɐɿ)	(ɐɿ)	ɐɿ

濁音

ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	=	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ
カ	キ	ク	ケ	コ	=	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ
ザ	—	ズ	ゼ	ゾ	=	ʊɿ	—	ʊɿ	ʊɿ	ʊɿ
—	(ジ)	—	—	—	=	—	(ɲɿ)	—	—	—
ダ	—	—	デ	ド	=	ɔɿ	—	—	ɔɿ	ɔɿ
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	=	ɐɿ	ɐɿ	ɐɿ	ɐɿ	ɐɿ

次清音

パ	ピ	プ	ペ	ポ	=	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ
---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----

拗音

キ	—	キ	—	キ	=	ɑɿ	—	ɑɿ	—	ɑɿ
ギ	—	ギ	—	ギ	=	ɑɿ	—	ɑɿ	—	ɑɿ
キ	—	キ	—	キ	=	ɑɿ	—	ɑɿ	—	ɑɿ
チ	チ	チ	—	チ	=	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	—	ɑɿ
ジ	ジ	ジ	(ジ)	ジ	=	ɑɿ	ɑɿ	ɑɿ	(ɑɿ)	ɑɿ
ツ	—	ツ	—	ツ	=	ɑɿ	—	ɑɿ	—	ɑɿ

ニ <sub>+</sub>	—	ニ <sub>u</sub>	—	ニ <sub>n</sub>	=	ㄸㄴ	—	ㄸㄴɪ	—	ㄸㄴɪ
ピ <sub>+</sub>	—	ピ <sub>u</sub>	—	ピ <sub>n</sub>	=	ㄸㄴ	—	ㄸㄴɪ	—	ㄸㄴɪ
ビ <sub>+</sub>	—	ビ <sub>u</sub>	—	ビ <sub>n</sub>	=	ㄸㄴ	—	ㄸㄴɪ	—	ㄸㄴɪ
ミ <sub>+</sub>	—	ミ <sub>u</sub>	—	ミ <sub>n</sub>	=	ㄸㄴ	—	ㄸㄴɪ	—	ㄸㄴɪ
リ <sub>+</sub>	—	リ <sub>u</sub>	—	リ <sub>n</sub>	=	ㄸㄴ	—	ㄸㄴɪ	—	ㄸㄴɪ

上圖ノ如ク,區別スト雖モ,從來音韻家ガ清濁ノ別ヲ立ツルハ,視話法ニ所謂ユル有聲音ト,無聲音トノ差ニ因ルガ如シ。果シテ然ラバ,清音中ノ[ナ]行[マ]行[ヤ]行[ラ]行[ワ]行ハ,有聲ナルヲ以テ,濁音中ニ入り,[バ]行ハ,無聲ナルヲ以テ,却テ清音中ニ移リ,其成果トシテ,次清音ノ一種ハ,全ク消滅ニ歸シ,拗音ハ,更ニ清濁ノ二種ニ分チ,清音,濁音,清拗音,濁拗音ト分類スルヲ當レリトスベシ。斯クテユソ始メテ正確ナル分類ヲ爲シ得タリト云フベキカ。之ヲ一覽表ニ製スレバ,即チ下ノ如シ。

清音

ア イ ウ エ オ = ɿ ɿɪ ɿɪɪ ɿɪɪɪ ɿɪɪɪɪ

カ	キ	ク	ケ	コ	=	ㄸㄴ	ㄸㄴɪ	ㄸㄴɪɪ	ㄸㄴ	ㄸㄴɪ
サ	—	ズ	セ	ゾ	=	ㄸㄴ	—	ㄸɪɪ	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
シ <sub>+</sub>	シ	シ <sub>u</sub>	(シ <sub>u</sub> )	シ <sub>n</sub>	=	ㄸㄴ	ㄸㄴɪ	ㄸɪɪ	(ㄸㄴ)	ㄸɪɪ
タ	—	—	テ	ト	=	ㄸㄴ	—	—	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
ハ	ヒ	—	ヘ	ホ	=	ㄸㄴ	ㄸɪɪ	—	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
(フ <sub>+</sub> )	(フ <sub>u</sub> )	フ	(フ <sub>u</sub> )	(フ <sub>n</sub> )	=	(ㄸㄴ)	(ㄸㄴɪ)	ㄸɪɪ	(ㄸㄴ)	(ㄸɪɪ)
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	=	ㄸㄴ	ㄸㄴɪ	ㄸɪɪ	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
ヒ <sub>+</sub>	—	ヒ <sub>u</sub>	—	ヒ <sub>n</sub>	=	ㄸㄴ	—	ㄸɪɪ	—	ㄸɪɪ

濁音

ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	=	ㄸㄴ	ㄸㄴɪ	ㄸɪɪ	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ	=	ㄸㄴ	ㄸㄴɪ	ㄸɪɪ	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
ザ	—	ズ	ゼ	ゾ	=	ㄸㄴ	—	ㄸɪɪ	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
—	(ジ)	—	—	—	=	—	(ㄸㄴ)	—	—	—
ダ	—	—	デ	ド	=	ㄸㄴ	—	—	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	=	ㄸㄴ	ㄸㄴɪ	ㄸɪɪ	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
バ	ビ	ブ	ベ	ボ	=	ㄸㄴ	ㄸㄴɪ	ㄸɪɪ	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
マ	ミ	ム	メ	モ	=	ㄸㄴ	ㄸㄴɪ	ㄸɪɪ	ㄸㄴ	ㄸɪɪ
ヤ	(イ)	ユ	(エ)	ヨ	=	ㄸㄴ	(ㄸㄴ)	ㄸɪɪ	(ㄸㄴ)	ㄸɪɪ

ラ リ ル レ ロ = ㄌ ㄌf ㄌt ㄌ ㄌ  
 ワ (井) (ウ) (エ) ナ = ㄋ ㄋf ㄋt ㄋ ㄋ

清 拗 音

キ<sub>+</sub> - キ<sub>u</sub> - キ<sub>o</sub> = ㄎ ㄎf ㄎt - ㄎ  
 チ<sub>+</sub> チ<sub>u</sub> - チ<sub>o</sub> = ㄊ ㄊf ㄊt - ㄊ  
 (チ) - ツ - (ツ) = (ㄊ) - ㄊt - (ㄊ)  
 ピ<sub>+</sub> - ピ<sub>u</sub> - ピ<sub>o</sub> = ㄆ ㄆf ㄆt - ㄆ

濁 拗 音

ギ<sub>+</sub> - ギ<sub>u</sub> - ギ<sub>o</sub> = ㄍ ㄍf ㄍt - ㄍ  
 キ<sub>+</sub> - キ<sub>u</sub> - キ<sub>o</sub> = ㄎ ㄎf ㄎt - ㄎ  
 ジ<sub>+</sub> ジ<sub>u</sub> (ジ<sub>u</sub>) ジ<sub>o</sub> = ㄗ ㄗf ㄗt (ㄗ) ㄗ  
 ニ<sub>+</sub> - ニ<sub>u</sub> - ニ<sub>o</sub> = ㄋ ㄋf ㄋt - ㄋ  
 ビ<sub>+</sub> - ビ<sub>u</sub> - ビ<sub>o</sub> = ㄆ ㄆf ㄆt - ㄆ  
 ミ<sub>+</sub> - ミ<sub>u</sub> - ミ<sub>o</sub> = ㄇ ㄇf ㄇt - ㄇ  
 リ<sub>+</sub> - リ<sub>u</sub> - リ<sub>o</sub> = ㄌ ㄌf ㄌt - ㄌ

日本音韻ノ統合

我國現時ノ純正ナル音韻ヲ統合スレバ、母

韻五、子音七十一、拗音三十五ニシテ、總ヘテ百  
 十一音トナル。之ヲ五十音ノ例ニ倣ヒテ、縱横  
 ニ配列スレバ、五段三十行トナル。即下ニ示ス  
 ガ如シ。

日本音韻統合一覽

母 韻 五

ㄌ ㄌf ㄌt ㄌ ㄌ

子 音 七十一

唇 音

ㄆ ㄆf ㄆt ㄆ ㄆ

ㄆ ㄆf ㄆt ㄆ ㄆ

ㄆ ㄆf ㄆt ㄆ ㄆ

- - ㄆt - -

ㄆ - - - ㄆ

舌 頭 音

ㄎ ㄎf ㄎt ㄎ ㄎ

ㄅ — — ㄅ ㄅ  
 ㄆ — — ㄆ ㄆ  
 ㄇ ㄇ ㄇ ㄇ ㄇ  
 ㄏ — ㄏ ㄏ ㄏ  
 ㄏ — ㄏ ㄏ ㄏ

舌上音

ㄉ — ㄉ — ㄉ  
 ㄊ — ㄊ — ㄊ  
 ㄋ ㄋ ㄋ — ㄋ

舌本音

ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ  
 ㄊ ㄊ ㄊ ㄊ ㄊ  
 ㄊ ㄊ ㄊ ㄊ ㄊ

喉音

ㄌ ㄌ — ㄌ ㄌ

拗音 三十五

唇・舌上音

ㄍ — ㄍ — ㄍ

ㄅㄛ — ㄅㄛ — ㄅㄛ  
 ㄆㄛ — ㄆㄛ — ㄆㄛ  
 ㄇㄛ — ㄇㄛ — ㄇㄛ  
 ㄏㄛ ㄏㄛ ㄏㄛ — ㄏㄛ

舌頭・舌上音

ㄉㄛ — ㄉㄛ — ㄉㄛ  
 ㄊㄛ — ㄊㄛ — ㄊㄛ

舌本・舌上音

ㄉㄛ — ㄉㄛ — ㄉㄛ  
 ㄊㄛ — ㄊㄛ — ㄊㄛ  
 ㄊㄛ — ㄊㄛ — ㄊㄛ

## 英國音韻

## 母韻ノ部

英國ノ母韻ハ、普通母韻表ニ比シ、其數幾許ナリヤトイフニ、凡テ十六個ニシテ、中四個ハ、原母韻ニ屬シ、六個ハ廣母韻ニ屬シ、三個ハ、圓口原母韻ニ屬シ、全ジク三個ハ、圓口廣母韻ニ屬スルモノトス。彼普通母韻ノ三十六中ノ十六個ヲ占ムルモノナレバ、比較的ニ其數多シトイフベシ。而シテ其中五個ハ、日本ノ母韻ニ全ジ。詳細ハ、下ノ英國母韻表ニ就テ知ルベシ。

## 英國母韻表

第一類 原母韻		後	中	前	第二類 廣母韻		後	中	前
	高			i		高			
						廣			i
	中	j		i*		中			
						廣	j	i*	
	低			低					
				廣	j	i	i	i	
第三類 圓口原母韻		後	中	前	第四類 圓口廣母類		後	中	前
	圓高	i*				圓高			
						廣	i		
	圓中	i*				圓中			
						廣	i		
	圓低	i		圓低					
				廣	i				



(注意)此ノ所ニ於テ、前ニ普通母韻ノ部ニ於テ學ビタル各母韻ノ名稱ヲ復習シ、英國ノ母韻ハ、何々ナルカタ明記スベシ。又其中日本母韻ニ全ジキモノハ、星點ヲ記シテ區別シタレバ、ソノ何レニ屬スルカタ善ク記憶スルヲ要ス。

サテ是等ノ母韻ガ、如何ナル音ヲ發スルカハ、前ニ日本音韻ノ豫備練習ノ部ニ於テ説キタル如ク、先ツ前部ヨリ初メ、舌ノ位置ノ上ケ下ケヲ練習シ、之ニ聲ヲ加フベシ。然ル時ハ、初メ最高ノ位置ニテ[イ]ノ音ヲ得、漸次ニ下降スルニ隨ヒ、前部ニ屬スル所ノ諸韻ヲ發シ、遂ニ[ア]ノ音色ヲ帶ビタル如キ[エ]、即チ[イ]ノ韻ニ至リテ止ム。

次ニ後部ノ練習ニ於テハ、舌ノ位置ヲ最モ高クシ、且ツ口ヲ圓クシテ發スル所ノ音ハ、[ウ]即チ[イ]ナリ。之ヨリ順次舌ヲ低下スルキハ、遂ニ[オ]ノ音ニ[ア]ノ音色ヲ帶ブルガ如キ者、即チ[ウ]ニ至リテ止ム。斯クテ後部圓ニ屬スル所ノ

諸韻ヲ發シ得ルモノナリ。

斯ノ如ク舌ノ前部、及後部ニ屬スル所ノ母韻ハ、悉ク發シ得ルト雖モ、其上下ノ音ノ各段ニ標的トスルモノアラズンバ、何レノ位置ニ於テ發スル音ガ、何レノ韻ナルカタ知ルコト能ハズ。然ルニ幸ニシテ我國ノ[イ]ハ、前部母韻ノ最上ニ在リ、[エ]ハ、其正中ニ位シ、又我國ノ[ウ]ハ、後部母韻ノ最上ニ[オ]ハ、其正中ニ位スルヲ以テ、此四韻ヲ標的トシテ、其以下ノ諸韻ヲ定ムルコトヲ得ルナリ。

中部母韻ノ練習モ、亦前部及ビ後部ニ於ケル如シト雖モ、其最高ノ音ハ、甚ダ得易カラズ。然ルニ我國ノ[ア]ハ、恰カモ其正中ノ下ニ當リ、所謂自然音ニ、最モ近クシテ、何人モ、容易ク發シ得ベキモノナレバ、之ヲ標的トシテ、其上下諸韻ノ位置ヲ定メ、又夫ヨリ前部又ハ後部ニ對シ、同位ノ韻ヲ得、再ビ其韻ヲ標的トシテ、其上下ノ韻ヲ定ムルコトヲ得ルナリ。此ニ日本及英國母韻對照表ヲ掲ゲ、上ニ説キタル理

ナ明ニス。之ニ就テ其要ヲ悟ルベシ。

### 日本及英國母韻對照表

圓後	後	中	前
ヰウ			〔イ
ヰヅ			〔ヱ
ヰホ	〕ア		〔エ
ヰオ	〕ア	〕ア	
ヰオ			〔エ
ヰオ	〕ア	〕ア	〔エ

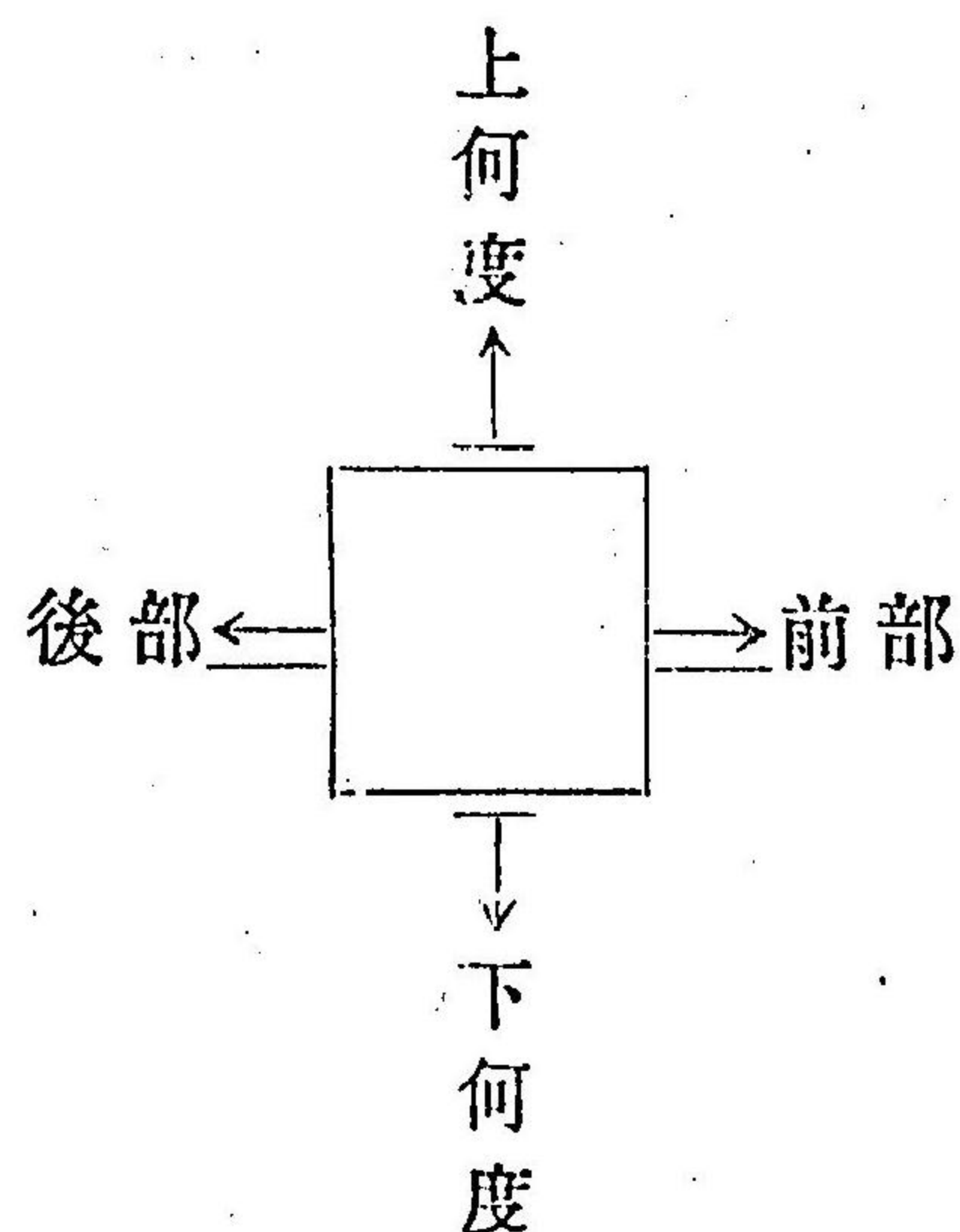
〕イ, 〕ア,

〕エ

凡ソ外國ノ音韻ヲ學ブニハ本國ノ音韻ニ照シテ、各韻ノ位置ヲ定メザル可ラズ。然ルニ我國ニ於テハ、今日ニ至ルマデ、比較音韻學等ノ研究ヲナセシモノナキニヨリ、英語、佛語、又ハ獨逸語等ヲ學ブニモ、其外國ノ某母韻ハ、我國ノ如何ナル母韻ニ當リ、或ハ如何ニ我母韻ヨリ變ズルカヲ知ルコト能ハズ。爲ニ學生ヲシテ、大ナル困難ヲ感ゼシメタリ。今此法ニ於テハ、我國ノ母韻ヲ標的トシ、之ニ對シテ、外國母韻ノ異ナル所ヲ測定シ、一々度數ニヨリテ、之ヲ表スルノ方法ヲ立テタレバ、後來外國語ヲ學ブ者ニ便益ヲ與フルコト、蓋シ尠少ニ非ルベシ。

斯ノ如ク、我國ノ母韻ト、他ノ國ノ母韻トヲ對照シテ、其差異ノ度數ヲ定メンニハ、一種ノ表記法ヲ設ケザル可ラズ。故ニ余ハ、視話法ノ理法ニ照シ、一新式ヲ設ケタリ。即チ或ル母韻ノ假字ノ左邊ニ、横線ヲ引キタルモノハ、其母韻ヨリ後部ノ韻ニ關シ、右側ニ横線ヲ引キタ

ルモノハ、ヨレヨリ前部ノ韻ニ關シ、上方ニ一線ヲ引キタルモノハ、一度上ノ韻ヲ表シ、二線ヲ引キタルモノハ、二度上、三線ヲ引キタルモノハ、三度上ノ韻ヲ表スル等トシ、其下邊ニ、一線ヲ引キタルモノハ、一度下ノ韻ヲ表シ、二線ヲ引キタルモノハ、二度下、三線ハ三度下ノ韻ヲ表スル等ノ如ク定メ、或ル外國母韻ガ、我國ノ母韻ニ對シ、如何ナル位置ニ在ルカヲ、一目瞭然タラシムルノ法ヲ立テタリ。下圖ニ就キテ、其要ヲ明知スベシ。



此ニ假ニ[ア]ノ母韻ヲ用井、之ニ對スル諸韻ヲ記スル例ヲ示サンニ、[-ア]ハ、[ア]ト同位ニ在ル後部母韻ヲ、[ア-]ハ、[ア]ト同位ニアル前部母韻ヲ表ス。

[ア]ハ、[ア]ヨリ一度上ノ母韻ニシテ([ア]ノ一度上)、[ア]ハ、[ア]ヨリ二度上ノ母韻ニシテ([ア]ノ二度上)、[ア]ハ[ア]ヨリ一度下ノ母韻ニシテ([ア]ノ一度下)ト稱スルガ如シ。

[-ア]ハ[ア]ト同位ノ後部母韻ヨリ一度上ノ母韻ニシテ、([ア]ノ後一度上)ト稱ス。

[ア-]ハ、[ア]ト同位ノ前部母韻ヨリ二度下ニ在ルモノニシテ([ア]ノ前二度下)ト稱スルガ如シ。

今、前部ノ母韻ヨリ始メ、各部ニ涉リ、英國母韻ヲ説明スルコト下ノ如シ。

(1) i ハ、英語ノ [eel] ニ於ケル [e] ニシテ、我國ノ [イ] ニ同シ但少シク異ナル所ハ、我 [イ] ハ、長音ニモ短音ニモ、均シク用井ラルレモ、英語ニ在リテハ、此母韻ハ、長音ニシテ限リ用井ラル、

一事ナリ。(圖解,日本母韻ノ部ニ在リ。) 例, [ɪ = イイ。

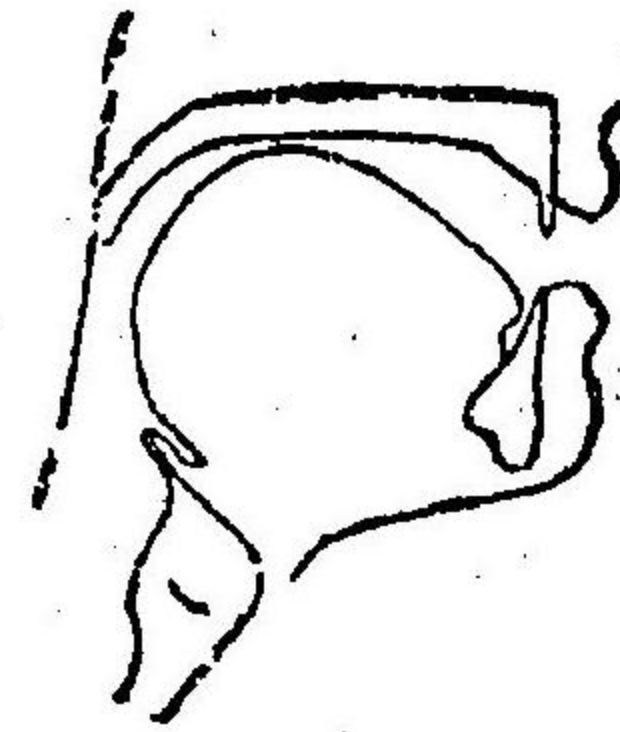
(2) [ɪ] ハ,英語ノ [ill] = 於ケル [i] = シテ,我國ノ正韻中ニハ存在セズ。唯東北地方ノ方言トシテ,間々用井ラルルノミ。故ニ此母韻ハ,我[イ]ノ一度下即チ[イ]ノ位置ニ在ルモノトス。此音ハ,舌ヲ[イ]ノ位置ニ置キ,實ニ僅ニ其内部ヲ下ゲ,聲孔ヲ廣クスルニ因リテ,發シ得ルナリ。又英語ニ在リテハ,此母韻ハ,常ニ短音トシテ用井ラルルモノナリ。(圖解, [ɪ] ト 殆ド 同ジキニ依リ略ス。) 例, [ɪ = イ。

(3) [ɪ] ハ,我[エ]ト同ジケレド,其英語ニ在リテハ,此母韻ヲ單立シテ用井ルコトナク,之ヨリ [ɪ] [イ] 韻ニ流シ, [ɪ] [エ] ト發スルヲ常トス。即チ [ale] = 於ケル [a] ノ如シ。是レ英語ノ特質ニシテ我學生ノ,常ニ誤ル所ナレバ,特ニ注意センコトヲ要ス。(圖解,日本母韻ノ部ニ在リ。) 例, [ɪ = エイ。

(4) [ɪ] ハ,英語ノ [elf] = 於ケル [e] = シテ,我[エ]ノ

下二度即チ[エ] = 當ルモノナリ。此母韻ハ短音ニノミ用井ラルルモノナリ。其圖解下ノ如シ。例, [ɪ = エ。

第三十五圖



ɪ エ  
ɪ エ

(5) [ɪ] ハ,英語ノ [at] ノ [a] = シテ,前部母韻ノ最下ニ位シ,下顎ヲ最モ低ク下ゲ,舌ノ前部ヲ最モ廣クシテ發スルモノナレバ,遂ニ[ア]ノ如キ音色ヲ帶フルニ至ルモノナリ。是レ亦我固有ノ母韻中ニハ存セザルモノナレバ,注意シテ練習スベシ。此母韻モ,常ニ短音トシテ用井ラル、モノナリ。(圖解,殆ド上ニ同シキニ依リ略ス。) 例, [ɪ = エ。

(6) i ハ、英語ノ [ooze] = 於ケル [oo] = シテ、我 [ウ] = 同ジ、但英語 = 在リテハ、此母韻ハ、常 = 長音トシテ用井ララルモノナリ。(圖解、日本母韻ノ部 = 在リ。) 例、i = ウ。

(7) i ハ、英語ノ [book] = 於ケル [oo] = シテ、我正韻中 = ハ存在セズ。但東北地方ノ方音トシテ存セルコト、[ɪ]ノ例 = 於ケルガ如シ。此母韻ハ常 = 短音トシテ用井ララルモノナリ。(圖解、殆ト上 = 同シキ = 依リ略ス。) 例、i = ウ。

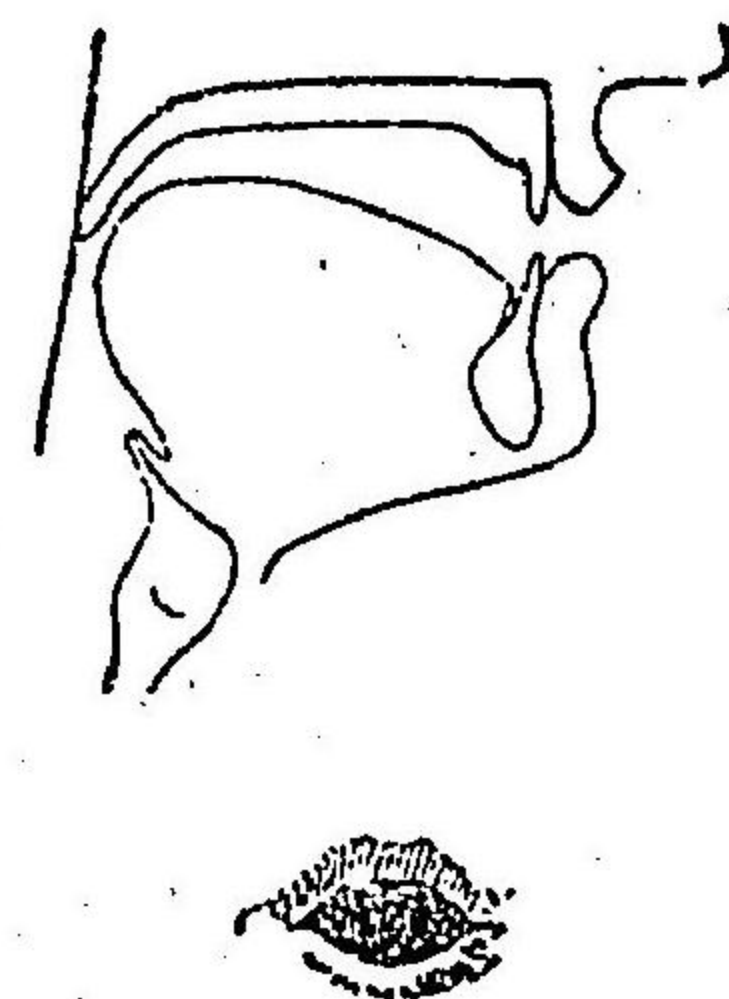
[注意]。相互同位ナル前部韻ト、圓後部韻トノ間 = 密着ナル關係アルコトハ、[ɪ]ト [i]トノ例 = 照ラスモ明ニシテ、東北地方 [イ]韻下リテ [ɪ] = 至ルキハ、其 [ウ]韻モ同シク下リテ、[i] = 至ルヲ見テ知ルベシ。

(8) ɔ ハ、英語ノ [old] = 於ケル [o] = シテ、我 [オ] = 同ジ。但其少シク異ナル所ハ英語 = 在リテハ、[ɔ] [オ]ノ如ク、常 = [ɪ] [ウ]韻 = 流レ行ク = 在ルナリ。是亦英語ノ特質ニシテ學生ノ宜シク習熟スベキ所ナリ。又前部母韻ノ [ɪ]ハ、[ɪ] =

流レ、之ト相對スル後部母韻ノ [ɔ]ノ、[ɪ] = 流レ行クハ、亦相互同位ナル前部韻ト、後部韻トノ密着ノ關係アルヲ證スベキナリ。(圖解、日本母韻ノ部 = 在リ。) 例、ɔ = オ。

(9) ɔ ハ、英語ノ [obey] = 於ケル [o] = シテ、我 [オ]ヨリ一度下、即チ [オ] = 當ルモノトス。此母韻モ多クハ短音トシテ用井ララルモノナリ。其圖解下ノ如シ。 例、ɔ = オ。

(10) ɔ ハ、英語ノ [awe] = 於ケル [aw] = シテ、我 [オ]ノ二度下 = 當ル。故 = 舌ノ後部ヲ、十分 = 低下スル = 非レバ、此母韻ヲ得ル能ハズ。我學生ノ、常 = 大 = 困難ヲ感スル所ナレバ、頗ル練習 = 注意セザル可ラズ。又口ノ形モ、[オ]ノ = 比スレバ、大キクスルヲ要ス。其圖解、下ノ如シ。 例、ɔ = オ。



第三十六圖

ɔ オ  
= オ  
ɔ オ

(11) ɔ̄ ハ、英語ノ[on]=於ケル[o]=シテ、我[オ]ノ三度下即チ[オ̄]=當リ、殆ド[ア]ノ如キ音色ヲ帶ブ。此音ヲ發スルニハ、愈舌ノ後部ヲ低クスルヲ要スルヲ以テ、我學生ニハ、益困難ヲ感ズルモノナリ。又此母韻ハ、短音ニ限リ用井ラルルモノトス。(圖解、殆ド上ニ同ジキニ依リ略ス)。

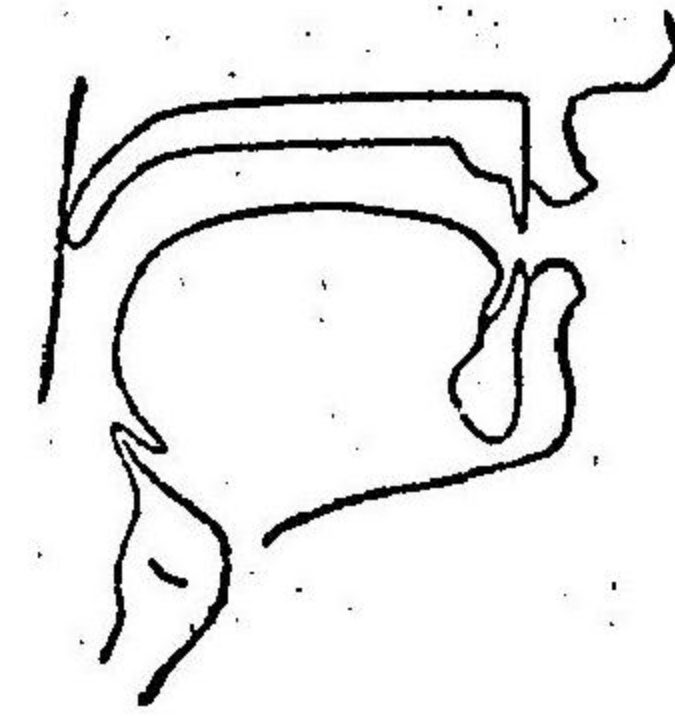
例、ɔ̄ = オ̄。

(12) ɪ ハ、我[ア]ニ同ジク、中部中ノ直下ニ當リ、最モ自然ニ近クシテ、發シ易キ音ナレバ、英語ニ在リテハ、[a]ノ冠詞、又ハ或ル弱音部ニ當レル[a]ノ如キ、特更ニ強力ヲ要セザル所ニ用井ラルルモノニシテ、我[ア]ニ比スレバ寧ロ不定ノ性質ヲ帶ブルモノナリ。又此母韻ハ、我ニ在リテハ、長短ノ別ナク用井ラルレトモ、英語ニテハ、短音ニノミ用井ラル、モノナリ。(圖解、日本母韻ノ部ニ在リ) 例、ɪ = ア。

(13) ɪ̄ ハ、英語ノ[her]=於ケル[e]=シテ、我[ア]ノ下二度即チ[ア̄]=當ル。是レ亦短音ニシテ、寧ロ不定ノ音質ヲ帶ブルモノナリ。其圖解、下ノ如

シ。例、ɪ̄ = ア̄

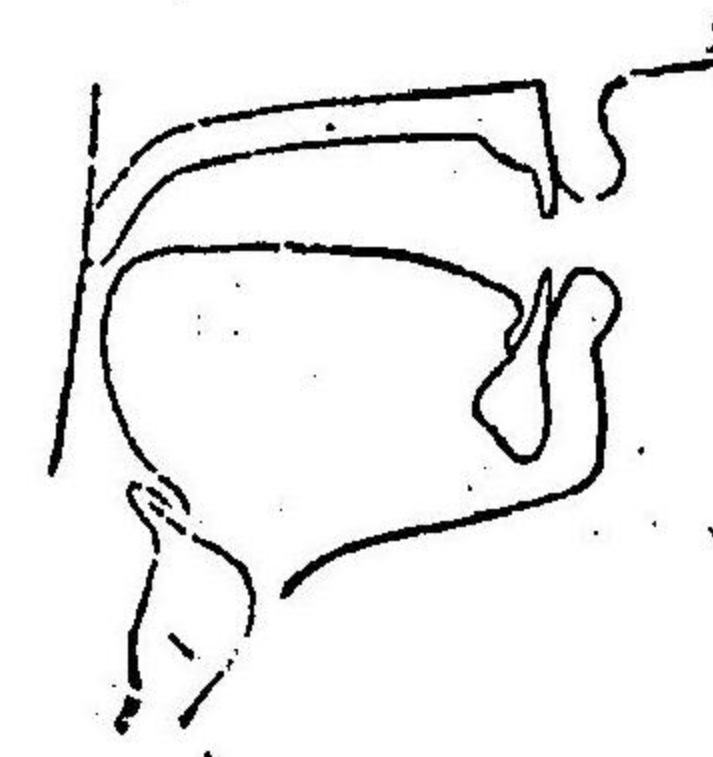
第三十七圖



ɪ̄ ア̄

(14) ɪ̄ ハ、英語ノ[pass]=於ケル[a]=シテ、我[ア]ノ後一位即チ[-ア]=當リ、其音、彼我殆ド相同ジ。唯彼ハ、舌ノ後部些ト上ガレルヲ異レリトスルノミ。此母韻ハ、常ニ長音トシテ用井ラルルモノナリ。其圖解、下ノ如シ。例、ɪ̄ = -ア̄。

第三十八圖

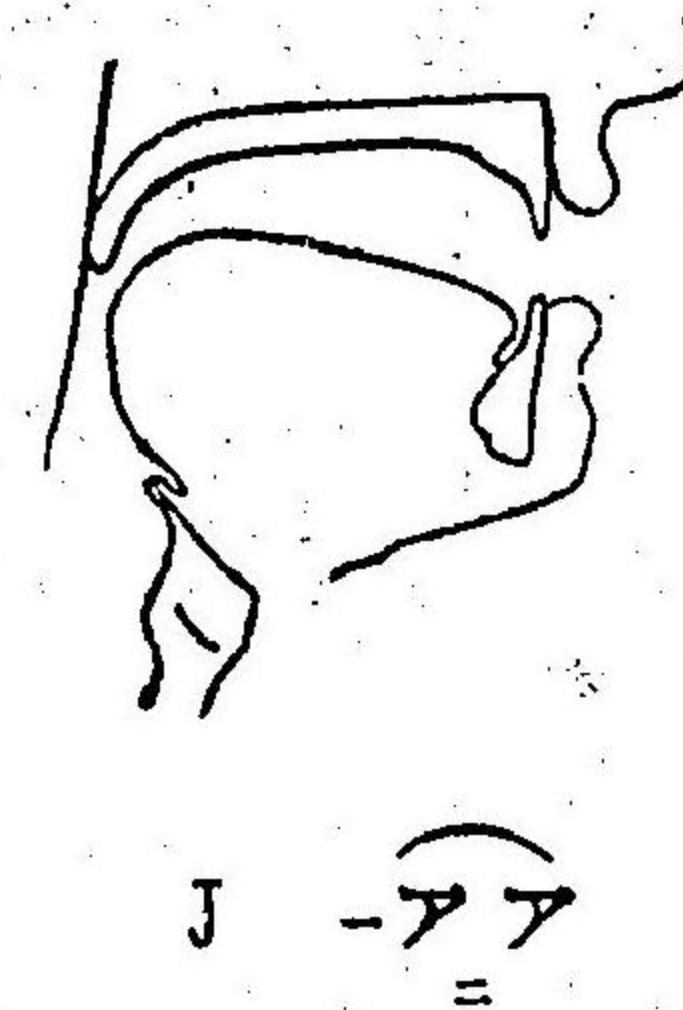


ɪ̄ -ア̄ ɪ̄ テ

(15) J ハ、英語ノ [up] = 於ケル [u] = シテ我 [ア]ノ後一度上、即チ [-ア] = 當ル。此音ハ、舌ノ圓ヲ去リタルモノ、即チ J ナレバ、[オ]ノ音ヲ發シナガラ、拇指ト食指トニテ、口角ヲ押シ開クキハ、自然ニ此 [-ア] 音ヲ得ルナリ。視話法ニテハ、斯カル手術ニ依リテ、曾テ聞カザル所ノ音ヲモ、自ラ發スルコトヲ得。斯ノ如クシテ、數回之ヲ試ミ、漸ク其音ヲ聞キ覺ユルニ至レバ、手術ヲ假ラズシテ、能ク發音シ得ルニ至ルナリ。此母韻モ、短音トシテ用非ラル、チ常トス。其圖解、下ノ如シ。例、J = -ア。

(16) J ハ、英語ノ [bah] = 於ケル [a] = シテ、我 [ア]ノ後二度下、即チ [-ア] = 當ル。此音ハ、舌ノ後部ヲ極メテ低クシテ發スベキモノニシテ、我學生ニハ隨分得易カラザルモノナレバ、務メテ練習セザル可ラズ。此母韻ハ、長音トシテ用非ラル、モノナリ。其圖解、下ノ如シ。例、J = ア。

## 第三十九圖



次ニ重韻ヲ掲グルコト、下ノ如シ。

(1) J i ハ、英語ノ [pie] = 於ケル [i] = シテ、我 [-アイ] = 當ルモノナリ。例、Ji = -アイ。

(2) J u ハ、英語ノ [out] = 於ケル [ou] = シテ、我 [-アウ] = 當ルモノナリ。例、Ju = -アウ。

(3) Ji ハ、英語ノ [oil] = 於ケル [oi] = シテ、我 [オイ] = 當ルモノナリ。例、Ji = オイ。

斯ノ如ク、視話法ノ理ニ基キ、其音字ヲ媒トシテ、我母韻ト、英國ノ母韻トヲ對比シテ説明シタレバ、將來、學者、之ニヨリテ其正音ヲ得ルニ庶幾ランカ。然リト雖モ、上ニ掲ゲタルハ、一ノ音例ヲ示スニ過ギザレバ、猶從來、世ニ行ハ

ル、所ノ發音記號ト、視話法音字トノ關係ヲ明ニセンガ爲メ、視話法音字ト余ガ新定ノ假字記法ト[ウエプスター]氏ノ辭書ニ採用セル發音記號トノ對照表ヲ掲グ。之ニ就キテ熟習セバ獨學ニテモ、英語ノ正確ナル發音ヲ習了スルヲ得ベシ。

### 英國母韻

#### 視話法音字新式假字記法、及通常發音記號

#### 對照表

$\text{t} = \overset{\frown}{\text{ウ}} = \text{u, } \overset{\frown}{\text{oo}}, \text{u}$	$\text{f} = \overset{\frown}{\text{イ}} = \text{e, i}$
$\text{t} = \overset{\frown}{\text{ウ}} = \text{u, } \overset{\frown}{\text{oo}}, \text{u}$	$\text{f} = \overset{\frown}{\text{イ}} = \text{i, y}$
$\text{tt} = \overset{\frown}{\text{オウ}} = \text{o}$	$\text{ff} = \overset{\frown}{\text{エイ}} = \text{a}$
$\text{t} = \overset{\frown}{\text{ア}} = \text{u, o}$	$\text{f} = \overset{\frown}{\text{エ}} = \text{a, e}$
$\text{t} = \overset{\frown}{\text{オ}} = \text{o, o}$	
$\text{t} = \overset{\frown}{\text{アア}} = \text{a}$	$\text{t} = \overset{\frown}{\text{ア}} = \text{a}$
$\text{f} = \overset{\frown}{\text{オオ}} = \text{o}$	$\text{f} = \overset{\frown}{\text{エ}} = \text{e}$
$\text{f} = \overset{\frown}{\text{オ}} = \text{o, u}$	
$\text{t} = \overset{\frown}{\text{ア}} = \text{u}$	$\text{f} = \overset{\frown}{\text{ア}} = \text{u, i}$
	$\text{f} = \overset{\frown}{\text{エ}} = \text{a}$

$\text{ti} = \overset{\frown}{\text{アイ}} = \text{i, y}$	$\text{oi} = \overset{\frown}{\text{イウ}} = \text{u}$
$\text{fi} = \overset{\frown}{\text{オイ}} = \text{oi, oy}$	
$\text{ti} = \overset{\frown}{\text{アウ}} = \text{ou, ow}$	

### 父音ノ部

英國ノ父音ハ、サキノ普通父音表ニ照スニ、其中ノ二十五個ヲ占メ、大抵我父音ニ同ジ。只彼我ノ大ニ異ナルコトハ、分割孔ニ屬スル父音ノ有無ニアリ。彼ニハ凡テ六個ノ分割音アレド、我ニハ一モ之ヲ有セズ。其外ニ、我ニ異ナルトコロハ、舌頭開ノ無聲音一アルノミ。

父音ノ用法ニ至リテハ、彼我ノ間、大ニ異ナルモノアリテ存ス。彼ノ語音ニハ、父音ヲ以テ終ルモノ多シト雖モ、我ニハ、鼻音ノ外、父音ヲ以テ終ルコトナク、皆音尾ハ、母韻ニ終ルモノナリ。コレ我學生ノ、英語ヲ學ブニ當リ、大ニ困難ヲ感ズル所ノ一ナリ。然リト雖モ、凡ソ語音ハ、父音ニ次グニ母韻ヲ以テスルカ、又ハ單ニ之ニ次デ氣息ヲ吹キ出スニ非ザレバ、之ヲ他



＝傳フルコト能ハザルニヨリ,英國語ニテモ,聲孔ヲ閉ヂタル父音,即チ[p]=[b][t]=[k]=[a][g]=[a][d]= $\emptyset$ ニ終ル場合ニ於テハ,之ニ次グニ吹氣ヲ以テスルヲ正則トス。故ニ視話法ニ於テハ,[>]ノ記號ヲ附シテ吹氣ヲ表出ス。

之ニヨリテ見ルキハ,英語ニアリテハ,父音ト母韻ト相合スルカ,否ラザレバ,父音ト吹氣ト合シテ,始テ一子音ヲ生ストイフベシ。一語ノ中ニアリテハ,二父音ノ間ニ,一母韻ヲ挿ミ,以テ一綴ヲナスモノアリ。コレ亦子音ト見ルベキモノアリ。

附言。本文ノ理由ヨリスルモ,英語ノ[コンソナント]ヲ,子韻ト譯スルノ,不當ナルハ,自ラ明ナルベシ。

此ニ英語ニアル所ノ父音全體ヲ示サンガタメ,下ニ英語父音表ヲ掲グ。

英語父音表

	開		閉		分割		開		分割					
唇					*D	* $\theta$		* $\eth$	3	3	* $\omega$	* $\eth$		
舌頭	o	* $\omega$			$\sigma$	$\sigma$		* $\omega$	$\omega$	$\omega$	* $\upsilon$	* $\omega$	$\omega$	$\omega$
舌上	* $\sigma$										* $\Omega$	* $\Omega$		
舌本					* $\alpha$	* $\epsilon$		* $\epsilon$						
喉	* $\sigma$													

此ノ表中,星點ヲ附スルモノハ,我父音ト異ナル所ナケレバ,其説明ヲ省略シ,單ニ視話法音字ヲ以テ,各父音ヲ記シ,之ニ對シテ,英語ニ用井ル羅馬字ヲ併記シ,互ニ相等シキ事ヲ表ス。

唇音;  $\sigma$ =p.  $\theta$ =b.  $\eth$ =m.  $\omega$ =wh in whet.  
 $\eth$ =w.

舌頭音;  $\omega$ =r.  $\sigma$ =t.  $\sigma$ =d.  $\omega$ =n.  $\upsilon$ =s.  $\omega$ =z.

舌上音;  $\sigma$ =(yh) as h in hue.  $\sigma$ =y.  $\Omega$ =sh.  $\Omega$ =z in azure.

舌本音; a=k. e=g in go. e=ng in lang.

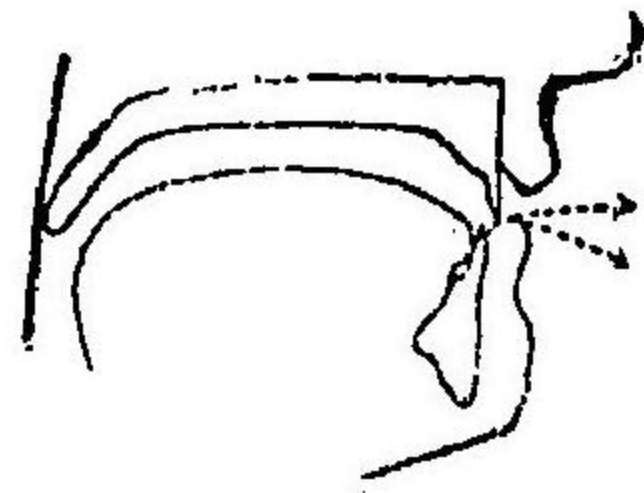
喉音; o=h.

之ヨリ進テ、我父音ト異ナル所ノ英國父音ヲ列記シ、之ガ説明ヲ與フベシ。

(1) o ハ、舌頭開聲、ω ノ無聲ナルモノニシテ、英語ノ [tree] = 於ケルガ如ク、直 = 無聲父音ニ次グ = 舌頭開ヲ以テスルモノニシテ、斯カル場合ニハ、[r] ハ、無聲トナルヲ常トス。故ニ [ル<sup>o</sup>] ナ以テ之ヲ表ス。其他ハ既ニ前ニ ω ノ部ニ説明セルガ如シ。

(2) 3 ハ、英語ノ [f] = シテ、下唇ノ、上邊中部ヲ、前齒ニ接シ、氣息ヲ兩方ノ口角ヨリ吹出シテ、生ズル所ノ音ナリ。其圖解、下ノ如シ。

第四十圖

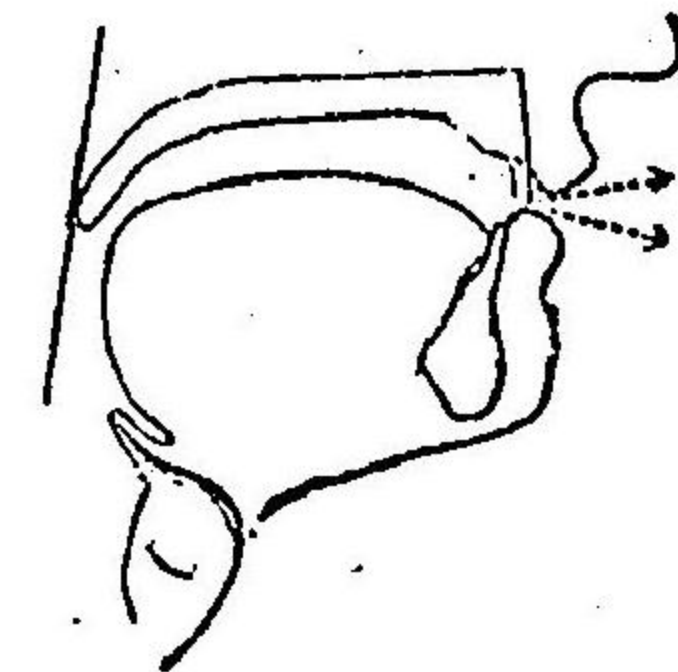


3 ヱ

[注意] 此音ヲ、我ガ [フ] = 比スレバ、其聲孔、互ニ相異ナリ。我ハ、中孔ニシテ、彼ハ分割孔ナリ。而シテ分割孔ハ、氣息分レテ、發音局部ノ兩側ヨリ出ヅルニヨリ、[フ] ノ如ク、假字ノ上邊ニ並立二弧ヲ附シテ、之ヲ區別スルノ法ヲ定メタリ。以下、之ニ準シテ知ルベシ。

(3) 3 ハ、英語ノ [v] = シテ、[3] ノ有聲音ナリ。其理、下圖ニ示スガ如シ。之ニ當ル我ガ假字ハ、前ノ法式ニ從ヒ [ヴ] トス。

第四十一圖

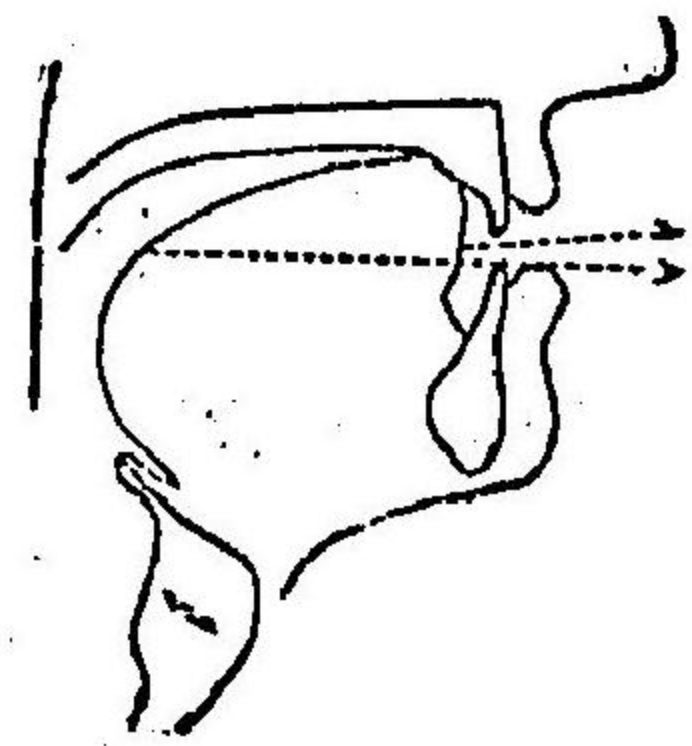


3 ヱ

(4) ω ハ、英語ノ [l] = シテ、舌尖ヲ上齦ニ接シ、氣息ヲ舌ノ兩邊ヨリ分レ出デシムルニヨリ

テ、此音ヲ發スルモノナリ。其圖解、下ノ如シ。之ニ當ル我假字ハ、[ル]トス。

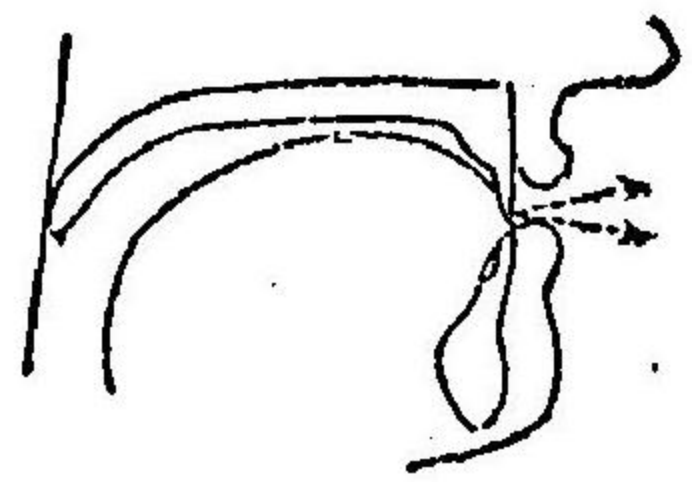
第四十二圖



ル

(5) ʌハ、英語ノ[think]ニ於ケル[th]ニシテ、舌尖ヲ上下ノ前齒ノ間ニ挾ミ、氣息ヲ左右ノ牙齒ノ邊ヨリ吹出セシムルニ依テ、發スルノ音ナリ。其圖解、下ノ如シ。之ニ當ル我假字ハ、[ス]トス。

第四十三圖

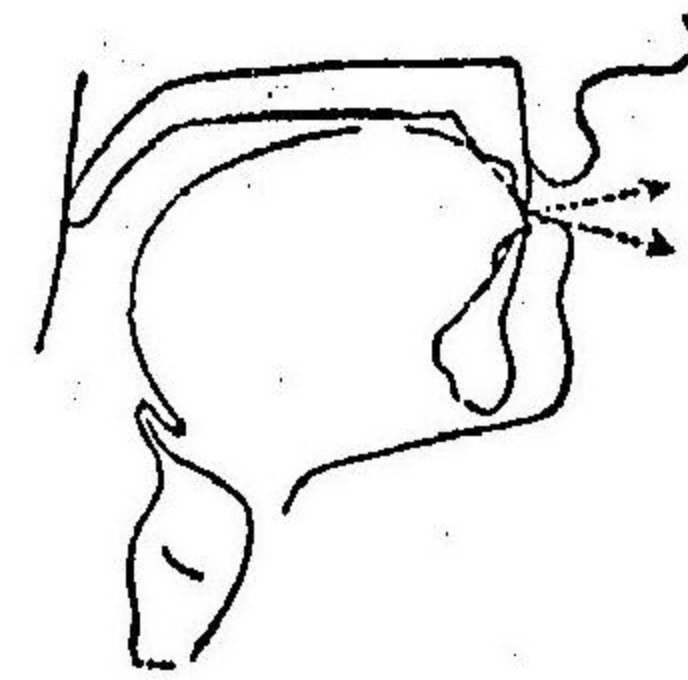


ʌ

(6) ʌハ、英語ノ[this]ニ於ケル[th]ニシテ、上音

ノ有聲ニナレルモノナリ。其圖解、下ノ如シ。之ニ當ル我假字ハ、[ス]トス。

第四十四圖



ʌ

斯ノ如ク、英語ニ固有ニシテ、我ニ異ナル所ノ父音ヲ掲ゲ盡シタレバ、此ニ英語ノ父音全體ニ當ル視話法音字ト、新式ノ假字記法ト從來世ニ行ハル、所ノ羅馬字ニ發音記號ヲ附シタルモノトナ併記對照シテ、學習ノ便ニ供スルコト下ノ如シ。

### 英國父音

視話法音字、新式假字記法、及通常發音記號

### 對照表

唇音	舌頭音	舌上音
ㄆ = プ = p	ㄌ = ル = l (nonvocal)	ㄎ = ケ = kh (nonvocal)
ㄅ = ブ = b	ㄎ = ル = r	ㄎ = イ = y
ㄇ = ム = m	ㄊ = ト = t	ㄑ = シ = sh
ㄨ = フ = wh	ㄉ = ド = d	ㄒ = ジ = zh
ㄨ = ヴ = w	ㄋ = ン = n	_____
ㄈ = フ = f, ph	ㄌ = ル = l	舌本音
ㄆ = ヴ = v	ㄟ = ス = ç, s	ㄑ = ク = c, ch, qu
	ㄝ = ズ = ç	ㄍ = グ = g
	ㄝ = ㄝ = th	ㄑ = グ = ng, n
	ㄝ = ㄝ = th	ㄑ = グ = x
	ㄑ = チ = ch	_____
	ㄑ = チ = ç	喉音
		ㄎ = ホ = h

日本人ノ、英語ヲ學習スルニ  
視話法ヲ應用スルノ例。

前ニ掲ゲタル二表ニ依リテ、既ニ英國母韻  
及ビ父音ニ對スル視活法音字、新式假字記法、  
及ビ通常英語發音記號ヲ示シタレバ、是ヨリ

337184

進デ其應用ノ例ヲ授クベシ。之ニ先チテ解説  
ヲ要スルハ、父音文字ノ用法、彼我相異ナレル  
ヲ以テ、其假字ノ用法ニモ亦變化ヲ生スルノ  
一事ナリ。我國語ニ在リテハ、父音ノミチ單獨  
ニ用井ルコトハ、[ン]ノ外ニハ無ケレド、英語ニ  
在リテハ、一綴ノ終リ、又ハ一語ノ終リニ、之ヲ  
單用スルコト少シトセズ。例ヘバ、eatノ、tノ父  
音ニ終ルガ如シ。然レド今之ヲ視活法ニ照ラ  
シテ、其音韻ヲ分解スルキハ、eatハ、[ɔ]ノ母韻ト  
[t]ノ父音トノ吹氣トヨリ成立  
スルモノナリ。之ヲ新式假字ニ寫スルハ、[イイ  
ト]トナル。即チ視話法ノ [ɔ] = 同ジ。是ニ於テ  
[ɔ]ト [ɔ]トヲ比較スルキハ、末尾ノ > トト  
ノ差異アルヲ見ル。故ニ我假字ノ子音ヲ、英語  
ノ一綴又ハ一語ノ終リニ用井ル場合ニ於テ  
ハ、其子音ノ音尾タル母韻ハ、變ジテ無聲ノ吹  
氣トナルモノト了解スベシ。

又英語ニテ或ル父音ト母韻トヲ結合シテ、  
一連音ヲナセルモノヲ新式假字ニ寫スルハ、

其母韻ノ一分ハ子音假字ノ音尾ニ含マレ、他ノ一分ハ之ニ次ゲル母韻假字ヲ以テ表セラ  
ルルヲ常トス。此ノ場合ニ於テハ一連音ヲナ  
ス所ノ假字ハ、スベテ弧線ヲ以テ連繫スルコ  
ト、セリ。例ヘバ、tie = ɔɪ ㄊ [タイ] ト寫シ、gain  
= ɡeɪn ㄊ [ゲイン] ト寫スガ如シ。

又英語ニハ、二個以上ノ父音連續シテ、其間  
ニ一モ母韻ヲ交ヘザルモノアリ。例ヘバ、nest  
ノstノ如シ。之ヲ新式假字ニ寫スルキハ、上ノ連  
音ノ例ノ如ク [チスト] トシ、[スト]ノ二字ヲ弧線  
ニテ連繫シ、以テ其父音ノミ連續スルコトヲ  
示ス。但其弧線ノ位置ノ某假字ノ上邊ニ在ル  
ト下邊ニ在ルトハ、一ニ其場合ノ便宜ニ依ル  
モノトス。

英語ノ母韻ニ關シテモ、亦一二解説ヲ要ス  
ベキモノアリ。我母韻ヲ寫ス假字ニハ、從來其  
長短ヲ表スルノ法一定シ居ラザレド、我新式  
假字ニ於テハ、長短ヲ表スルニハ、同字ヲ並記  
シ、弧線ヲ以テ其上ヲ連繫スルコト、シ、短音

ヲ記スルニハ、單ニ一字ヲ記スルコト、セリ。  
例ヘバ、[イイト] = 於ケル [イイ]、[イト] = 於ケル  
[イ]ノ如シ。餘ハ類推スベシ。

又母韻ノ位置ヲ表示スルノ法モ、其母韻ノ、  
或ル父音ト結合シテ、一子音ヲナセル場合ニ  
ハ、其母韻ニ附スベキ符號ヲ子音ニ移記ス。例  
ヘバ、pie = ɔɪ ㄊ [-バイ] ト寫シ、元來 [-ア] = ɪノ  
如ク [ア]ノ左側ニ附記シテ其位置ノ後部タル  
コトヲ表スベキ符號ヲ [バ]ノ左側ニ移セルガ  
如シ。

次ニ十二課ノ實例ヲ掲ゲテ學習ノ便ニ供  
ス。學者、之ニ習熟スルキハ、如何ナル英語音ニ  
遭遇スルモ、類推シテ大過ナキヲ得ン。

- (1) pea, = ɔɪ, =  $\overline{\text{ピイ}}$ .      pie, = ɔɪ = - $\overline{\text{バイ}}$ .  
tea, = ɔɪ, =  $\overline{\text{チイ}}$ .      tie, = ɔɪ = - $\overline{\text{タイ}}$ .  
peat, = ɔɪɔ =  $\overline{\text{ピイト}}$ .      pipe, = ɔɪɔ = - $\overline{\text{パイプ}}$ .  
eat, = ɪɔ, =  $\overline{\text{イイト}}$ .      peep, = ɔɪɔ =  $\overline{\text{ピイプ}}$ .

- (2.) bee, = $\theta f$ , = ビーイ. buy, = $\theta Jf$ , = -バイ.  
 die, = $\theta Jf$ , = -ダイ. ah, =  $J$ , = -アア.  
 bah, = $\theta J$ , = -バア. pa, = $\theta J$ , = -パア.  
 papa = $\theta J\theta J$ , = パ-パア. pit, = $\theta f\theta$ , = ピト.  
 it, = $f\theta$ , = イト. beat, = $\theta f\theta$ , = ビイト.  
 bit, = $\theta f\theta$ , = ビト. dip, = $\theta f\theta$ , = チプ.  
 deep, = $\theta f\theta$ , = チイブ.

- (3.) me, = $\theta f$ , = ミイ. my, = $\theta Jf$ , = -マイ.  
 ma, = $\theta J$ , = -マア. mama, = $\theta J\theta J$ , = マ-マア.  
 may, = $\theta f$ , = メイ. nay, = $\theta f$ , = ネイ.  
 knee, = $\theta f$ , = キイ. neat, = $\theta f\theta$ , = ニイト.  
 eaten, = $f\theta\theta'$ , = イイ ツグ mit, = $\theta f\theta$ , = ミト.

- (4.) key, = $\alpha f$ , = キイ. ache, = $\alpha f$ , = エイク.  
 keep, = $\alpha f\theta$ , = キイブ. cape, = $\alpha f\theta$ , = ケイブ.  
 kate, = $\alpha f\theta$ , = ケイト. kite, = $\alpha f\theta$ , = -カイト.  
 kitten, = $\alpha f\theta'$ , = キ ツグ. kitty, = $\alpha f\theta f$ , = キ チ.  
 king, = $\alpha f\theta$ , = キグ. pig, = $\theta f\theta$ , = ピグ.

- gape, = $\alpha f\theta$ , = ゲイブ. gate, = $\alpha f\theta$ , = ゲイト.  
 gain, = $\alpha f\theta$ , = ゲイン.

- (5.) if, = $f\theta$ , = イフ. fee, = $\theta f$ , = フィ.  
 full, = $\theta f\theta$ , = フル. fie, = $\theta Jf$ , = フィイ.  
 calf, = $\alpha J\theta$ , = カ フ. fen, = $\theta f\theta$ , = フェン.  
 fit, = $\theta f\theta$ , = フィト. fin, = $\theta f\theta$ , = フィン.  
 fog, = $\theta f\theta$ , = フ グ. eve, = $f\theta$ , = イ イ ヴ.  
 cave, = $\alpha f\theta$ , = ケイ ヴ. vast, = $\theta f\theta$ , = ヴァ スト.  
 pet, = $\theta f\theta$ , = ペト. bed, = $\theta f\theta$ , = ベド.  
 veal, = $\theta f\theta$ , = ヴェ イル. pat, = $\theta f\theta$ , = パト.  
 bat, = $\theta f\theta$ , = バト. veil, = $\theta f\theta$ , = ヴェ イル.  
 apt, = $\theta f\theta$ , = ア プト. act, = $\theta f\theta$ , = ア クト.  
 vocal, = $\theta f\theta$ , = ヴォ カル.

- (6.) she, = $\theta f$ , = シイ. shy, = $\theta Jf$ , = シ イ.  
 sheep, = $\theta f\theta$ , = シイブ. ship, = $\theta f\theta$ , = シブ.  
 cheap, = $\theta f\theta$ , = チイブ. chip, = $\theta f\theta$ , = チブ.  
 shave, = $\theta f\theta$ , = シ エ イ ヴ. sheaf, = $\theta f\theta$ , = シ イ ヴ.

shue, = ʃu:, = シウ.      issue, = ɪʃu:, = イシウ.  
 put, = pʊt, = プト.      boot, = bu:t, = ブウト.  
 book, = bʊk, = ブク.      good, = gʊd, = グド.

(7.) sea, = si:, = スイ.      cease, = si:s, = スイス.  
 ease, = i:s, = イイズ.      seize, = si:z, = スイズ.  
 size, = saiz, = サイズ.      sip, = sɪp, = スイプ.  
 sit, = sɪt, = スイト.      as, = ɔ:s, = オス.  
 segment, = ʃegmənt, = セグメント.  
 oh, = o:, = オウ.      oak, = o:k, = オウク.  
 postage, = ˈpɒstɪʃ, = ポウステイ.  
 opine, = ˈɒpaɪn, = オパイン.      obey, = əbeɪ, = オベイ.  
 potato, = ˈptetəʊ, = ポテイトオ.  
 coincidence, = ˌkɔɪnɪdəns, = コインシデンス.  
 next, = nɛkst, = ネクスト.  
 nexed, = nɛkst, = ネクスト.  
 examine, = ɪgˈzæmɪn, = イグゼミン

(8.) theme, = θi:m, = タイム.      thing, = θɪŋ, = タイグ.

think, = θɪŋk, = タイグ.      hatch, = hætʃ, = ヘチ.  
 thaw, = θɔ:, = オウ.      the, = ði:, = ディ.  
 thee, = θi:, = タイ.  
 they, = ðeɪ, = デイ.      them, = ðem, = デム.  
 that, = ðæt, = デット.      though, = ðɔ:, = オウ.  
 thought, = θɔ:t, = オウト.      teeth, = te:θ, = テイス.  
 tooth, = tu:θ, = トウス.  
 pawn, = paʊn, = ポウン.      gnaw, = naʊ, = ノウ.  
 pond, = pɒnd, = ポンド.      awed, = ɔ:d, = オウド.  
 odd, = ɒd, = オッド.      thong, = θɒŋ, = トグ.  
 song, = sɒŋ, = ソグ.

(9.) reap, = ri:p, = リイプ.      read, = ri:d, = リイド.  
 ripe, = ri:p, = ライプ.      written, = ˈrɪtən, = リテン.  
 root, = ru:t, = ルウト.      rude, = ru:d, = ルウド.  
 remnant, = ˈremnənt, = レムナント.  
 sir, = sɪr, = シア.      stir, = stɪr, = スティア.  
 fir, = fɪr, = ファア.      virgin, = ˈvɜ:dʒɪn, = ヴァージン.  
 term, = tɜ:m, = テアム.      germ, = ɜ:m, = ゴアム.  
 nerve, = nɜ:v, = ナアヴ.

firmament, = 31vθ1θ1θ, = ヲアマメント.

ear, = 1v, = イイア.      near, = θ1v, = ニイア.

air, = 1v, = エエア.      fair, = 31v, = ヲエア.

care, ɑ1v = ケエア.

(10.) leap, = ω1θ, = ヲイブ.      lean, = ω1θ, = ヲイン.

league, = ω1θ, = ヲイグ.      leisure, = ω1θ1v, ヲイジユア.

leopard, = ω1θ1v, = ヲバアド.

ledger, = ω1θ1v, = ヲチアア.

little, = ω1θ, = リッル.

almanac, = [ωθ1θ1θ, = ヲルマナク.

animal, = [θ1θ1θ, = マル.

up, = 1θ, = アブ.      us, = 1θ, = アス.

utter, = 1θ1v, = アダア.      ugly, = 1θω1, = アグユ.

oven, = 1θω1, = アブン.

pass, = θ1θ, = パアス.      past, = θ1θ, = パアスト.

fast, = 31θ, = フアアスト.

fasten, = 31θω1, = フアアスン.

(11.) whip, = θ1θ, = フイブ.      whit, = θ1θ, = フイト.

wit, = θ1θ, = フイト.      white, = θ1θ, = フアイト.

what, = θ1θ, = フオト.      which, = θ1θ, = フイチ.

wag, = θ1θ, = フグ.      wax, = θ1θ, = フクス.

wing, = θ1θ, = フグ.      witch, = θ1θ, = フチ.

wonder, = θ1θ1v, = フンダア.

wand, = θ1θ, = フント.      out, = θ1θ, = アウト.

our, = θ1v, = アウア.      now, = θ1θ, = ナウ.

owl, = θ1θ, = アウル.      power, = θ1θ, = パウア.

powder, = θ1θ1v, = パウダア.

town, = θ1θ, = タウン.

towering, = θ1θω1θ, = -タウアリグ.

12.) ye, = θ1, = イイ.      yellow, = θ1θ1, = イェロウ.

yard, = θ1θ, = ヤード.      you, = θ1θ, = ユ.

youth, = θ1θ, = イュース.      young, = θ1θ, = ヤング.

boy, = θ1θ, = ボイ.      coy, = θ1θ, = コイ.

oil, = θ1θ, = オイル.      oyster, = θ1θ1v, = オイスター.

he, = θ1, = ヒイ.      heat, = θ1θ, = ヒイト.



here, = of, =  $\widehat{\text{ヒイア}}$ . half, = oɜ, =  $\widehat{\text{-ハア}}$  ヲ.

have. = oɜ, =  $\widehat{\text{ヘ}}$  ヲ. had, = oɜ, =  $\widehat{\text{ヘ}}$  フ.

horrid, = oɜoɜ, =  $\widehat{\text{ホリ}}$  フ. who, = oɜ, =  $\widehat{\text{フ}}$  ヲ.

hoop. = oɜo, =  $\widehat{\text{フウ}}$  プ. hue, = oɜ, =  $\widehat{\text{ヒウ}}$ .

human, = oɜoɜ, =  $\widehat{\text{ヒウ}}$  マン.

上ニ掲ゲタル所ハ、英語音韻學ノ理論上ヨリ、最モ精微ナル差異ヲ表記スベキ方法ヲ示シタルモノナレド、べる氏ノ説ニ依レバ、斯ノ如ク正確ナル發音ヲ用非ルモノハ、英米人ト雖モ、能辯學家ノ外ニハ、殆ド求ム可ラズト云フ。是ニ於テ通常ノ實用ニハ下ノ如キ簡易法ヲ以テ足レリトスベシ。即チ

ɪ ナ以テ i 及ビ j = 通用ス。

ɔ ナ以テ o, j 及ビ l = 通用ス。

ɪ ナ以テ i 及ビ j = 通用ス。

ɪ ナ以テ i 及ビ l = 通用ス。

ɪ ナ以テ i 及ビ j = 通用ス。

ɪ ナ以テ i 及ビ l = 通用ス。

ɪ ナ以テ i = 代用ス。

ɪ ナ以テ  $\widehat{\text{ヒ}}$  = 代用ス。

余ハ、同氏ノ説ニ依リ、尙ホ深ク之ヲ我國音ニ考ヘテ、次ノ如キ簡易新式假字記法ヲ採ルコト、セリ。先ツ下ノ對照表ヲ見ヨ。

$\widehat{\text{イイ}}$  = ɪ = e, i      イ = ɪ = i, y

$\widehat{\text{エイ}}$  = ɪ = a      エ = ɪ = e

$\widehat{\text{エエ}}$  = ɪ = â, ê      エ = ɪ = ä

$\widehat{\text{ウウ}}$  = ɪ = o, oo, u      ウ = ɪ = o, oo, u

$\widehat{\text{オウ}}$  = ɪ = o

$\widehat{\text{オオ}}$  = ɪ = ô, o

$\widehat{\text{オオ}}$  = ɪ = a      オ = ɪ = a, ō

ア = ɪ = ū, o

$\widehat{\text{アア}}$  = ɪ = a      ア = ɪ = a

$\widehat{\text{ア.ア}}$  = ɪ = ä      ア = ɪ = e, û, i

アイ = ɪ = i, y      オイ = ɪ = oi, oy

アウ = ɪ = ou, ow      イウ = ɪ = u

次ニ前ニ掲ゲタル十二項ノ例解中ノ英語ヲ再出シテ、簡易假字記法ノ實例ニ供ス。學者之ニ依リテ繁簡ノ如何ヲ曉得スベシ。

## 簡易新式假字記法例解

- (1.) pea, = ピイ. pie, = パイ. tea, = チイ.  
 tie, = タイ. peat, = ピイト. pipe, = パイプ.  
 eat, = イイト. peep, = ピイプ.
- (2.) bee, = ビイ. buy, = バイ. die, = ダイ.  
 ah, = アア. bah, = バア. pa, = パア.  
 papa, = パバア. it, = イト. pit, = ピト.  
 bit, = ビット. beat, = ビイト. deep, = テイプ.  
 dip, = テプ.
- (3.) me, = ミイ. my, = マイ. ma, = マア.  
 mama, = ママア. may, = メイ. nay, = ネイ.  
 knee, = ニイ. neat, = ニイト.  
 eaten, = イイツグ. mit, = ミト.
- (4.) key, = キイ. ache, = エイク. keep, = キイプ.  
 cape, = ケイプ. kate, = ケイト. kite, = カイト.  
 kitten, = キツグ. kitty, = キチ. king, = キグ.  
 pig, = ピグ. gapc, = ゲイプ. gate, = ゲイト.  
 gain, = ゲイン.
- (5.) if, = イフ. fee, = フィイ. full, = フル.

- fie, = フィイ. calf, = カアラ. fen, = フェン.  
 fit, = フィト. fin, = フィン. fog, = フォグ.  
 eve, = イイヴ. cave, = ケイヴ. vast, = ヴァスト.  
 pet, = ペト. bed, = ベド. veal, = ヴェール.  
 pat, = パト. bat, = バト. veil, = ヴェール.  
 apt, = アプト. act, = アクト. vocal, = ヴォカール.  
 (6.) she, = シェイ. shy, = シャイ. sheep, = シェイプ.  
 ship, = シップ. cheap, = チイプ. chip, = チップ.  
 shave, = シェイヴ. sheaf, = シェイフ.  
 shoe, = シュー. issue, = イシュー. put, = プト.  
 boot, = ブット. book, = ブック. good, = グッド.  
 (7.) sea, = セイ. cease, = セイズ. ease, = エイズ.  
 is, = イズ. seize, = セイズ. size, = サイズ.  
 sip, = シップ. sit, = シット. as, = アズ.  
 segment, = セグメント. oh, = オウ.  
 oak, = オーク. postage, = ポウスタジ.  
 opine, = オオパイン. obey, = オオベイ.  
 potato, = ポテイト.  
 coincidence, = コインスイデンス

- next, = ネクスト. vexed, = ヱクスト.  
 examine, = エグゼミン.  
 (8,) theme, = テイム. thing, = シグ. think, = シンク.  
 thatch, = セチ. thaw, = ヅオ. the, = ズ.  
 thee, = テイ. they, = セイ. them, = セム.  
 that, = セト. though, = ヅウ. thought, = ヅオト.  
 teeth, = テイヱ. tooth, = ツウヱ. pown, = ポオン.  
 gnaw, = ノオ. pond, = ポンド. awed, = オオド.  
 odd, = オド. thong, = ヅグ. song, = ソグ.  
 (9,) reap, = リイブ. read, = リイド. ripe, = ライブ.  
 written, = リツグ. root, = ルウト. rude, = ルウド.  
 remnant, = レムネント. sir, = サア. stir, = スタア.  
 fir, = フア. vergin, = ヅアヂン. term, = タアム.  
 germ, = チム. nerve, = ナアヴ. firmament, =  
 フアマメント. car, = イイア. near, = ナイア.  
 air, = エエア. fair, = フェア. care, = ケエア.  
 (10,) leap, = レイブ. lean, = レイン.  
 league, = レイグ. leisure, = レイジウア.  
 leopard, = レパアド. ledger, = レヂア.

- little, = リトル. almanac, = アルマナク.  
 animal, = エニマル. up, = アプ. us, = アス.  
 utter, = アタア. ugly, = ヅグユ. oven, = アヴン.  
 pass, = パアス. past, = パアスト.  
 fast, = ファスト. fasten, = ファステン.  
 (11,) whip, = フイブ. whit, = フイト. wit, = フイト.  
 white, = ファイト. what, = フオト.  
 which, = フイチ. wag, = エグ. wax, = エクス.  
 wing, = フィグ. witch, = フィチ. wonder, = ワンダア.  
 want, = ナント. out, = アウト. our, = アウア.  
 now, = ナウ. owl, = アウル. power, = パウア.  
 powder, = パウダア. town, = タウン.  
 towering, = タウアリグ.  
 (12,) ye, = イイ. yellow, = イェウ. yard, = ヤアド.  
 you, = ヨン. youth, = イウヱ. young, = ヤグ.  
 boy, = ボイ. coy, = コイ. oil, = オイル.  
 oyster, = オイスタア. he, = ヒイ. heat, = ヒイト.  
 here, = ヒイア. half, = ハアフ. have, = ハヴ.  
 had, = ハド. horrid, = ホリド. who, = フウ.

hoop, = フウプ. hue, = ヒウ. human, = ヒウマン.

方音ノ訛ヲ矯正スルニ視話法ヲ  
應用スルノ例。

凡ソ方音ノ訛ノ生ズル所以ヲ研究スルニ、其原因、素ヨリ種々錯綜シテ、明メ易カラズト雖モ、其主因ノ一ハ、或ル地方ニ住居セル人民ガ、氣候等ノ如キ自然力ニ順應センガ爲メニ、或ル發音器ヲ、一種便宜ト思惟セル位置ニ止メ、却テ正當ノ位置ヲ失フニ因リテ、起レルモノノ如シ。斯クテ某發音器ノ位置、一タビ正當ノ位置ト異ナルキハ、隨テ發音ニ一種ノ差異ヲ生ジ、其差異ヲバ、父母ヨリ子ニ、子ヨリ孫ニト代々相傳ヘテ、遂ニ一種ノ訛ヲ固成シ、容易ニ矯正ス可ラザルニ至ルモノナリ。例ヘバ本邦ニテモ、歐米諸國ニテモ、北隅ニ住居スル人民ノ發音ニハ、常ニ鼻聲ヲ帶ブルガ如キ、又彼等ノ言語ニハ、所謂ル開ケザル音色ヲ現ハスガ如キハ、素ヨリ方音ノ訛リトシテ卑メラルベキモノナレド、必竟彼等、寒地ニ在リテ、寒風

ノ口中ニ突入シ來ルヲ防ガン爲メ、常ニ唇ヲ窄メ、口腔ヲ小ニシ、軟口蓋ヲ垂下スルノ習癖ヲ生ジ、知ラズ識ラズ、之ヲ發音ノ上ニマデ將來スルニ過ギザルノミ。

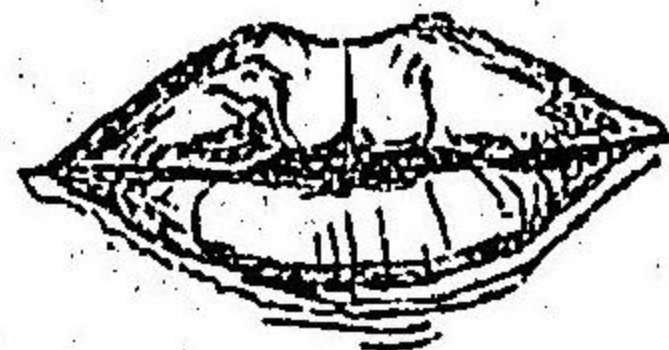
是ヲ以テ、或ル地方ノ言語ノ訛リヲ矯正セント欲セバ、先ツ耳ヲ聽シテ、其方音ノ正音ト異ナル所ヲ聽別シ、次ニ其音差ハ、何等ノ發音器ヲ、何等ノ位置ニ止ムルニ依リテ生スルカヲ考查シ、或ハ分解的ニ、或ハ總合的ニ試験シテ、矯正者、自ラ被矯正者ノ發音ヲ知了シ、遂ニ自ラ其訛音ヲ似セ得ルニ至リ、之ヲ視話法ノ理ニ照ラシテ、其訛音ニ恰當セル音字ヲ構成シ、正音ノ音字ト兩々相對比シテ、其訛ノ生ズル諸點ヲ指摘シ、此ニ始メテ矯正ノ術ヲ施シ得ベキモノトス。

斯ノ如クシテ兩者ノ音差ハ、既ニ明瞭ニ了解シ得ラルルトスルモ、數千年間固定セル習癖ヲ打破シテ、更ニ純正ノ新習慣ヲ得シムルハ、實ニ一大困難事ト云ハザル可ラズ。然レモ

其目的ヲ達スル亦方法手段ナキニ非ス。即チ各音ノ矯正ニ適當ナル各種ノ練習ヲ課シ、誠實ト耐忍トノ力ニ依リテ、幾多ノ困難ニ打勝チ、以テ終局ノ奏功ヲ期スルニ在ルノミ。下ニ最モ普通必須ナル練習ノ方法ヲ授クルニ先チ、[イ][エ][ア][オ][ウ]ノ五韻ヲ發スル口形ノ模範ヲ示スコト下圖ノ如シ。

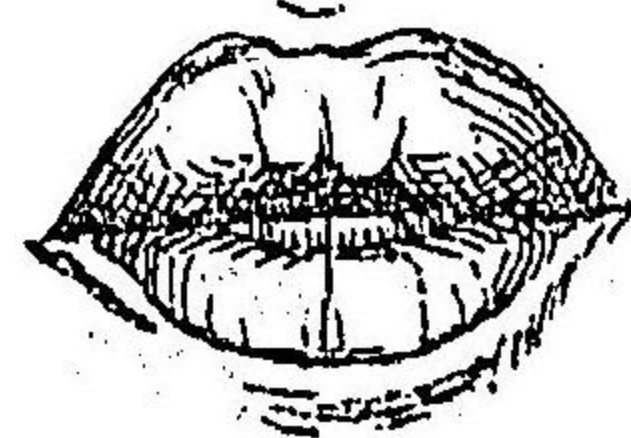
口形及軟蓋練習。

第四十九圖



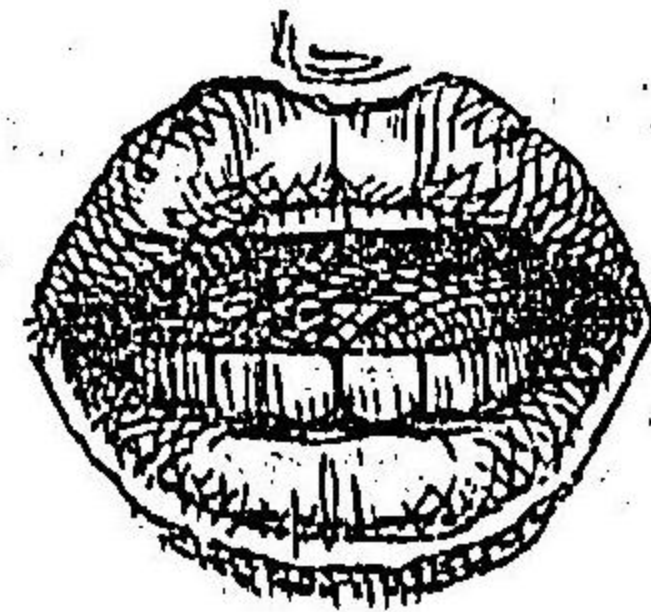
ウ

第四十八圖



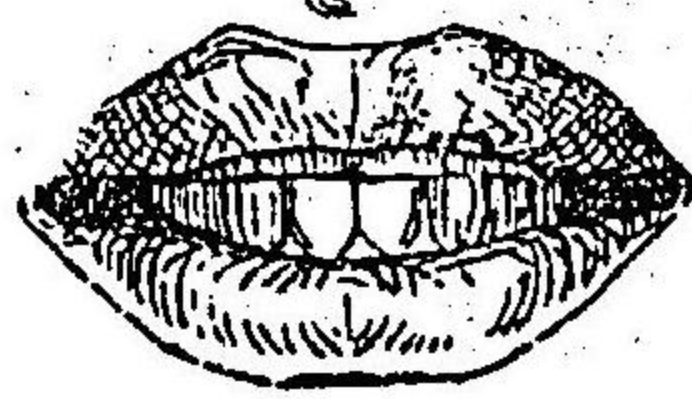
オ

第四十七圖



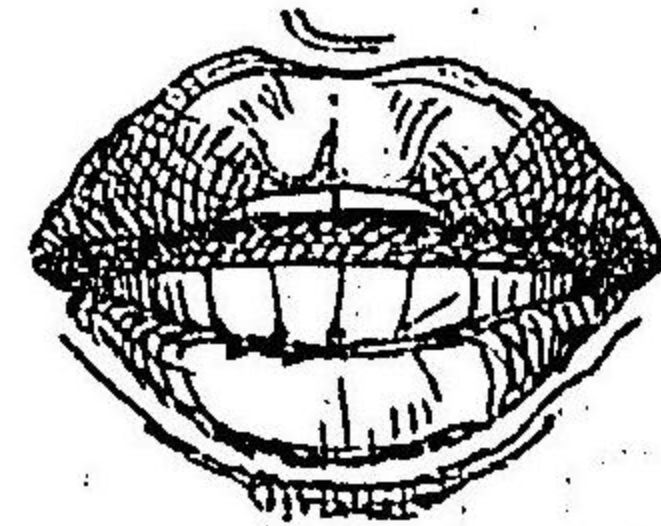
ア

第四十五圖



イ

第四十六圖

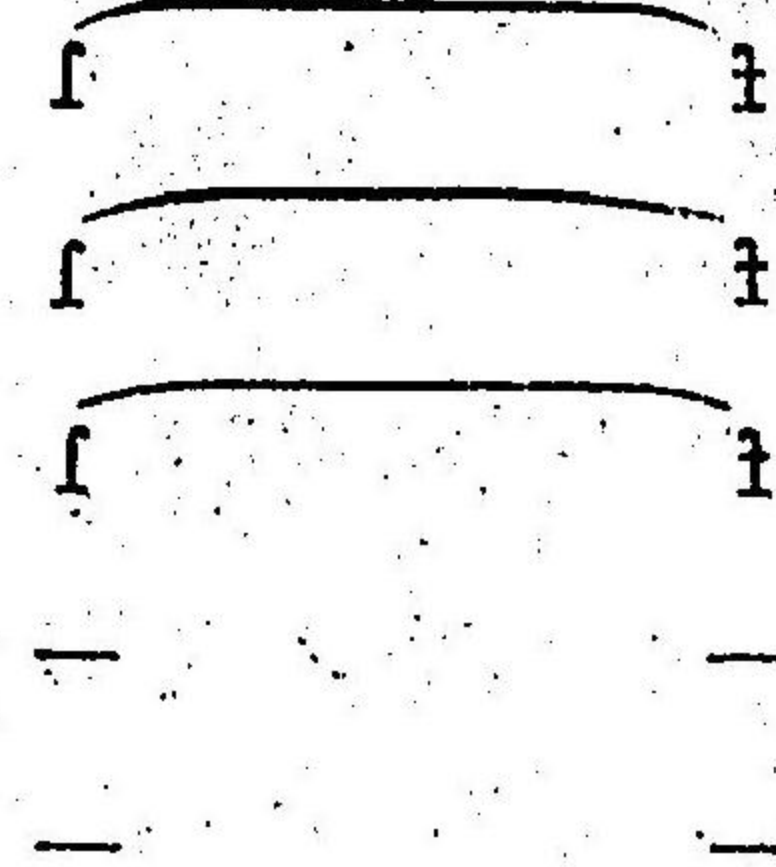


エ

(一) 唇ノ扁平横張ト、環狀收縮トヲ自在ナラシメン爲メ、次ノ運動ヲ爲サシム。

圖解 第四十五圖及第四十九圖ニ依ル。

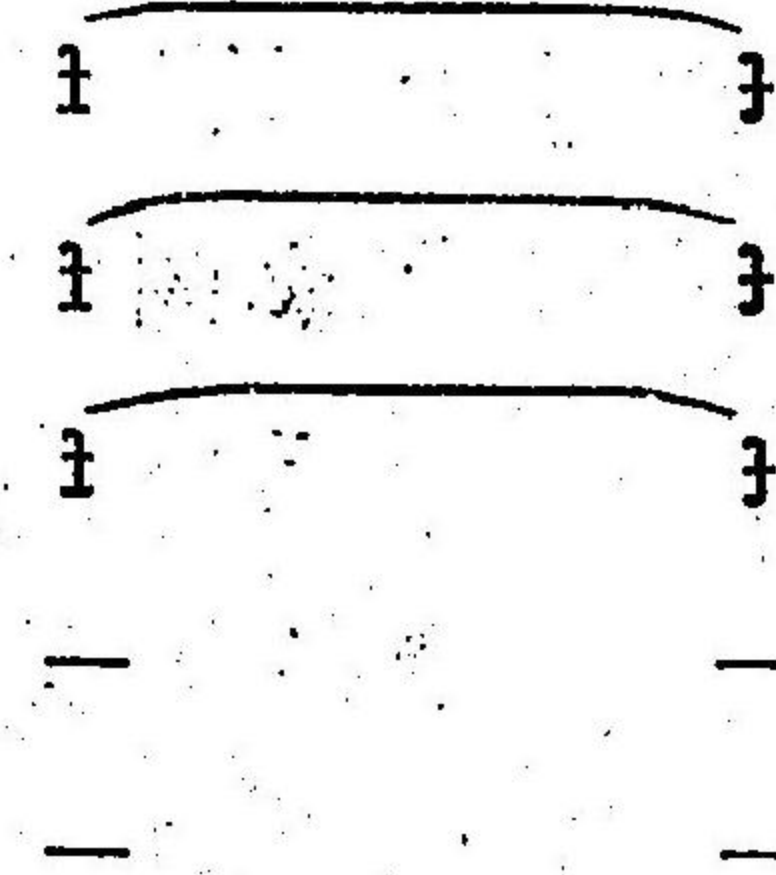
發音法



(二) 唇ノ環狀合開ヲ自在ナラシメン爲メ、下ノ運動ヲ爲サシム。

圖解 第四十九圖及第四十八圖ニ依ル。

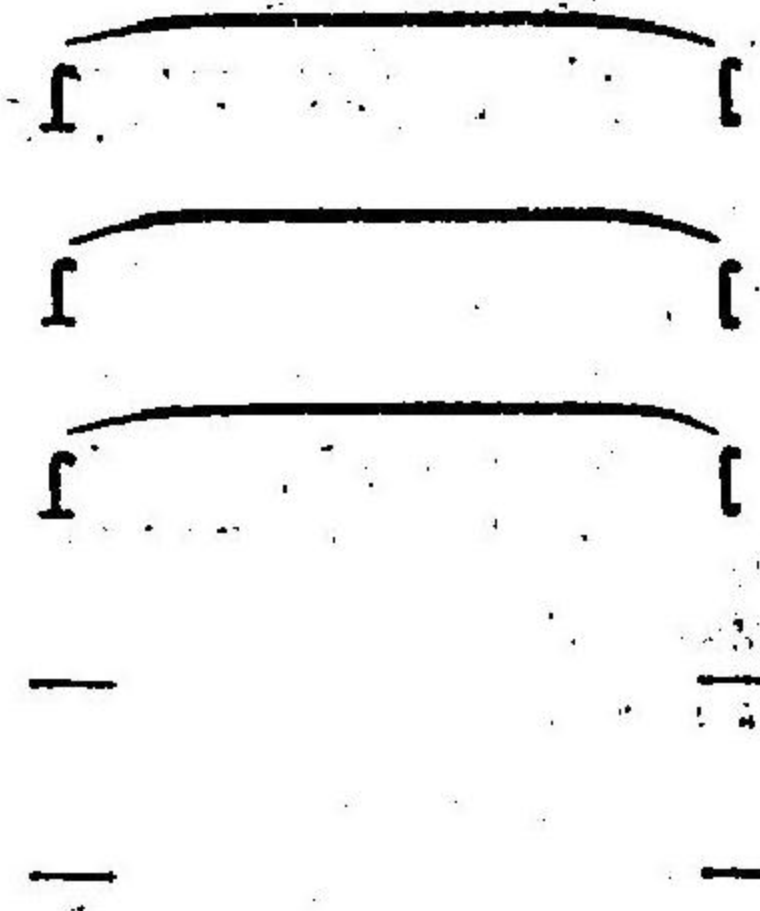
發音法



(三) 唇ノ扁平合開ヲ自在ナラシメン爲メ、下ノ運動ヲ爲サシム。

圖解 第四十五圖及第四十六圖 = 依ル。

發音法

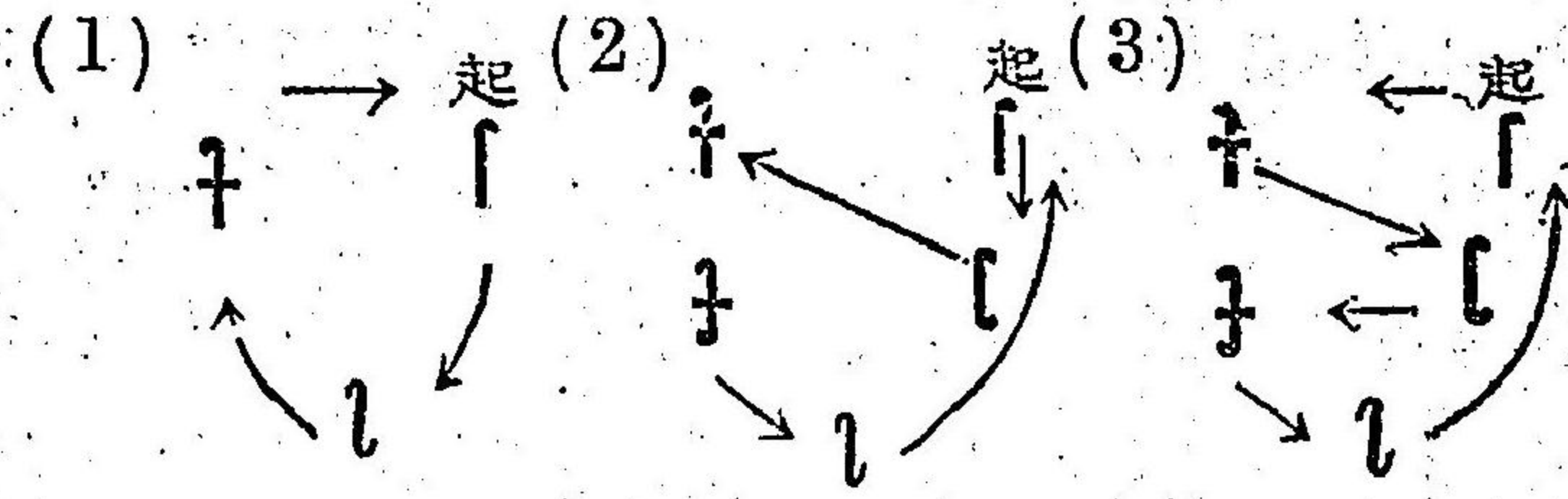


(四) 以上ノ諸練習ヲ種々ニ結合シテ、平  
圓縱橫ノ合開ヲ自在ナラシメシム  
メ、下ノ運動ヲ爲サシム。

圖解

- (1) 第四十五圖第四十七圖及第四十九圖 = 依ル。
- (2) 第四十五圖第四十六圖第四十九圖  
第四十八圖第四十七圖 = 依ル。
- (3) 第四十五圖第四十九圖第四十六圖  
第四十八圖第四十七圖 = 依ル。

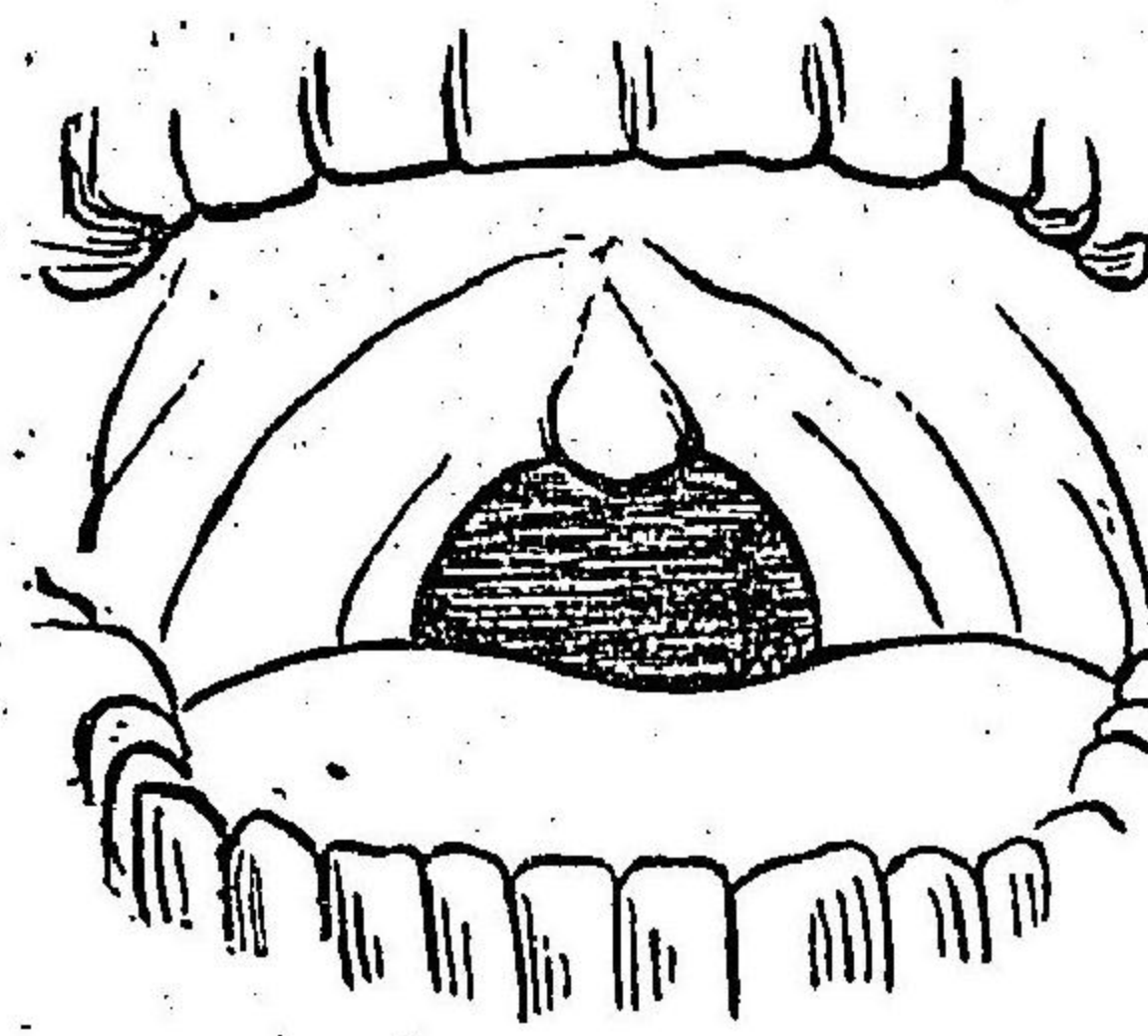
發音法



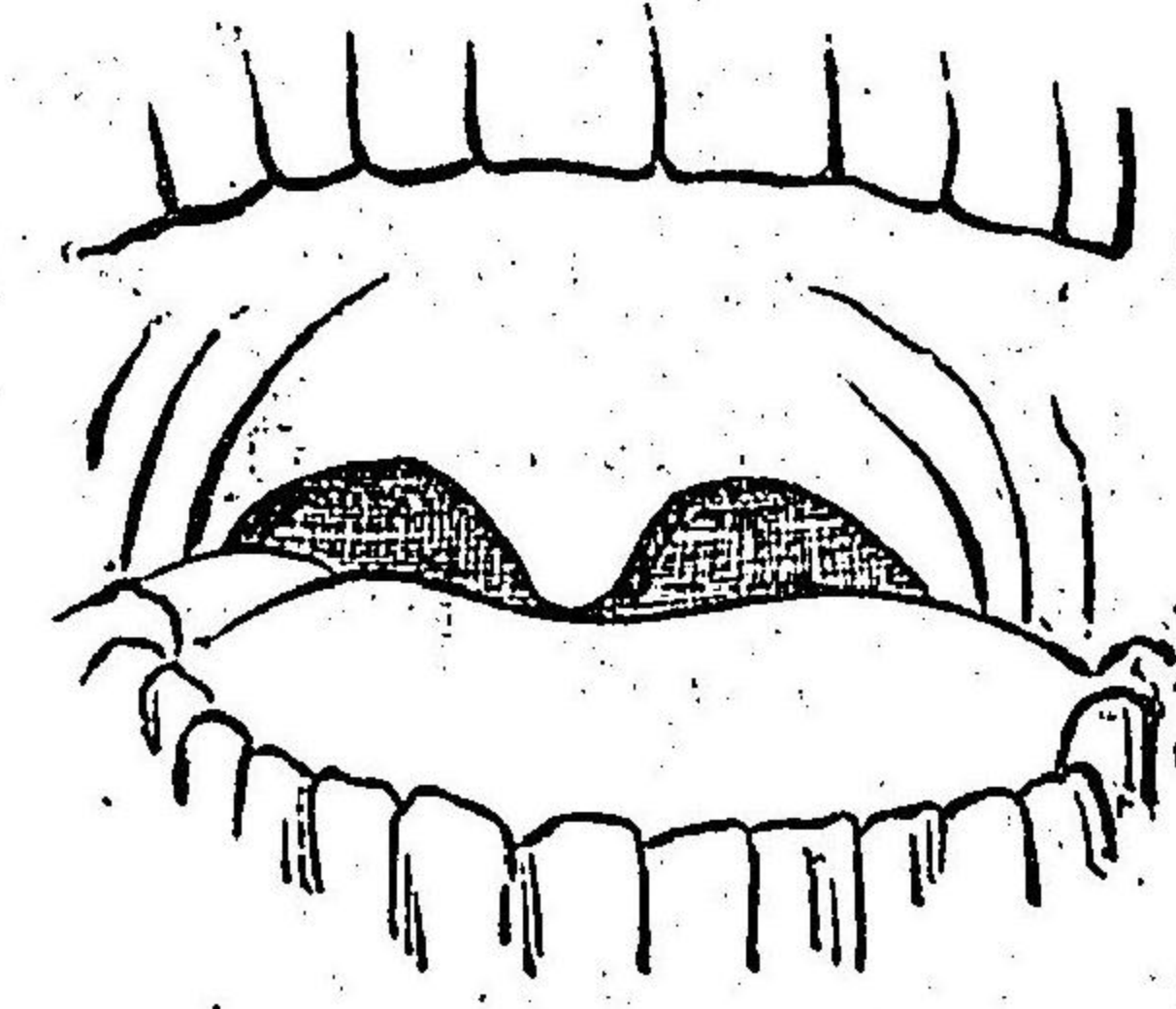
(五) 軟口蓋ノ上下ヲ自在ナラシメシム  
メ、下ノ運動ヲ爲サシム。

圖解

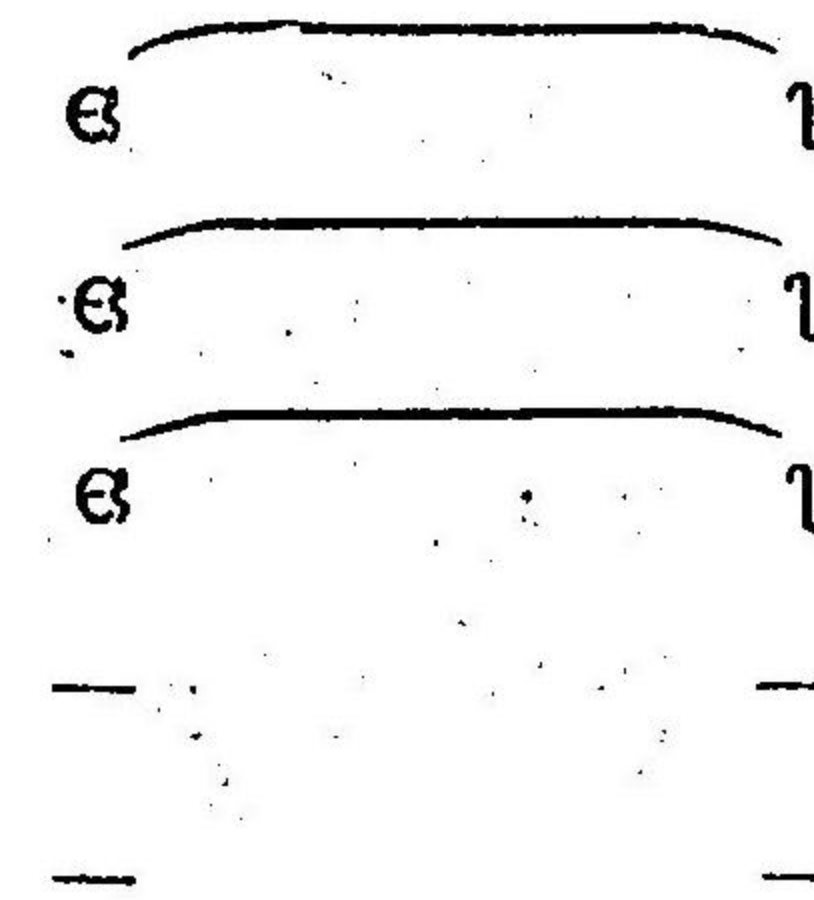
第五十一圖



第五十圖



發音法



以上ノ外、猶父音ニ關スル練習許多アリト雖モ、今ハ省略シテ、此ニ掲ゲズ。學者、宜シク其機ニ臨ミ、變ニ應ジテ、自ラ工夫ヲ積ムヲ要ス。

明治三十二年ノ夏、余、海濱夏期講習會ヲ開キ、自ラ視話法ノ傳習ヲ爲サント企テシガ、時恰モ赤痢病ノ流行ニ際シ、遂ニ果サス。然ルニ青森縣師範學校ヨリ、特ニ該校教員新内國夫今力太郎ノ二名ヲ派シ、切ニ其傳習ヲ乞ハレタレバ、余、喜テ之ヲ諾シ、大凡ソ十五六日間ノ時日ヲ以テ、視話法ノ要略ヲ授ケ、且實地ニ該地方ニ行ハルル方音ノ訛ヲ矯正スルコトヲ試ミシニ、幸ニ成功シテ、歸縣ノ後、先ツ第一着ニ師範學校生徒ト其附屬小學ノ生徒トニ試行シ、其効果ノ著シキヲ見テ、今ヤ該縣一般ニ此法ヲ用非テ、發音矯正ノ端ヲ開クニ至レリ。下ニ新内氏ノ發音教授報告書ヲ掲ゲテ、參考ノ一助ニ供セン。

#### 發音法教授ノ報告書寫

視話法ノ原理ニ基キテ創作セラレタル發

音法ヲ教授シタル要項ヲ報告スルコト下ノ如シ

#### 第一 教授ノ順序

1. 視話法トハ何ソヤ 2. 視話法ハ何ノ用ヲ爲スカ 3. 視話法ヲ發明セシハ何人ナルカ 4. 本邦ニ視話法ヲ傳來セシ概略 5. 視話法音字ノ構造及名稱ヲ教授シ次ニ

父音トシテ二十、コレハ子音及拗音ヲ教授スルノ際同時ニ之ヲ授ケタリ

母韻トシテ五、

子音トシテ七十一、コレヲ細別スレハ

唇音十八、

舌頭音二十四、

舌上音十、

舌本音十五、

喉音四、

拗音トシテ三十五、コレヲ細別スレハ

唇舌上音九、

舌頭舌上音十七、

## 舌本舌上音九

以上父音ヲ除キ百十一音ヲ本邦現行ノ音韻トシテ教授セリ其應用トシテ四年生即チ教生ニハ尋常小學科ノ讀本二冊高等小學科ノ讀本二冊及會話ヲナサシメ二年生ニハ予カ別ニ受持タル漢文科ノ讀講ニ注意矯正シタル外一般ニ本校設クル所ノ言語練習會ニ於テ之カ應用ヲ試ムルコトヲ獎勵シタリ右教授用トシテ父音表、母韻表、清音濁音表日本音韻統合一覽表四葉ヲ掛圖ニ調製セリ

## 第二 教授ノ時間

上ノ順序方法ニ依リテ教授シタル時間大約下ノ如シ

甲組教生ニハ二十時間一週一時間又ハ二時間

乙組教生ニハ二十四時間同上

二年生ニハ二十時間一週一時間

## 第三 教授ノ成績及將來ノ希望

教授時間ノ短少ナル割合ニハ成績稍見ルヘ

キモノアリ假名一字ノ發音ニツキテハ殆ンド方音ヲ脱却シ正音ヲ發シ得ルニ至レリトイヘトモ書籍ノ讀講又ハ會話ニ於テハ矯正ノ功顯著ナリト云フヲ得サルハ遺憾甚大ナリトス希クハ將來益讀法ヲ應用シ各學科ノ教授ニ於テモ受持教師ノ周到ナル注意ト適當ナル指導ヲ得就中國語科ノ讀講又ハ作文ニ於テ深ク假名遣ニ注意セシメ併セテ着々方言ヲ改良シ一言半句ノ發音トイヘ之ヲ苟且ニセザラシメバ漸次訛音ヲ矯正シテ言語ヲ改良スルコト決シテ難キニアラザルヲ知ル唯憾ムラクハ本校生徒ノ交際甚偏狹ニシテ本縣言語ノ那邊ニマデ其不便ヲ來シツ、アリヤ等之ヲ經驗シタルモノ甚少ナクレバ從テ自ラ進デ方音方言ヲ矯正改良セント欲スル智的勇氣ナキノミナラズ自己ノ使用シツ、アル言語ノ那邊ニマデ改良セザルベカラサルカノ必要ヲ自覺セル者ノ甚僅少ナルコトナリ且附屬小學校ニ從事スル訓導ヲ



シテ大ニ該法ヲ應用セシメ幼稚ナル生徒ノ訛音ヲ矯正スルコトヲ督勵セハ其効益蓋著大ノ者アルベシ年長者ヨリモ幼年者ノ訛音ヲ矯正スルコトノ容易ナルハ予ノ實驗シタル尋常小學科第二年生ニ徵スルモ明カナル事實ナレバ可成縣小學校教員ヲシテ該法ヲ講習セシメ一日モ速ニ方音方言ヲ矯正改良シタキモノナリ

附言岩泉上田淺石長野ノ訓導ニハ約六時間ヲ以テ前記第一項ノ順序ニ依リ之ヲ傳習セリ

以上報告候也

明治三十三年三月二十八日

青森縣師範學校訓導兼助教諭心得

新 内 國 夫

青森縣師範學校長小林盈殿

抑余ガ、視話法ノ原理ヲ應用シテ、東北地方ノ訛音ヲ矯正セント志シ、ハ、明治十四五年

頃、青森縣師範學校長藤田氏ノ請ニ應シ、東京師範學校ニ於テ、數名ノ同縣卒業生徒ニ、此法ヲ試ミタルニ始マレリ。其後明治二十四年、國家教育社ノ大會ニ際シ、仙臺ニ於テ、東北諸縣ノ會員ニ之ヲ傳習セシコトアリ。又數年前、米澤市ニ開キタル山形縣教育會ニ於テ其概要ヲ演述シタルコトアリキ。其間各種ノ生徒ニ接シ、彼等ノ發音ヲ考查スルニ各多少ノ差異アルヲ免レズト雖モ、自ラ東北地方ニ通有セル訛音アルハ、明白ノ事實トス。今下ニ青森地方ニ行ハル、方音ヲ、五十音ノ順列ニ從ヒ、視話法音字ト新式假字記法トニ依リテ表示シ、以テ學者ノ參考シ供セン。

l	l	ɿ	ɿ	ɿ	ア	イ	ウ	エ	オ
al	alɿ	at	af	at	カ	キ	ク	ケ	コ
ul	ulɿ	ut	uf	ut	カ	キ	ク	ケ	コ
ol	olɿ	ot	of	ot	タ	チ	ツ	テ	ト
ol	olɿ	ot	of	ot	ナ	ニ	ス	ネ	ノ

ㄅ	ㄅㄨㄛ	ㄅㄨ	ㄅㄨㄛ	ㄅㄨ	フア	フエ	フオ
ㄆ	—	—	—	ㄆ	ハ	—	ホ
ㄇ	ㄇㄨㄛ	ㄇㄨ	ㄇㄨㄛ	ㄇㄨ	マ	メ	モ
ㄏ	ㄏㄨㄛ	ㄏㄨ	ㄏㄨㄛ	ㄏㄨ	ヤ	エ	ヨ
ㄏ	ㄏㄨㄛ	ㄏㄨ	ㄏㄨㄛ	ㄏㄨ	ワ	ウ	オ

ㄉ	ㄉㄨㄛ	ㄉㄨ	ㄉㄨㄛ	ㄉㄨ	ガ	ゲ	ゴ
ㄊ	ㄊㄨㄛ	ㄊㄨ	ㄊㄨㄛ	ㄊㄨ	ザ	ゼ	ゾ
ㄊ	ㄊㄨㄛ	ㄊㄨ	ㄊㄨㄛ	ㄊㄨ	ダ	デ	ド
ㄊ	ㄊㄨㄛ	ㄊㄨ	ㄊㄨㄛ	ㄊㄨ	パ	ペ	ポ

ㄊ	ㄊㄨㄛ	ㄊㄨ	ㄊㄨㄛ	ㄊㄨ	パ	ペ	ポ
---	-----	----	-----	----	---	---	---

ㄅ	ㄅㄨㄛ	ㄅㄨ	ㄅㄨㄛ	フエ	フエ	フオ
ㄆ	ㄆㄨㄛ	ㄆㄨ	ㄆㄨㄛ	キエ	キエ	キオ
ㄇ	ㄇㄨㄛ	ㄇㄨ	ㄇㄨㄛ	キヤ	キユ	キヨ
ㄏ	ㄏㄨㄛ	ㄏㄨ	ㄏㄨㄛ	*キヤ	キユ	キヨ
ㄏ	ㄏㄨㄛ	ㄏㄨ	ㄏㄨㄛ	ニヤ	ニユ	ニヨ

ㄅ	ㄅㄨㄛ	ㄅㄨ	ㄅㄨㄛ	ビヤ	ビユ	ビヨ
ㄆ	ㄆㄨㄛ	ㄆㄨ	ㄆㄨㄛ	ビヤ	ビユ	ビヨ
ㄇ	ㄇㄨㄛ	ㄇㄨ	ㄇㄨㄛ	ミヤ	ミユ	ミヨ
ㄏ	ㄏㄨㄛ	ㄏㄨ	ㄏㄨㄛ	*リヤ	リユ	リヨ

又右二氏ガ能ク視活法ノ理ヲ了解シ、余ガ正音ト認定スル所ノ音韻ヲ發シ得ルニ至リタル後、自ラ某讀本ヲ持チ來リ、其一部ヲ視話法音字ニテ寫シタルモノヲ、下ニ掲グ。但シ各語ノ或ル部分ニ[ノ]ノ符號ヲ附スルモノハ、音勢ヲ表ス、是ハ、全ク東京地方ニ行ハル、音勢ナリト知ルベシ。

尋常小學新體讀本 卷一

ハ。ㄊ	ハト。ㄊㄨㄛ	ハダ。ㄊㄨㄛ	タコ。ㄊㄨㄛ
コマ。ㄊㄨㄛ	カマ。ㄊㄨㄛ	タケ。ㄊㄨㄛ	マツ。ㄊㄨㄛ
ツル。ㄊㄨㄛ	サル。ㄊㄨㄛ	カニ。ㄊㄨㄛ	カメ。ㄊㄨㄛ
マリ。ㄊㄨㄛ	イト。ㄊㄨㄛ	ハサミ。ㄊㄨㄛ	イヌ。ㄊㄨㄛ
子コ。ㄊㄨㄛ	キツ子。ㄊㄨㄛ	フ子。ㄊㄨㄛ	ホ。ㄊㄨㄛ
アミ。ㄊㄨㄛ	フエ。ㄊㄨㄛ	ユミ。ㄊㄨㄛ	ヤリ。ㄊㄨㄛ

カタナ。カヲシ。モモ。オト。クリ。ナシ。  
 鳥。ムシ。スミ。ホン。オト。  
 テホン。ツクエ。セミ。ハチ。  
 カラス。アヒル。ヒヨコ。  
 ヤシロ。トリ井。チナケ。  
 オモト。ソテツ。キウリ。  
 ヘチマ。クラ井。タケノコ。  
 レンコン。

フヂ。ボタン。ヤナギ。井ド。  
 ミヅ。ヘビ。トカケ。フデ。  
 スズリ。コガタナ。ソロバン。  
 ザル。カブ。ダイコン。  
 エンジン。セン。サカヅキ。  
 ナベ。カゴ。ハマグリ。  
 ベン。エンピツ。ランプ。  
 ラツバ。ポンプ。クハ。  
 タラヒ。カヘル。アサガホ。  
 ユウカホ。

くり。うま。うし。しか。ますとはかり。なしとかきとみかん。まつのき。うめのき。はちのす。いしにかめ。きれいなはな。くろいねこ。しろいねずみ。からすがなく。うがいつる。せみなく。いぬほゆ。かぜふく。とりとぶ。原たんのつぼみひらく。ふぢのはなをながむ。ひとがらつばをふく。ひけしがほんぶをひく。きじへびをくふ。をぬふ。ひとかへるをみる。かへるやなぎのえだに

とびつく。a[ʼ]w[ʼ] ɔ[ʼ]w[ʼ] ɛ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ]  
 このこはまりをなげ、あのこはたこをあぐ。  
 ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɛ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ]  
 ゐどにつるべがある。i[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɛ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ]  
 さらにたひあり。かごにたまごあり。ざるに  
 くわろあり。ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] i[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɛ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɛ[ʼ] ʊ[ʼ] i[ʼ] ʊ[ʼ]  
 ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɛ[ʼ] ʊ[ʼ] i[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɛ[ʼ] ʊ[ʼ] i[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ]  
 えんぴつにて糸をうつす。  
 ふてにてもじをかく。i[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] i[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ]  
 ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɛ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ]  
 そろばんにてものを  
 かぞへ、べんにてよこもじをかく。ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ]  
 ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ] ɔ[ʼ] ʊ[ʼ]

### 聾啞ノ發音教授ニ視話法ヲ 應用スルノ例

學者、能ク以上數章ニ論述セシ所ニ通曉シ、  
 尙ホ幾多ノ經驗ヲ積ムトキハ、其理法ヲ應用  
 シテ、聾啞ニ發音ヲ教授スルハ、決シテ難事ニ  
 非スト知ルベシ。此ニ十數年來、余ガ試ミタル  
 所ノ實驗ヲ掲ゲ、以テ將來彼ノ慙然ナル不具  
 者ヲ化シテ常人ト成ラシムルガ如キ、慈仁貴

重ナル事業ニ志ス人士ノ參考ニ供セン。

凡ソ聾啞ハ、大抵發音器ノ不具ナルニ非ズ  
 シテ、全ク聽官ノ發育不十分ナルカ、又ハ一種  
 ノ疾ノ爲メ、其官能ヲ失ヒ、爲メニ人言ヲ聽取  
 スル能ハザルヨリ、遂ニ聾啞トナレルモノナ  
 レバ、視官ヲ以テ聽官ニ代ヘ、他人ノ發音器ノ  
 活動ヲ見テ、其何等ノ音韻ヲ發スルカヲ悟テ  
 シムルヲ得ハ、自ラ言語ヲ發スルコトモ、他人  
 ノ發言ヲ悟ルコトモ、共ニ自在ニ爲シ得ザル  
 理ナシ。是レ視話法ノ理ヲ應用シテ、聾啞ニ發  
 音ヲ教フルノ要訣ナリ。

前段説ク所ノ如クナルヲ以テ、聾啞ハ、概シ  
 テ[ア]又ハ[オ]ノ如キ一種不定ノ音聲ヲ發スル  
 チ常トス。此發音ユソ、實ニ聾啞ニ言語ヲ教フ  
 ルノ基トナルモノナレバ、潛心留意シテ、其發  
 音ヲ聽取シ、如何ナル音ニテモ、之ヲ捨テズ、最  
 モ其音ニ近キ所ノ正音ヲ授クルヲ以テ、啞生  
 發音教授ノ第一歩トス。例ヘバ、其發音[ア]ニ近  
 キキハ、教師自ラ[ア]ノ正音ヲ發シナガラ、其口

舌ノ有様ヲ指シ示シ、手眞似ヲ以テ己レガ爲ス如ク、啞生ノ口舌ノ位置ヲ形成セシム。又其發音[オ]ニ近キキハ、教師[オ]音ヲ發シナガラ、唇ノ形ヲ指シ示シ、彼ヲシテ之ニ倣ハシムルガ如シ。此ニ特ニ注意スベキハ、教授ノ初ヨリ、啞生ヲシテ、常ニ教師ノ口舌ノ形狀ニ注意セシメ、且自ラ鏡ヲ執リ、之ニ照ラシテ自己ノ口舌ノ形狀ヲ矯正スルニ慣レシムルニ在リ。而シテ之ト同時ニ教師ハ、人ノ顔ヲ縱斷シタル圖ヲ描キ、諸腔内ノ發音諸器ノ位置形狀ヲ懇示シ、其圖解ヲ了會スルニ隨テ、漸ク視話法音字ニ習熟セシムルヲ要ス。

今、假リニ[ア]音ノ教授ヨリ始ムルトセンニ、前段ニ示セル如キ方法ニヨリテ、啞生既ニ[ア]音ヲ習得スルキハ、舌ノ位置ヲ變シ、舌ノ前部ヲ高クシテ、[イ]音ニ移リ、[イ]ヲ習得スルキハ、舌ノ前部ヲ低クシテ、[エ]ヲ學バシム。ソレヨリ舌ノ後部ニ移リ、[オ]ヨリ[ウ]ニ進ムカ、又ハ[ウ]ヨリ[オ]ニ下ルカノ如キハ、其時又ハ個人ノ出來具

合ニ依リテ、順序ヲ定ムベキモノニシテ、決シテ豫メ規矩ヲ設クベキモノニアラス。要ハ、啞生ノ發音ニ專心注意シ、其最モ導キ易キ所ニ導クヲ以テ通法トスベキノミ。余ガ從來ノ經驗ニ依レバ、五個ノ母韻ヲ發セシムルハ、大抵二三回ノ教授ニテ足レリトス。然レモ其正音ニ習熟セシムルハ、猶幾多ノ時日ヲ要スルコト勿論ナリトス。

次ニ、子音ノ教授ニ就キ、少シク順序方法等ヲ述ベンニ、凡ソ父音中、最モ教ヘ易キヲ(唇閉)トス。其故ハ、目、直ニ之ヲ視テ、口、直ニ之ヲ模倣シ得ルヲ以テナリ。既ニ此父音ニ對スル發音器(唇)ノ位置形狀ヲ會得スルキハ、之ニ[イ]ト[エ]トノ母韻ヲ結合シテ、[バ] [ピ] [ブ] [ベ] [ボ]ノ子音ヲ發スルコトヲ習ハシメ、之ニ熟スルキハ、進デ(唇閉・聲)ヲ授ク。然ルニ[ロ]ト[リ]トハ、目ニテ其差異ヲ識別スル能ハザルヲ以テ、啞生ノ手甲ヲ、教師ノ咽佛ニ觸レシメ、其内部ノ聲帶ノ顫動ヲ感ゼシメ、圖解ニ依リテ、聲帶ノ位置ヲ

知ラシメ、且其顫動ノ狀ヲ悟ラシメ、遂ニ彼之ニ倣ヒテ、其聲帶ニ顫動ヲ發シ得ルニ至ラシムベシ。斯クテ一回ビ此課ニテ、聲帶ノ顫動ヲ感得スルトキハ、餘多ノ有聲父音(濁音)ハ、勞セズシテ進習スルヲ得ルモノナリ。次ニ進デ日(唇閉、聲鼻)ヲ授ク。コレハ、既ニ日ニテ得タル聲ヲ、鼻ヲ通シテ出スコトヲ教フルニ在レハ、彼ノ手甲ヲ教師ノ鼻前ニ將チ來ラシメ、氣息ノ之ヨリ出ツルヲ悟ラシムベシ。而シテ日ノ場合ニ於テハ、之ニ [i] [i] [i] ナ結合シテ、[バ][ビ][ブ][ベ][ボ]ヲ得、日ニ於テハ、之ニ [i] [i] [i] ナ結合シテ、[マ][ミ][ム][メ][モ]ヲ得ルコトヲ教フルモノトス。以上述ブル所ノ方法ハ、廣ク諸種ノ發音教授ニ適用スベキモノナレバ、下ニハ難易ノ度ヲ考量シテ、各子音教授ノ順序ヲ示シ、其方法ハ、特別ノ説明ヲ要スルモノ、外ハ附說セズ。學者宜シク自ラ工夫シテ、好果ヲ得ンコトヲ望ム。又此ノ順序ノ如キモ、決シテ拘泥スルニ及バズ、其場合ニ臨ミテ、教師ノ變轉

運用ノ機智ニ委センコトハ、著者ノ素ヨリ切望スル所ナリ。

- (1) 

o	o	o	o	o	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
o	o	o	o	o	バ	ビ	ブ	ベ	ボ
o	o	o	o	o	マ	ミ	ム	メ	モ
- (2) 

o	—	—	o	o	タ	—	—	テ	ト
o	—	—	o	o	ダ	—	—	テ	ド
o	o	o	o	o	ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ

[注意] [タ]行[チ][ツ]ハ、音質ヲ異ニシ、此場合ニテハ授ケ難キニ依リ、省キ置クヲ可トス。又口ヲ數フルニハ、舌ノ頭ヲ平ニシテ、齦ノ邊ニ壓附スルニ、力ヲ用非ンコトヲ示ス爲メ、教師右手ノ四指ヲ左掌ニ壓着シテ、其狀ヲ擬シ、啞生ヲシテ、自ラ之ヲ模倣セシムルヲ要ス。

- (3) 

o	o	o	o	o	カ	キ	ク	ケ	コ
o	o	o	o	o	ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ
o	o	o	o	o	カ	キ	グ	ゲ	コ

[注意] 此課ニ於テ授クル父音ハ、舌ノ後方ニ係リ、口腔内ノ、目ニ見エザル部分ノ活動ヲ

悟ラシムルニ在ルヲ以テ、圖解ノ力ニ依ルト同時ニ、手眞似ニテ、舌本ノ軟蓋ニ突撃スル狀ヲ會得セシムルヲ要ス。

(4)  $\text{oi} - \text{oi} - \text{oi}$        $\text{hi} - \text{hi} - \text{hi}$   
            $\text{oi} - \text{oi} - \text{oi}$        $\text{ya} - \text{yu} - \text{yo}$

[注意] 此課ノ  $\text{hi}$ 、 $\text{hi}$ 、 $\text{hi}$ 、ハ、最モ單純ナル子音ナルニ依リ、啞子ニ教フルハ容易ナリトス。此點ヨリ見ルモ、其音質ノ拗音ニアラザルコト明ナリ。

(5)  $\text{oi} \text{ oi} - \text{oi} \text{ oi}$        $\text{ha} \text{ hi} - \text{he} \text{ ho}$

[注意] 此喉音モ、物ニ息ヲ吹キカクルキニ、自然ニ發スルモノナレバ、其教授ハ難キコトナシ。

(6)  $\text{oi} \text{ oi} \text{ oi} \text{ oi} \text{ oi}$        $\text{ra} \text{ ri} \text{ ru} \text{ ro}$

[注意] 此子音ノ教授ハ、最モ困難トスル所ノモノナレバ、能ク耐忍シテ授ケザル可ラズ。或ハ、圖解ニヨリ、或ハ手眞似ニ依リ、又ハ氣息ノ發出ノ模様ヲ、手甲ニ感ゼシムルナド、有ラユル手段ヲ盡スヲ要ス。最終ノ手段トシテ、舌

頭ヲ器械的ニ後方ニ卷キ上ゲシメ、其裏面ヲ硬口蓋ニ磨擦セシメ、一種ルニ類セル音ヲ發セシメテ、満足セザルヲ得サルコトアリ。實ハ普通ノ人ニテモ、ルノ音ヲ正シク發スルヲ得ザルモノハ、決シテ珍シカラヌコトナリ。

(7) — —  $\text{oi}$  — —      — —  $\text{fo}$  — —  
            $\text{oi} - - - \text{oi}$        $\text{ro} - - - \text{ro}$

[注意] コレヨリ複合文字ニ移ルニ依リ、其教授モ、亦繁錯ニ涉ラザルヲ得ズ。併ナガラハ、[唇開]ノ位置ト共ニ自ラ[舌本開]ノ位置伴ヒ來ルモノナレバ、教授ニハ、敢テ困難ヲ見ザルヲ常トス。

(8)  $\text{oi} - \text{oi} \text{ oi} \text{ oi}$        $\text{sa} - \text{sa} \text{ se} \text{ so}$   
            $\text{oi} - \text{oi} \text{ oi} \text{ oi}$        $\text{za} - \text{za} \text{ ze} \text{ zo}$

[注意] 此課ノ教授ハ、隨分困難ナルヲ常トス。其一法ハ、啞生ニ教師ノ舌頭ヲ注視セシメ、其端ノ中央ナル小溝ヨリ、細ク鋭ク氣息ヲ出シツ、舌面ノ齶ニ磨擦シテ動クコトヲ悟ラシムルヲ可トス。

(9)  $\omega\eta$   $\omega\eta$   $\omega\eta$  —  $\omega\eta$        $\eta$   $\eta$   $\eta$  —  $\eta$

[注意] 此課ノ教授ニ於テハ、前課ニテ、舌頭ヲ齧ニ觸レタルト同ジキ方法ニテ、舌ノ上部ヲ硬口蓋ニ觸レテ、磨擦スルコトヲ悟ラシムベシ。

(10)  $\rho\omega\eta$  —  $\rho\omega\eta$  —  $\rho\omega\eta$        $\rho$   $\rho$  —  $\rho$

$\theta\omega\eta$  —  $\theta\omega\eta$  —  $\theta\omega\eta$        $\theta$   $\theta$  —  $\theta$

$\phi\omega\eta$  —  $\phi\omega\eta$  —  $\phi\omega\eta$        $\phi$   $\phi$  —  $\phi$

[注意] 此課ヨリ拗音ニ移ルニ依リ、教授ハ繁雜ナレドモ、前ノ諸課ニ熟セシトキハ、餘リ困難ヲ感セザルベシ。二個ノ發音器ノ位置ヲ、同時ニ形成活動スルコトニツキ、幾多ノ練習ヲ積ムヲ要ス。

(11)  $\omega\eta$  —  $\omega\eta$  —  $\omega\eta$        $\eta$  —  $\eta$  —  $\eta$

$\omega\eta$  —  $\omega\eta$  —  $\omega\eta$        $\eta$  —  $\eta$  —  $\eta$

(12)  $\alpha\eta$  —  $\alpha\eta$  —  $\alpha\eta$        $\eta$  —  $\eta$  —  $\eta$

$\epsilon\eta$  —  $\epsilon\eta$  —  $\epsilon\eta$        $\eta$  —  $\eta$  —  $\eta$

$\epsilon\eta$  —  $\epsilon\eta$  —  $\epsilon\eta$        $\eta$  —  $\eta$  —  $\eta$

[注意] 前二課ニ於テハ、清音ノ場合ニ述ベ

タル外、別ニ困難ナカルベシ。

(13)  $\omega\eta$  —  $\omega\eta$  —  $\omega\eta$        $\eta$  —  $\eta$  —  $\eta$

$\omega\eta$   $\omega\eta$   $\omega\eta$  —  $\omega\eta$        $\eta$   $\eta$   $\eta$  —  $\eta$

$\omega\eta$   $\omega\eta$   $\omega\eta$  —  $\omega\eta$        $\eta$   $\eta$   $\eta$  —  $\eta$

[注意] 此課ノ諸音ハ、拗音中ニテ最モ教ヘ難キ所ノモノナリ。其方便他ナシ、或ハ圖解ニ依リ、或ハ手眞似ニ依リ、時ニ視官ニ訴ヘ、時ニ觸官ヲ利用シ、忍耐ノ力ニヨリテ、終局ノ目的ヲ達スルノ外ナシ。其困難ノ餘リ、人或ハ $\omega\eta$ ヲ以テ $\omega\eta$ ニ、 $\omega\eta$ ヲ以テ $\omega\eta$ ニ代用セントスルモノアレバ、余ガ經驗ニ依レバ、其正音ヲ教フルハ、決シテ爲シ得ベカラサル事ニ非レバ、不適不完ノ發音ニ甘ゼザルヲ可トス。サレバ萬止ムヲ得ザル場合ニハ、類似音ニ安ズルモ、教ヘザルニハ優ルベキカ、再三考量ノ上決定スベシ。 $\omega\eta$ モ、亦頗ル學習ニ難キ所ノモノナリ。

以上述ブル所ニ依リ、一ト通り發音ノ教授ハ終ハルモノトシ、猶學習ヲ要スルハ、音ノ長短ト音勢トノ事ナリ。長音ヲ表スルニハ、視話



法ニテハ、 $\int$ ノ符號ヲ用フレドモ、最初ハ同字ヲ併記シ、弧線ヲ以テ連繫シテ、其長キヲ示スヲ可トス。例ヘバ、 $\int = \text{イイ}$ 、 $\int = \text{イー}$ ノ如シ。又音勢ハ、必竟音節ノ長短ニ過ギザルモノナレバ、 $\text{a} \int \text{a} = \text{洋犬}$ 、 $\text{a} \int \text{a} = \text{瓶}$ (但東京音勢ニ依ル。西京ナレバ、反對ト知ルベシ)ノ如クシテ教ヘ導クトキハ、餘リ困難ヲ感ゼズシテ、習熟セシムルヲ得ベシ。

コレヨリ、進デ單語ノ練習ヨリ、會話ニ及ボシ、終リニ啞生ヲシテ、他人ノ發音器ノ發動ヲ視テ、直ニ言語ヲ解シ、自ラ言語ヲ發シテ、之ニ答ヘ得ルニ至ラシメザル可ラズ。茲ニ特記シテ、學者ニ警告スルハ、 $\int$ 決シテ成功ヲ急グ勿レ $\int$ ノ一言ナリ。余ガ經驗ニ於テモ、屢々成功ヲ急ギタルガ爲メ、十分ノ効ヲ得ル能ザリシハ、今ニ悔ユル所ナリ。而カモ既ニ及バザルヲ奈トモスル能ハズ。噫我、過テリ、他人ヲシテ此過ヲ再ビセシムルニ忍ビンヤ。特ニ我國語ニハ、漢字及假名遣ノ困難アルニヨリ、視話ニテ得

タル言語ヲ、文字ニ聯結セシムルニハ、幾多ノ細心ナル苦辛ヲ要スルコトヲ忘ル可カラズ。余ハ、今日ニ至リテハ、啞子ノ言語習得ニハ、全然視話法ヲ用非テ、漢字交リノ文章ト特立セシムルコトヲ主張セントス。國語調査ノ大業ヲ了シテ、言文一致ノ成功ヲ見ルノ時ハ、何レノ日ヲ待タシ。噫。

明治三十三年八月十五日

相州足柄下郡酒匂村絃海書屋ニ於テ  
記シ畢リヌ。

正 誤

頁	欄	行	誤	正
20	舌頭	2	ㄛ	ㄜ
""	""	9	ㄛ	ㄜ
30	第四類			
""	高	2	ㄝ	ㄞ
""	圓廣	2	ㄝ	ㄞ
36	低	12	第二行	第三行
44	日本父音表ノ下		(甲)唇音ヲ脱ス	(甲)唇音
59		2	父韻	父音
65	濁音	3	ㄛㄨ	ㄛㄨ
""	""	4	ㄛㄨㄨ	ㄛㄨㄨ
89	第卅八圖例解		1 ㄨ	1 ㄨ
95	舌上	2	ㄛヲ脱ス	ㄛ
104	(3)	3	ㄛイ	ㄛイ
""	(4)	1	ㄛㄨ	ㄛㄨ
""	"	5	ㄛㄨ	ㄛㄨ
106	(7)	1	ㄛㄨ	ㄛㄨ
107	(8)	3	ㄛム	ㄛム
108	(9)	1	ㄛㄨㄨㄨ	ㄛㄨㄨㄨ
112	(2)	3	ㄛㄨㄨ	ㄛㄨㄨ
""	(3)	2	ㄛㄨㄨ	ㄛㄨㄨ
114	(9)	2	ㄛㄨㄨ	ㄛㄨㄨ
115	(10)	5	ㄛㄨㄨㄨ	ㄛㄨㄨㄨ

正 誤

頁	欄	行	誤	正
127		13	参考シ	参考ニ
128		5	f	のf
130		3	ooidi'	ooidi'
131		6	of	of
137		16	數フル	教フル
142		3	f=イイ	f=イ

不許複製

視 話 法

定價金六拾錢

明治三十四年四月廿六日印刷  
 明治三十四年四月廿九日發行  
 明治三十四年十月十五日再版

著 作 者

伊 澤 · 修

東京市小石川區小日向第六天町五十番地

發 行 兼 印 刷 者

大日本圖書株式會社

東京市京橋區銀座壹丁目廿二番地

代表者專務取締役 宮川保全

發賣所

東京市京橋區銀座壹丁目二十二番地

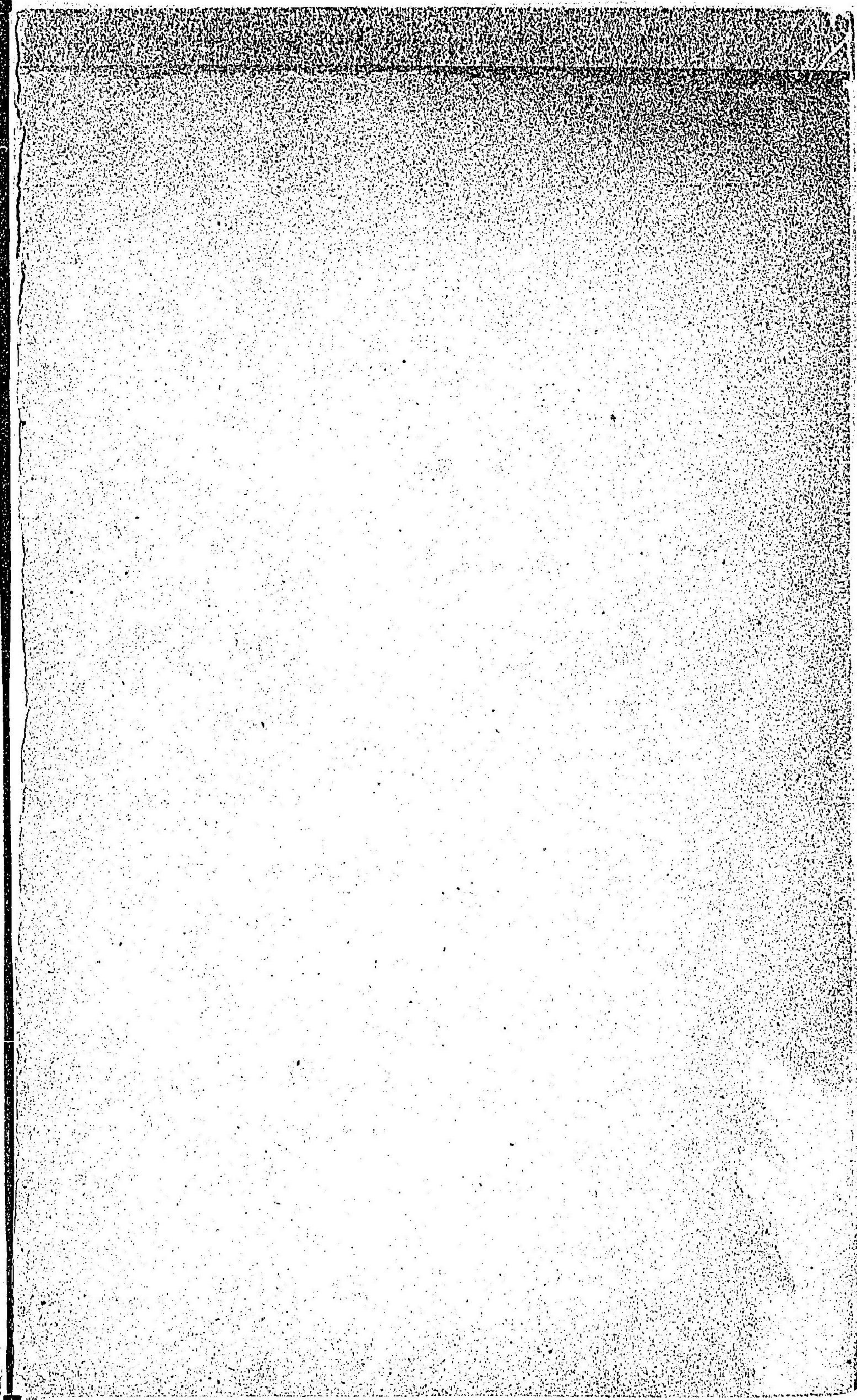
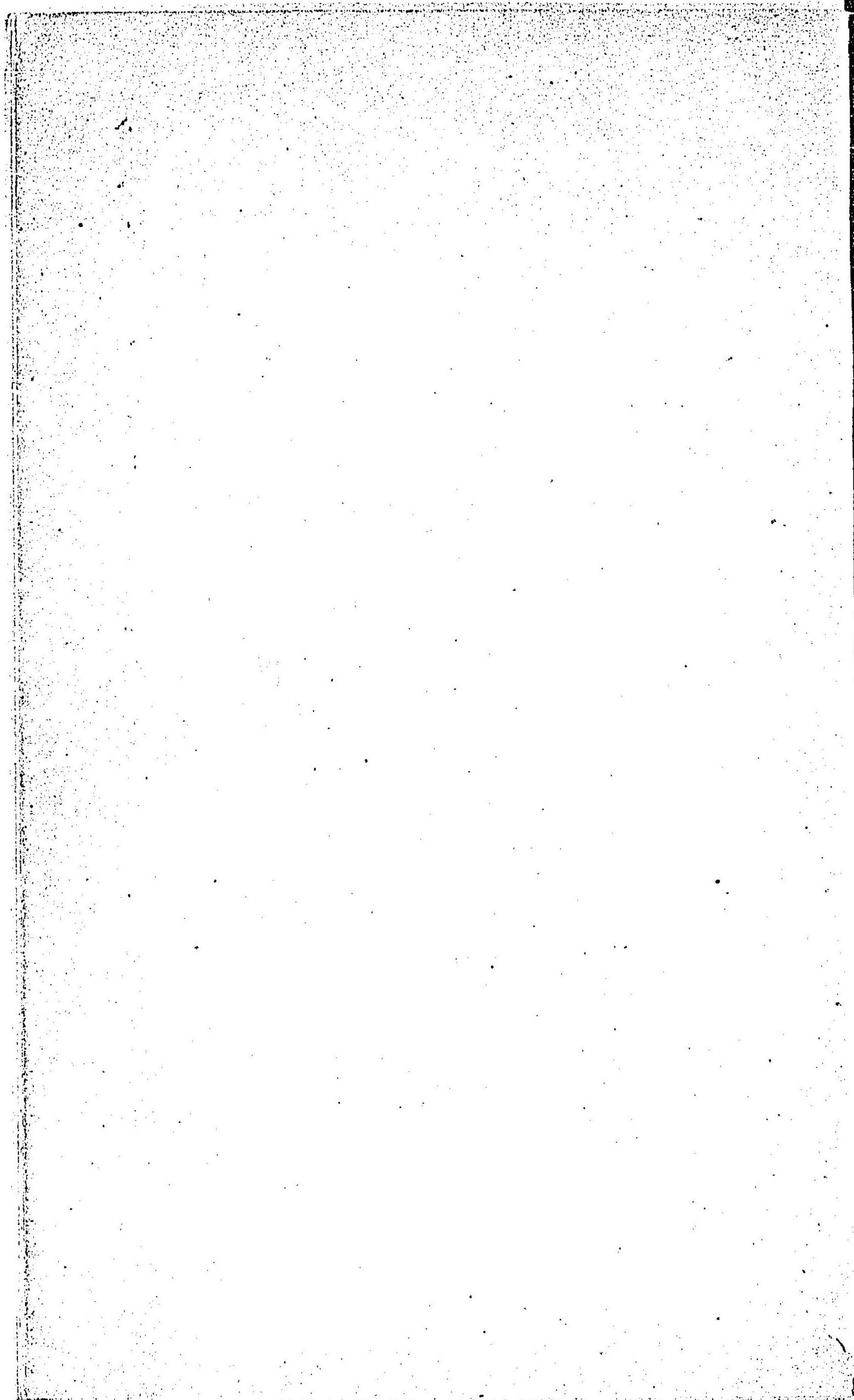
大日本圖書株式會社

大阪市東區北久太郎町四丁目十七番屋敷

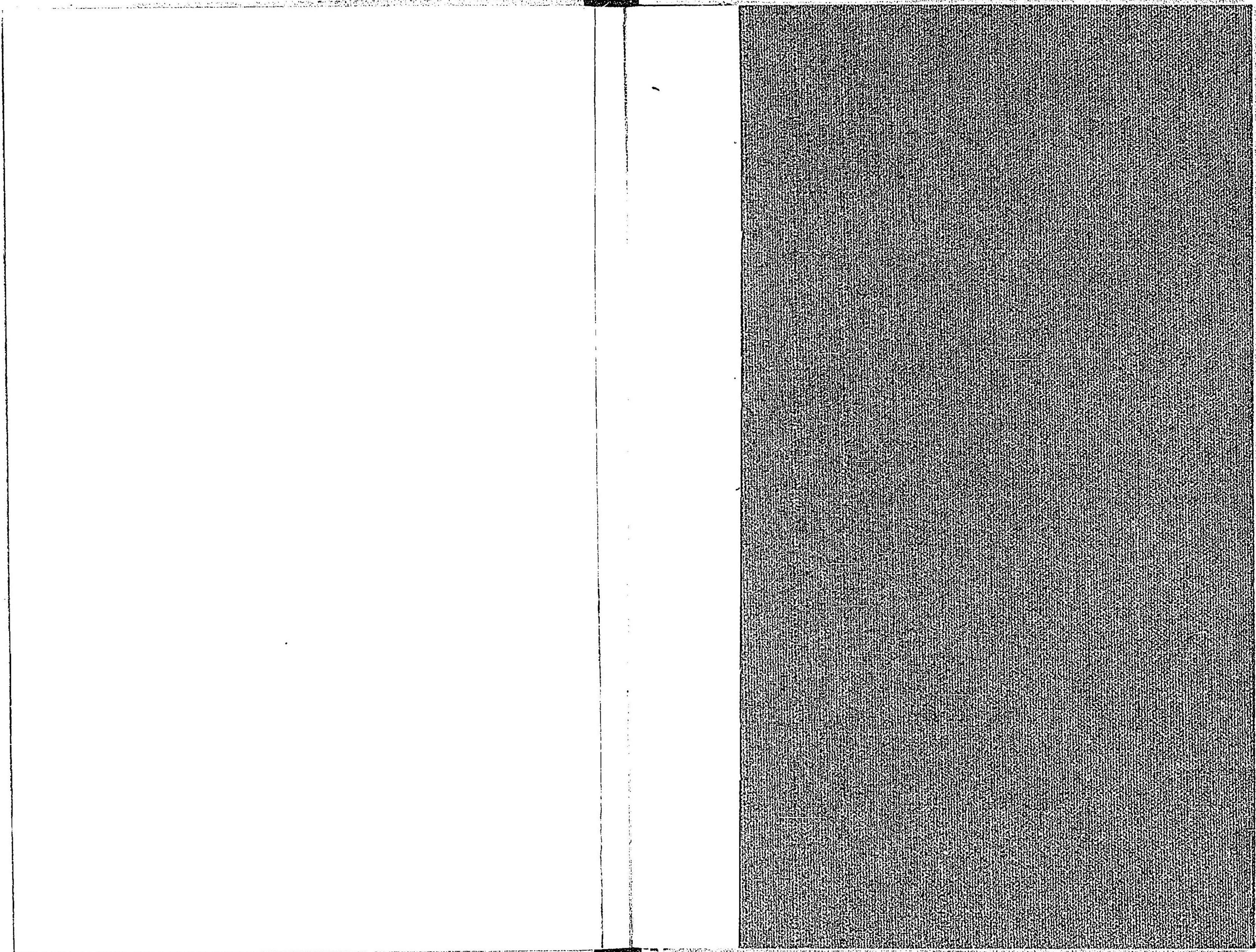
同 支 社

各 府 縣 下

特 約 販 賣 所



801.1  
1978A



801.1  
I.978A

...



076629-000-1

801.1-1978s

視話法

伊沢 修二/著

M34.

DAA-0039



